

補正

陽五鈴遺響

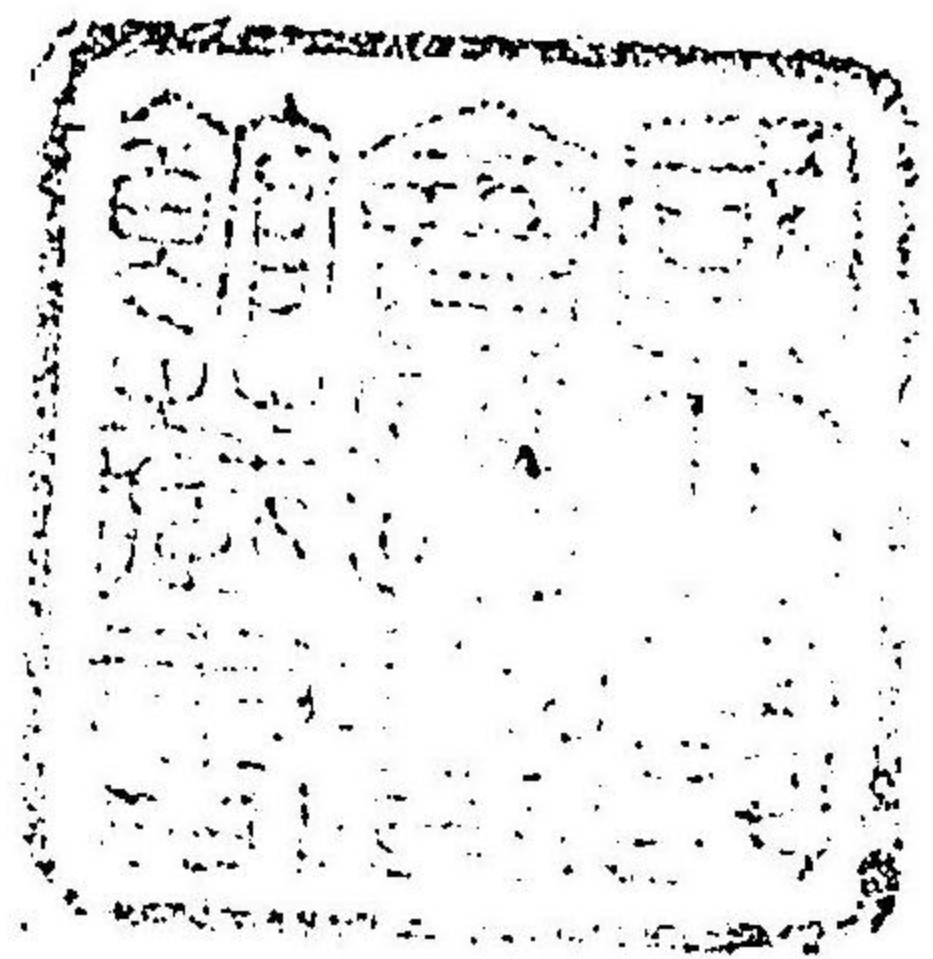
一志郡

自六卷ノ

七

291.56

Y6265



223902

志那卷之壹

わたなべ



志那 一 稱ス名義ハ古事紀曰天皇孝昭娶張連之祖奧津余曾之妹名多本田賣命生御子天押  
 命伊勢飯高君壹師君近淡海國造之祖也 倭姬命世紀曰活目入彥五十狹茅天皇即位十  
 四年乙巳秋九月朔日遷幸于伊勢國桑名野代宮四年奏齋 中畧 次阿縣造祖真桑枝大命汝國名何  
 問給白草蔭阿野國白 氏 進神田並神戶次市師縣造建昔古命 爾 參相汝國名ハ何問給白 久 害行阿  
 佐賀國白進神戶並神田壹師及市師ト録ス 續日本紀第五元明天皇和銅五年春正月戊子授無  
 位上道王大野王倭王並從四位下无額田部壹志王田中王並從五位下 同第二十八神護景雲元  
 年春正月己巳御東院詔曰今見諸王年老者衆其中或勤勞可優或朕情所憐故隨其狀並賜爵級宜  
 告衆諸令此意焉无位依智王篠島王廣河王淨水王名方王調使王飯野王鴨王壹志濃王並授從五  
 位下 日本後記卷十一弘仁四年春正月乙卯朔丁丑制ノ令伊勢國壹志郡尾張國愛智郡常陸國  
 信大郡但馬國養父郡貢郡司子妹年十六己上二十己下容貌端正爲采女者各一人 三代實錄第  
 三貞觀元年十一月十九日進參河介壹志宿禰吉野並從五位下 又人名ニ逸志アリ 文德實錄  
 卷一嘉祥三年五月甲午從五位下中臣朝臣逸志爲神祇大輔 同卷ニ同年九月乙亥朔乙酉遣少  
 納言從五位上中臣朝臣逸志藤原朝臣恒雄並叙從五位上鎌藏王內藏頭從五位下中臣壹志等向

伊勢國依例奉幣別獻納馬五疋以充神御一本伊勢大神宮及細馬五疋ニ作ル 同第三仁壽元年十一月甲午 又

同第五仁壽三年夏四月庚午遣侍從五位上島江王神祇大副兼內藏頭從五位上中臣朝臣逸志等向伊勢大神宮請除灾疫 同秋七月丁未遣散位從五位下齊金世王神祇大副從五位下中臣朝臣

逸志散位從五位下齊部宿禰伴主等向伊勢大神宮奉幣攘災厄也 大和國市磯ハ名同トイヘル 十市郡ニ隸ノ市ノ字ヲ假リ伊知伊智ヲ略シ轉ノイチシト訓ス日本履中天皇紀ニ載タリ本州

ノ壹志ハ唯イシト訓セリ後世字音ニ據テ一志ト訓スナリ前ニ云三代實錄第三參河介壹志宿禰イシト點ヲ附タリ然ルニ其壹師市師モ同ク假訓ニノ字義ナキニ似タリ准后親房洞津考云

天の日別にみたりの子ありけるを百舌雄は高山の度會にとまり天富饒はいしの郡しりきてこゝは都々藻別しりにける既にいしの郡ト古訓ヲ稱セリ蓋和州ノ例ニ據リ又壹師市師各

イチノ訓ニ讀ヘキ理ナリ此二義ニ踰踏セリ或云壹師及市師ハ本州ノ安濃ニ隣ノ中央ノ地ナリ四方民庶聚會ノ上古モ一志ノ驛舍所置ニノ市鄣ニ聚リ會スノ意ナリ壹師モ同シ第一ノ郡

縣ニノ師聚ノ歸ク處ナリ 詩經公劉篇曰陟南岡乃觀于京師之野朱注曰京高丘也師聚也蔡邕獨斷曰京大也師聚也云此ノ謂ナリ 今詳ニスルニ上世ノ名ヲ稱スルニ字義ニ拘泥スル

ナシ假字ノミ上説ハ鑿ニ過テ未稽ノ言ナリ憶フニ桑名郡桑名安濃郡安濃一志郡一志各古昔郡家ヲ所置ノ地ニノ俗ニ其郡ニ郡名ヲ稱スルヲ親里ト云 此三處ニ限リテ今ニ稱スル同シ其

一志ト名クルハ義未詳或云木郡ハ山河絡繹ノ巨巖怪石多シ今憶フニ雲津川水源ノ村落伊賀州界ニ至テ然リ故ニ石ヲ稱ノ壹志ハ假字ナリ又詮スルニ俗譚ナリ壹市ハ孰レ音訓ニ從テ二

音讀ヘシ然ルヲ後世好事ニ至テ一音ニ訓セシナリ然ルニ其名義愈々解スルヲ得ス姑ク闕如セリ 拾芥抄云壹志今云飯町ト載ス其時然稱スルニ據レリト云ヘル今ハ不然何ノ義ニ據

ルヲ不知、又安濃郡ヨリハ本郡ヲ指ノ西郡ト稱ス西位ニ所在ナレハナリ 和名類聚抄第六壹志郡 八太 鉢多 日置 比於木 嶋貫 之末 沼木 須可 須加 小河 乎加波 吳部 久禮倍 岩野 多木乃 民

太三乃多 餘戶 以上 今詳ニスルニ八太ハ八多アリ日置ハ日置アリ嶋貫ハ嶋貫アリ須賀ハ須可アリ小河ハ小河アリ吳部ハ星合ナリ岩野ハ岩ハ多木即愛宕ヲタギト訓スルニ同シ今

村邑ニ瀧野川アリ民太ハ深瀧田ノ名ニシテ沼田俗ニヌタト云三乃多ハ轉ニノ今村邑ニ美野田アリ此郷名ニ合ヘリ詳ニ本郡戸木村敏多神社ノ條ニ載タリ和名鈔ニ所載郷名ハ西位ハ八

太ヲ限リ東位ハ海ヲ限レリトス餘戶ハ驛家ニ同ク郷ノ名ニ非ス延喜式第二十二曰凡郡不得過千戶若餘五十戶以上者分隸比郡地勢不宜分者隸入他郡若不得已而應分者別錄申官 稽ル

ニ五十戶以上ハ其郡ニ分置處ニノ所謂餘戶ナリ本州桑名郡ヲ魁トノ郷名ヲ分置セルヲ閱ルニ稍ク安濃及本郡ニ始テ民邑多シ又度會郡ニ至リ次第ノ村落多キニ至レリ然レハ本郡始テ

餘戶ノ所置然リ他郡ニ此名ナシ志摩州英虞郡ニ餘戶アリコ、ニ例ノ識ヘシ 神鳳抄云一志

壹三

郡神戸二百五十町三段六十步御神酒六荷白鹽一石二斗祭料並造酒米二石懸刀稻四十束荷前  
 御調糸四紡三疋 同有名未識神封 內宮瓜生御園 內宮近連神田 內宮永用御廚 內宮若  
 栗御廚 同平津御廚 同坂本御廚 同曹司御廚 澁河御廚 出口神田重富神田 外宮小社  
 御廚 德友御廚 外宮本平御廚 坂本御廚 外宮一松御廚 二宮大原御廚 內宮永用神田  
 西園御廚 西濱御廚 永藤御廚 松高御廚 下牧御廚 外宮荷前神田 吉清御廚 外宮  
 神領目錄所載未識神戸 木平御園一石 荷前神田五斗稻木御園 一松御廚六月鹽三斗九升  
 九十二同 西濱御園鹽二駄 利松名上分二石 園御廚 常富御園 下牧御園 六月菓子  
 九月米一斗十二月菓子 太原御園六月紙十二帖二柄三度御祭勤 本郡疆域伊勢國風土記曰  
 東西十三里南北三里上世ノ里程ニノ今ト異ナリ西ハ伊賀州山田郡伊賀郡名張郡大和國宇陀  
 郡ヲ限リ東ハ東海ヲ限リ南ハ飯高郡界ヲ限リ北ハ安濃郡界ヲ限レリ 本郡界域行程本郡大  
 村ノ内一ノ坂ヨリ伊賀州山田郡馬野坂下村へ二里十九町十一間鬼窟越ト稱ス牛馬通ストイ  
 へ正嶮路ナリ嶺通リ四方エ徑アリ山田郡諸邑へ通ス又本郡谷袖ヨリ同州坂下村へ二里半又  
 本郡小倭ノ内入道垣内ヨリ伊賀州伊勢郡伊勢地村へ二里十九町國堺迄七町伊勢路ヨリ一里  
 塚伊賀州ノ内ニ隸セリ垣内越ト稱ス又本郡大原ヨリ伊賀州同郡與鹿野エ一里十一町三十間  
 西峠越ト稱ス又本郡福田山ヨリ伊賀州伊勢郡霧生村へ一里二十七町四十二間モト、ソカ嶺

ノ北ヲ經テ至ル又同岳ノ南ヨリモ至ル二里半馬不通嶮路ナリ又本郡下太郎生ヨリ伊賀州伊  
 賀郡高尾村へ一里半白井峠ト稱ス又下太郎生ノ内界カ瀬ヨリ伊賀州名張郡布生村へ九丁又  
 本郡下太郎生猿子ヨリ伊賀州同郡布生村へ八町四十二間又本郡八知ノ内小西ヨリ伊賀州伊  
 賀郡高尾村へ一里二十二町三十七間櫻峠越ト稱ス又本郡上太郎生ヨリ大和州宇陀郡神末村  
 へ一里四十五間神末ノ小邑三本松和州ノ堺ナリ又本郡杉平ヨリ同州神末村へ三十二間國堺  
 ヨリ十六町三十間大和州ノ内伊勢ヨリ一里塚アリ安濃津ヨリ村境ニ至リ十一里卅三町四十  
 五間杉平ハ津領ナリ以下準之 本郡上太郎生ヨリ大和州神末ニ至ル安濃津ヨリ村境へ十二  
 里六丁二十三間 本郡小西ヨリ伊賀州高尾村ニ至ル安濃津ヨリ村境へ十里十九町一間 本  
 郡福田山ヨリ伊賀州霧生ニ至ル安濃津ヨリ村境へ九里三十町二十一間 本郡大原ヨリ伊賀  
 州與鹿野ニ至ル安濃津ヨリ村境へ七里十二町 本郡垣内ヨリ伊賀州伊勢地ニ至ル安濃津ヨ  
 リ村境へ六里二十九町 本郡一ノ坂ヨリ伊賀州坂下村ニ至ル安濃津ヨリ村境へ三十一町十  
 三間○村邑 文祿三年檢地 百二十五村 正保二年 二百七村 明曆中雜記所載 百三十  
 邑七十 元祿十三年 百五十八村 合計 百二十九村 外小邑百二十三村 總合二百五十  
 二村 府城 一處 ○正稅高 文祿三年檢地 九万七千三百三十三石二升五合 雜記所載 九  
 万五百六十石九斗三合 內 五万八千三百一石四斗五升九合 田方 三万二千二百五十九

石四斗四升四合 畑方 外九百六十五石四升五合 新田 元祿十三年 九万九百一十一石四斗二升九合

谷柚 本郡西ノ極界ニアリ小倭郷ノ内ナリ 正税三百廿石津領ナリ 屬邑別所 一之坂アリ 一ノ坂同郡大村ノ屬邑同名各本邑ノ乾位ニアリ

上村 谷柚ノ良位ニアリ山間ニ民居ス榊原本邑ナリ七栗ノ郷ト稱ス 正税二千四百卅石津領ナリ 屬邑中村本邑ノ東ニアリ 平尾中村ノ東ニアリ 又平生ニ作ル 下村平尾ノ良位ニアリ此地ニ

上中下ヲ稱スル村邑多シ或榊原中村下村ト稱シ或大村中ノ村ト本邑ノ名ヲ各帶ノ中之村下之村ト分辨ノ其隸屬ヲ稱セリ 神鳳抄云坂木御厨内宮一斗九月 異本本ニ作ル非ナリ 又内宮七栗園御一斗六九十二即此地ノ有スル處ナルヘシ 又内宮中村拜野御厨上分一石五斗雜用ニ

石本郡ニ隸ス中村ノ名他ニナシ此ニ標ス ○七栗ハ七ヶ村ノ惣名ナリ皆ハ一處ニテ有シニヤ上村ヨリ以下ノ村邑ヲ都合シテ七栗ナリ 式内射山神社 同處中村温泉山ニアリ坤ニ向テ坐ス方俗温泉大明神ト稱ス 又湯木明神例祭

九月九日祭神未詳戸木村敏多社ヨリ西去三里半度會延經神名帳考證云射山神社猿田彦命射榮之路語榊原村七栗温泉云鑰取神此乎鑰取稱猿田彦見上榊訓榮木也此神以榮登爲名 度會

正身神名帳再考證云射山神社イヤマト訓スヘシ射ノ字ハいなリゐヲ用ヘカラスイヤマハ湯山ニテいゆ訛リ通スル例多シ今ノ榊原温泉ハ清女カ枕草子云七栗ノ湯是ナリトソ其處ニ里

人鍵取明神ト云社アリ是ナルヘシ祀神大已貴神ノ祖清之湯山主三名狹漏彦八鳥篠ナリ此神ハ大已貴六世ノ祖ニ湯山主ノ名アレハ攝州有馬ニモ此神ヲ祀ルヘキニ大已貴ヲ祀レルハ

誤ナリ又ノ説雜例集ニ七栗御園トアレハ佐伎栗栖神ノ如ク稚産靈ヲ祀ルナラン 今詳ニスルニ延經考證射山神社ノ名義ニ據テ射ハ榮ノ畧ニノ榊原ノ名モ佐加惠木ノ訓ニ據リテ此ニ

所祀ノ鑰取明神社ニ充ル祭神ハ猿田彦命ヲ鑰取ト云義ハ鑰ト具ト語相近ク此神拾貝故ニ甲斐辨羅神社ノ條ニ載タリ方俗鑰取神ト稱スルカ故ニ猿田彦大神ヲ奉祀ス處ト定タリ正身再

考證射山ハ伊屋摩ニ湯山ニ通ス故ニ榊原温泉山ノ神社トス祀ル處ハ大已貴命六世ノ祖清之湯山主三名狹漏彦ヲ定タリ或ハ七栗御園ノ地ナレハ穀靈稚彦靈ヲ祀ル處ニモアルヘシト

云勢陽雜記ニ鑰取大明神ト稱ス神風徵古録ニ祭神大穴貴神少彦名命二座トス或素盞鳴尊少彦名命泣澤女神三座ヲ祀レリト云又此地ヲ上古射山ト名ルニ據テ延喜式ニ射山神社ト云ア

リ神代ヨリ神靈ヲ清ノ湯山主ト稱シ奉ルト云前證ニ鑰取ノ俗稱ニ據リ榊原ノ名ニ從テ猿田彦大神ヲ祭ルトス又再考證ニ温泉山ニ據テ其療病醫祖ノ大已貴命ノ祖清ノ湯山主ヲ祀レリ

トシ勢陽雜記ニ此義ニ據テ大已貴少彦名命ノ二神ヲ祀トス各牽強附會ト謂ヘシ其大已貴少彦名命二座及素盞鳴尊少彦名命泣澤女神三座ヲ祀ルト云ハ延喜式ニ射山神社一座ニハ填ル

キハ二座三座ノ合祀ナシ妄ナリ其鑰取明神ト稱スルハ神鳳抄坂木ノ御厨ニ神封ノ地ニ祭神

石四斗四升四合 畑方 外九百六十五石四升五合 新田 元祿十三年 九万九百一十一石四斗二升九合

谷柚 本郡西ノ極界ニアリ小倭郷ノ内ナリ 正税三百廿石津領ナリ 屬邑別所 一之坂アリ

上村 谷柚ノ良位ニアリ山間ニ民居ス榊原本邑ナリ七栗ノ郷ト稱ス 正税二千四百卅石津領

ナリ 屬邑中村本邑ノ東ニアリ 平尾中村ノ東ニアリ 又平生ニ作ル下村平尾ノ良位ニアリ此地ニ

上中下ヲ稱スル村邑多シ或榊原中村下村ト稱シ或大村中ノ村ト本邑ノ名ヲ各帶ノ中之村下

之村ト分辨ノ其隸屬ヲ稱セリ 神風抄云坂木御厨内宮一斗九月 異本本ニ作ル非ナ

栗園御一斗六九十二即此地ノ有スル處ナルヘシ 又内宮中村拜野御厨上分一石五斗雜用二

石本郡ニ隸ス中村ノ名他ニナシ此ニ標ス ○七栗ハ七ヶ村ノ惣名ナリ昔ハ一處ニテ有シニ

式内射山神社 同處中村温泉山ニアリ坤ニ向テ坐ス方俗温泉大明神ト稱ス 又湯本明神例祭

九月九日祭神未詳戸木村敏多社ヨリ西去三里半度會延經神名帳考證云射山神社猿田彦命射

榮之略語榊原村七栗温泉云鑰取神此乎鑰取稱猿田彦見上榊訓榮木也此神以榮登爲名 度會

正身神名帳再考證云射山神社イヤマト訓スヘシ射ノ字ハいなりのヲ用ヘカラスイヤマハ湯

山ニテいゆ訛リ通スル例多シ今ノ榊原温泉ハ清女カ枕草子云七栗ノ湯是ナリトソ其處ニ里

人鍵取明神ト云社アリ是ナルヘシ祀神大已貴神ノ祖清之湯山主三名狹漏彦八島篠ナリ此神

ハ大已貴六世ノ祖ニノ湯山主ノ名アレハ攝州有馬ニモ此神ヲ祀ルヘキニ大已貴ヲ祀レルハ

誤ナリ又ノ説雜例集ニ七栗御園トアレハ佐伎栗柄神ノ如ク稚産靈ヲ祀ルナラン 今詳ニス

ルニ延經考證射山神社ノ名義ニ據テ射ハ榮ノ畧ニノ榊原ノ名モ佐加惠木ノ訓ニ據リテ此ニ

所祀ノ鑰取明神社ニ充ル祭神ハ猿田彦命ヲ鑰取ト云義ハ鑰ト具ト語相近ク此神拾貝故ニ甲

斐辨羅神社ノ條ニ載タリ方俗鑰取神ト稱スルカ故ニ猿田彦大神ヲ奉祀ス處ト定タリ正身再

考證射山ハ伊屋摩ニノ湯山ニ通ス故ニ榊原温泉山ノ神社トス祀ル處ハ大已貴命六世ノ祖清

之湯山主三名狹漏彦ヲ定タリ或ハ七栗御園ノ地ナレハ穀靈稚彦靈ヲ祀ル處ニモアルヘシト

云勢陽雜記ニ鑰取大明神ト稱ス神風徵古録ニ祭神大穴貴神少彦名命二座トス或素盞鳴尊少

彦名命泣澤女神三座ヲ祀レリト云又此地ヲ上古射山ト名ルニ據テ延喜式ニ射山神社ト云ア

リ神代ヨリ神靈ヲ清ノ湯山主ト稱シ奉ルト云前證ニ鑰取ノ俗稱ニ據リ榊原ノ名ニ從テ猿田

彦大神ヲ祭ルトス又再考證ニ温泉山ニ據テ其療病醫祖ノ大已貴命ノ祖清ノ湯山主ヲ祀レリ

トシ勢陽雜記ニ此義ニ據テ大已貴少彦名命ノ二神ヲ祀トス各牽強附會ト謂ヘシ其大已貴少

彦名命二座及素盞鳴尊少彦名命泣澤女神三座ヲ祀ルト云ハ延喜式ニ射山神社一座ニハ填ル

井ハ二座三座ノ合祀ナシ妄ナリ其鑰取明神ト稱スルハ神風抄坂木ノ御厨ニ神封ノ地ニ祭神

ヲ方俗大神宮鑑取明神ト稱ス多シ此ニ云ハ敢テ猿田彦神ヲ拾貝取ノ義ニノ鑑取ト稱スルニ非ス各從ヒカタシ式社案内記澤女神ヲ祀ルトス徵古録所載ノ一座ヲ此ニ據レリ然レ其證ヲ得難シ如ク闕如ノ後稽ヲ俟モノナリ、今神原ト名クルニ據テ神ヲ大神宮ニ獻スト云國永集ノ詞書ヲ探テ古昔ノ神ヲ此ニ牽強シ字ヲ神原ト填タルナルヘシ然レモ神鳳抄ニ坂木御厨ト出タレハ強テ神ニモ非ルヘシ憶フニ日本孝元天皇紀四年春三月甲申朔甲午遷都於輕ノ地是謂堺原宮古事紀ニ堺岡宮ト載ラル此地大和國輕村ノ大路ノ西ニ佐加紀婆羅ト云處アリ是宮ノ舊墟ナリト古ニ堺原ト稱シ後ニ轉ノ神原ト云キハ舊ハ郡ノ界ナルカ故ニ堺原ト名ケタルヲ訛リテサカキトスルニ同ク本州神原モ古ハ堺原ト名タルヲ後ニ訛リ轉タルナルヘシ今案スルニ其故ハ本郡ト安濃郡ノ堺ナルヲ以テ知ルヘシ 北島權少將國永家集 天照大神ヘ此所より神を取てまいらせ上る事のむかしはけんみつなりしなど申つれば懷舊をのふる心のほどを神にうつたゑて

世の中の人はずつれと千早振神にまかせて往む神原  
 往昔大神宮ニ神ヲ供ノ神祭ノ用ニ備フ例アリ故ニ神原ト名クト方俗ノ傳アリ前ノ坂木ノ御厨ノ謬傳成ヘシ 又同集 中村といふ所に一畝の地を挑み争ひいたつらに草薙々としてしかも蓬あつく生たりくたりての世のならひことはも過てをもほゆれと韓昌黎も故人の精粕をなめたる事といひしかことゝふるきをしたふ愚さは堯舜の民の心までをもひやられ侍る

今の世にあらるふ畔のあさましや中にさなからしけき蓬生  
 神原清岩寺にこもりいたるにかし鳥の日毎に來れば

みやま邊にすめは友とや馴來つ、軒端をちかみあさるかし鳥  
 神原の塾に十年以前山上へまうてし事などをもひ出て

うはろくの峯ふみわけしあどまでも思ひわすれぬ山の奥かな  
 今詳ニスルニ山上ハ大和州金峰山ニ非ス同郡飯福田山ナルヘシ同郡近キ地ナレハ懷舊ヲ山居ノ寂寥ニ咏セシ處ナリ

二月廿一日神原にて極樂寺の糸櫻を二首

うちなひく枝は柳の朝露にふかきいろころ糸さくらなれ  
 春風もちらさぬほどの庭の面にみたれて匂ふ糸櫻かな

ささらきの晦日神原にて社頭の花咲ければ神と人を釋して  
 千早振神の御まへに咲るむる若木の櫻末もたのまで  
 歳暮に薪をつみ置て上野へつかはすとて

榮ふへき春のとふさかねてよりのしきを積む年のくれ哉

神原より上野へこし待らんとて庭なる苔の花を

壹十

命あらは立かぬり見ん紫のゆかりわするな宿のふし浪  
たもはさる事ありて神原といふ所に年経て住侍りしに其友安性といふ老人折くこと問ひ  
などしけるか歳暮に炭を一駄にこせてうたに

山里の住うかりしや思ふらん見るめにあかぬ浦の朝影

と侍りしにやゝありて又わひて住海人のしわさをもしれとてにすへ炭を感する心にたはふ  
れてかれこれ十首

山里の住よかりける事をしもはこふなさけに今と猶しる

山里ろ住よかりけるさくときく見と見る事を悟り知るかも

山里は住うかりしを出て世にふすべらるゝるれもひ成ける

山里に浦めつらしくれもはめやかつ屋く塩のからき音つれ

山里の人はしらないやからき世にこりすまの恨ある身を

山里にやかて入んのあらましはいく春秋の花もみちろも

山里へたもひたちのくつゝられりふし毎にあさはりげん

山里のひかしかたりの友を置てくやしく出しうき世成けり

山里の人に見せはや舟うけてあさる阿漕の浦の網引を

山里や星霜ふりてろよくと眞神はらふ神風のをと

七栗温泉 同處中村ニアリ温泉ノ出ル處ハ川畦ナリ今ハ湯ノ出ル處纔ニノ浴スヘキナシ故ニ  
其泉ヲ汲テ浴室ヲ設焚テ浴スルナリ他郡及邇州ノ客來遊ノ浴泉ス處ナリ春秋ノ候ハ闇熱ナ  
リ 夫木集 詞書 伏見にゆわかして大納言經信卿を呼侍けるに來たりければよみてつか  
はしける

橘俊綱

一志なる七栗の湯も君か爲こひしやますとききは物うし

新勅撰

相摸

つきもせず戀に涙をわかす哉こや七栗の出湯な類らん

堀河百首

基俊

いかなれは七栗の湯のわくかこといつも泉のすゝしかるらん

同後百首

常陸

よの人の戀の病のくすりとやな、栗の湯の涌かへるらん

丹後守家百首

盛忠

かた／＼に出湯はたほく聞しかと七栗へころわきて來にけん

壹十一



しるしあらは七栗の湯を七かゝり戀の病の御稔にやせん

清少納言枕草紙云 湯はありまなぐり 今詮スルニ八雲御抄云七栗ハ信濃ニアリ微古録云一説信濃地名考云七栗ノ名ハアリ湯ハナシト云 云藻類草類字名所鈔等同説ナリ 伊勢名所拾遺云古老傳云一志郡七栗といふ所に湯ありこれをなぐりの湯といふ津より坤方四里云 同追考由章云八雲御抄ニ七栗ハ信濃ニアリト云ヘモ彼國ニ七栗ノ名更ニナシ此處ヲ信濃ト云タルコトニテ當國ニウタカヒナシ云 云然レモ東間ノ御湯七栗ノ湯犬養ノ湯信濃ノ御湯等古典ニアリ温泉ナシト云モ其徵ニ不足前ニ夫木集一志なる七栗云云ノ歌神風抄七栗御園ト載ルニ論ヲ不容本邑ヲ所稱ナリ猶温泉ニ浴スコトハ源國永集ニミヘタリ永祿中ノ人ナリ猶舊クヨリ浴セシノ徵ナリ今温泉ノ涌ク崑石ノ上ニ額ヲ掲ク神湯ト書ス村雲御所染筆ナリ温泉山ノ川ノ向フニ方俗介石山ト稱スアリ多ク石介ヲ出ス螺蛤蛤ナリ 羅山文集曰開闢之時洪荒之代土壤之聚凝未必無遲速故山上有螺蛤殼者是水沫凝固也云 是確論ナリ諸本及三才圖會海槎餘錄諸州府志等ニ載テ海西ニモ多シ凡テ本邦諸山名區靈場ニ産スル地アリ俗傳ニ奇異ナル者ハ神佛ニ託シ及高僧ヲ冒ス類常譚ナリ文明ノ化ニ俗ノ今俗識者多シトイヘモ往々其地ニ誇罵ル者ナリ怪惑ヘカラス猶此地ヨリ安濃郡長野柳谷ニ續テ多産セリ其所在

神原城墟 同處ニアリ仁木右京太夫源義長十一代後裔神原信濃守氏經歷代此ニ住ス永祿年中大和州宇陀郡ニ於テ戰死ス其男神原三左衛門尉父子國司北畠信意ニ屬ノ北畠家斷滅ノ後織田信長ニ屬ス天正十二年木造城軍陣ノキ神原刑部少輔同羽野ノ陣營ニアリ後織田上野介信包ニ屬ス奄藝郡上野在城ノ時同郡中山村ニ住ス其地ニ病卒ス又越後國高田城主神原家系ハ本國伊勢神原信濃守氏經ノ弟神原右衛門佐長政長男同式部大輔康政ヨリ傳系ノ今神原ト稱ス伊賀國仁木ノ流ニシテ此ニ居ス故ニ右衛門大夫長政ノ弟釋迦寺ノ住侶ニシテ其寺廢ノ田圃ノ字ニシヤカ地下云遺跡アリ又其弟ニ神原左京進入道法名休齋慶長年中安濃津城主富田信濃守知信ニ屬ス此地ニ病卒ス其男神原八右衛門尉藤堂和泉守高虎ニ奉仕ス

○ 神原家系

神原信濃守氏經

神原刑部少輔

永祿中大和州戰死

神原三左衛門尉

神原右衛門大夫長政

神原式部大輔康政

釋迦寺

法名休齋

神原左京進

神原八左衛門尉

蠅田 神原平生ノ東ニアリ正稅六百七石津領ナリ 屬邑北出本邑ノ北ニアリ久居領ナリ

佐田 榊原中村ノ坤位ニアリ安濃津ヨリ坤位五里小倭郷ノ内ナリ舊ト小倭庄ト稱ス處也和名

鈔ニハナシ 正稅九百九十七石津領ナリ 屬邑奥佐田本邑ノ乾位ニアリ

佐田口城址 同處ニアリ天正年中盛長越前守住セリ

同 南出城址 同處ニアリ同年間年吉懸三大夫入道居セリ

同 奥城址 奥佐田ニアリ堀山次郎左衛門尉居セリ

北畠國司家執政ノ時ヨリ小倭郷七黨ト稱スアリ俗ニ七人衆ト号ス所謂 臼木 久須見 堀

内 吉懸 岡村 庄山 松岡 松田 益田新シ 滿賀野 馬場 重岡 稻垣 小泉等ノ一

黨ナリ天正四年丙子國司具教滅絶ノ後其裔北畠具親兵ヲ舉ルニ及テ此黨モ舊主ノ恩ヲ願テ

北畠具親ニ屬セリ然ルニ其時ハ織田信雄ヨリ令ノ小倭郷ハ瀧川三郎兵衛尉柘植三郎左衛門

尉木造長野左京進ニ頒テ領セシム故ニ此三臣發向ノ小倭黨ヲ平定セリ天正十二甲申年木造

舊領分小倭郷領分ハ織田上野介信包ニ屬ノ岡村修理亮長野左京進ヲ居シム後ニ八幡山ニ新

ニ城壘ヲ築ギ住セリ福田山領主福出山帶刀ト左京進及傷ニ及テ互ニ亡ス故ニ八幡山城織田

信包命ノ其臣守岡金助ニ給フコ、ニ病死ス其男守岡助之進播州ニ至リ羽柴秀吉ニ屬ス後ニ

浦生飛彈守氏郷ニ仕フ又同年間ニ佐田口ノ城ハ小倭黨盛長越前守同南出ノ城ハ吉懸三大夫

入道同奥ノ城ハ堀山次郎左衛門尉住セリ三城各浦生飛彈守カ爲ニ滅亡ス小倭七黨ハ各紀氏

ニノ紀貫之カ裔ナリ詳ニ伊勢兵亂記ニ載タリ其餘此郷ノ古城址ハ村邑ニ名アルモノ各條ニ

載ス 天正十三甲申年小倭黨岡村修理亮長野左京進等浦生氏郷ニ屬スヘキヲ使令ノ通シケ

ル其時氏郷木造城ヲ擊ンカ爲戸木ノ陣ニアリ戸木ノ城ニ軍士ヲ置自ラ小倭ニ發ス其軍卒一

千余小倭佐田口ノ城ヲ擊城主盛長越前守敗ノ退ク出城ヲ陷ス城主吉懸三大夫入道浦生ノ臣

八角彈正忠カ爲ニ討ル吉懸カ男市之丞軍ヲ駈破テ奔ル又奥佐田城ヲ陷ス北畠具親伊賀州ヨ

リ安保大藏少輔ヲ使トノ軍ヲ和セシム故ニ城主堀山次郎左衛門尉城ノ退ク

紀貫之墓 同處淨光寺境内ニアリ淨光寺ハ古昔大刹ニノ相傳惡七兵衛平景清再興ス處ナリ或

云加藤景清ナルヘシ平景清ト同名ヲ以テ混セリトス地境ニ結界墳ト稱ノ四處ニアリ經塚ノ

類ナルヘシ其中ニ紀貫之カ古墳ノ一堆アリ貫之孝元天皇皇子彥太忍信命ノ裔武内宿禰十一

世ノ孫ノ望行ノ男ナリ延長八年任土佐守天慶八年三月廿八日任木工頭天慶九年卒作者部類

ニ載タリ又紀氏新撰ノ序ニ立蕃頭從五位下ト記ス又無名鈔云貫之かとしこる住ける家のあ

とは勘解由の小路より北富の小路より東の通りなりト載ス天慶九年ノ卒ハ分明ニノ瘞埋ノ

地ハ所據見ナシ又土佐ノ任國ハ土佐日記ニ詳也本州ニ下向ノ事ハ其徵ナシ或ハ其靈ヲ祠ニ

祭リタルハ江州志賀郡正光寺村ニアリ蟻ナシノ宮ト稱ス稽ルニ袋草紙引貫之集曰世の中の

こゝろほろくをほへて常のこゝろせざりければ源の公忠朝臣のもとに此歌をなんよみてた

くりける間殊に病になりてれもく成にけり

手にむすふ水にやとれる月影のあるかなきかの世に社有けれ

此地正光寺村ノ山下林間ニ小祠アリ石燈籠ニ基ヲ設テ鳥居モナシ哥ノ意ニ據レハ葬地ニモアルヘシ然レ江州ニ其因ヲ得ス又本州ニ葬埋ノ地其徴ナシ今稽ルニ同郡大仰ニ眞盛上人誕生ノ地アリ上人姓ハ紀氏貫之十八世ノ孫ト相傳ス猶小倭七黨各紀氏ヲ稱セリ然レハ其遠祖ヲ崇メ祀リ墳ニ築キタルナルヘシ或ハ紀氏ノ本州ニ遺存ノ小倭七黨ノ中ノ祖ヲ葬埋シタル處ニ謂ヘシ孰レ貫之墳ト偏ニ稱スルハ臆斷ナリ今ニ至テ本郡古市村ニ紀氏ノ裔民間ニアリト云ヘリ舊ト小倭庄ト稱ノ東鑑文治三年預所廣元ト載タリ明應七年ハ新長門守經成總裁ノ領ス國司北畠家ニ屬セリ又永祿天正ノ間ハ小泉氏等ノ七黨領地ノ領スル處ナリ

上村 佐田ノ坤位ニアリ小倭郷ノ内ナリ久居城ヨリ伊賀州上野街道ニ民居ス小倭上ノ村ト名ク正税八百七十七石紀州白子領津領入組ナリ本邑ハ津領ナリ 屬邑辻村本邑ノ西ニアリ又一ノ坂其北ニアリ各紀州領ナリ公牒ニ上野村ト載テ分辨セリ

光曜山成願寺 同處ニアリ眞盛宗 開基眞盛上人本州三箇寺ノ其一ナリ其餘ハ安濃郡津府ノ西來寺飯野郡射和蓮生寺ナリ 明應三甲寅年當郷ノ住士新長門守經成法名眞久入道ハ國司教具ノ執政ナリ眞盛上人ニ歸シ邸舎ノ傍ニ一寺ヲ創造シ成願寺ト號シ上人ヲ接待シ不斷念

佛ヲ執行シ一七日法筵ヲ設ク一族百餘人歸入シテ自今香華所ニ託シ一紙ノ誓盟ヲ上人ニ呈ス其盟文今ニ當寺ニ藏メ存セリ 本尊阿彌陀佛及眞盛上人自刻ノ壽像アリ上人ノ傳ハ同郡大仰村ノ條ニ詳ラカニセリ

中ノ村 上ノ村ノ異位ニアリ小倭郷ノ内ナリ伊賀街道ニ民居ス 正税三百九十九石津領ナリ南出 中ノ村ノ南ニアリ小倭郷ノ内ナリ 正税三百五十七石津領紀州白子領入組ナリ南出城址 同處ニアリ小倭黨吉懸三大夫入道居セリ天正十二年蒲生飛彈守氏郷ノ爲ニ敗ノ廢セリ

大村 中ノ村ノ東ニアリ小倭郷ノ内ナリ伊賀街道ニ民居ス隣比ノ諸邑ニ勝レテ大ナリ故ニ名ク正税千七百九十石津領ナリ

垣内カイト 小倭上ノ村ノ西ニアリ舊名入道垣内ト稱ス今畧シテ垣内ト云小倭郷ノ内ナリ安濃津及久居府ヨリ伊賀州上野城及同州名張ヘ街道ナリ方俗安保越ト云同郡三波新田ヨリ月本小川ヲ歷テ大村ニ會シ垣内ニ至リ伊賀州伊勢地村ヘ至ルナリ 正税九十石津領ナリ

布引山 同郡榊原山堺ヨリ小倭郷ノ西ニ長ク偃リタル山ナリ形布ヲ偃タルカ如シ故名ク此嶺ヲ越テ伊賀州ニ至ル或ハ波多横山ハ此ナリト云ハ非ナリ 鴨長明伊勢記云 二見の音なし山にのほりて海山を遙に見けるに布引山を見てよめる 又夫木集ニ載ス

嵐ふく雲のはたてのぬきをうすみ村さるわたる布引の山

度會郡二見浦及朝熊嶽ヨリ西位ニ當リテ鈴鹿山經ケ峯等ノ南ニ連リテ眺望スルニ陣裏ニ龍蛇ノ偃カコトシ

稻垣南出ノ西ニアリ小倭郷ノ内ナリ正稅四百八十石津領ナリ

稻垣砦址 同處ニアリ天正年中岡村修理亮居セリ其男岡村清次郎嗣ヲ修理允ト名ク外戚福田

山帶刀ト長野左京進ト常ニ不快ナリ故ニ修理允モ左京進ニ矛盾ス一日安濃津ニ詣ストテ半田

山ニテ遇フ馬ノ鎧ニ支シトテ修理允憤リ左京進ヲ劍ヲ拔テ撃ツ從士等挑戰フ左京進カ卒鎗ヲ

以修理允ヲ突ク即死ス故ニ左京進民家ニ入テ自殺ス此時ニ斷滅セリ

八對野 稻垣ノ西ニアリ 正稅千二百二十五石津領ナリ

八對野城址 市川喜兵衛尉領シテ居スル處ト云

山田野 八對野ノ西ニアリ 正稅八百八十石津領ナリ

山田野八幡城跡 同處八幡山ニアリ天正十二年長野左京進居セリ織田上野介信包ニ屬ス稻垣

岡村修理允ト争ヒ死ス其趾亡ス事跡前條ニ載タリ

古市 南出ノ南ニアリ小倭郷ノ内ナリ正稅三百九十四石紀州白子領ナリ

岡村 大村ノ北ニアリ小倭郷ノ内ナリ 正稅二百九十四石紀州白子領ナリ

稱明寺 同處ニアリ高五斗二升紀州領主ヨリ免許

三ヶ野 岡村ノ良位ニアリ小倭郷ノ内ナリ正稅千四百三十五石久居領ナリ 屬邑中ノ村本邑

ノ東ニアリ下ノ村中ノ村ノ東ニアリ笹ヶ原大村ノ東ニアリ三ヶ野中ノ村下ノ村ト方俗分辨

シテ稱ス

大鳥 三ヶ野下村ノ良位ニアリ七栗郷ノ内ナリ 正稅百八十三石久居領ナリ

一色 大鳥ノ東ニアリ七栗郷ノ内ナリ 正稅九十三石津領ナリ 屬邑上垣内本邑ノ東ニアリ

紀州白子領ナリ 一色度會郡及朝明郡同名アリ

泉福寺 同處ニアリ紀州領主ヨリ高一石免許アリ

多野田 一色ノ良位ニアリ和名類聚云民太郷ナルヘシ 正稅二百七十三石久居領ナリ 屬邑

東多野田本邑ノ東ニアリ雜記不載明曆中後所置ナルヘシ 或ハ多濃田ニ作ル

中村 一色ノ良位ニアリ七栗郷ノ内ナリ 正稅五百二十七石久居領ナリ 屬邑上津前東ニア

リ菴蕪郡窪田大寶院領ナリ

森村 中村ノ良位ニアリ七栗郷ノ内ナリ 正稅千四百四石久居領ナリ 屬邑加村アリ本邑ノ

川ノ良位ニアリ

森城跡 同處ニアリ永祿天正中堀金左衛門尉居セリ伊勢軍記ニ載タリ

庄田 森ノ巽位ニアリ七栗郷内ナリ 正税四百九十八石津領紀州領入組ナリ三百七十八石三斗三升八合民家七十戸白子領 二十石六斗四升民屋十二津領ナリ 屬邑中川原本邑ノ南ニアリ 沓掛本邑ノ東ニアリ 入田本邑ノ西ニアリ 神風抄云内宮生田御厨六斗神風徴古録ニ生田ハ庄田ニ同ク此處ナリト云然レモ眞否ヲ不知 宇佐八幡祠アリ紀州領主ヨリ高一石五斗免許

庄田城址 元久年中庄田三郎佐房同子息庄田師持等所據ナリ東鑑第十八元久元年四月廿一日甲寅晴武藏守朝政飛脚至着申云去月廿三日出京爰伊勢平氏等塞鈴鹿關所素嶮岨之際縱雖不遂合戦人馬依難通之廻美濃國同廿七日入伊勢國擬計議自今月十日至同十一日合戦ス先襲進士三郎基度朝明郡富田之館挑戦移尅誅基度並松本三郎盛光同四郎同九郎等次於安濃郡攻擊岡八郎貞重及子息伴類次到多氣郡與庄田三郎佐房同子息師持等相戦彼輩遂以敗北ス 今稽ルニ東鑑ニ多度郡ニ到テ庄田三郎ト相戦フト記スハ恐ハ傳寫ノ誤ナルヘシ朝明安濃及一志郡ハ平氏ノ常居ニノ飯高及多氣度會ニ瀧原合戦ノ外ニ平氏ノ城居スル處ナシ然レハ安濃ヨリ本郡ニ暨ヒテ此庄田ノ城ナルヲ必セリ又庄田ノ徵ハ朝明郡ニ富田三重郡ニ松本ト次第ノ庄田ノ稱ヲ名スルハ庄田ノ城ナリ其餘他郡ニ庄田ノ名ナシ古今村邑ノ更變ノ稱ハ多シトイヘモ他ニ替テ無キ處ナリ姑クコ、ニ從フ

其倉 庄田ノ坤位ニアリ 正税六十四石久居領ナリ

石橋 其倉ノ南ニアリ 正税百二十石久居領ナリ

大野木 石橋ノ坤位ニアリ小倭郷ノ内ナリ舊名大仰ト録ス 正税六百五十四石津領ナリ

屬邑片山本邑ノ巽位ニアリ 中村本邑ノ巽位伊賀街道ニ居ス度會郡同名アリ 外宮神領目錄云外宮當時御勢大之木村米三斗五升入二俵銀十八匁 大野木川アリ橋ヲ架ス千鳥橋ト稱ス其義未詳

眞盛上人出誕地 同處ニアリ出胎ノキ産湯ノ井ト稱スアリ 江州志賀郡坂本郷大窪村戒光山西教寺智禪院中興開山眞盛上人ハ本州一志郡小倭郷大仰邑ノ住人孝元天皇四十代後胤土佐守紀貫之十七世孫小泉左近將監紀藤能ノ男ナリ上人幼ノ伊勢國司北畠大納言源教具ニ仕フ十四歳ニ及テ遁世薙髮ノ台嶽ニ登リ天台律宗ヲ究テ後ニ弘ム今ノ眞盛宗是ナリ其長賢才智量アリ國司政具同材親二代上人ヲノ國政ヲ掌シム當時平泰時明惠上人ヲ舉庸スルカ如シ後土御門天皇並二條關白殿下將軍義政細川政元畠山義就佐々木秀綱等太ク崇信ス明應四年二月晦日伊賀州西蓮寺ニ寂ス五十三歳 賜諡圓戒國師西教中興智禪院南無眞盛大上人 眞盛上人別傳

享保 巳 亥 九月

西教兼法勝住持賜紫上人

戒光山西教寺中興初祖眞盛上人別傳上人諱眞盛俗姓紀氏貫之十七世孫勢州壹志郡大仰鄉人也母西川氏常信地藏大士絕羣腥夢嚙寶珠而生上人蓋嘉吉三年癸亥正月二十八日日出時也因小字曰寶珠丸一日父謂曰汝須出家兼濟自他人上人將人寺父重曰汝學道不成不再相見上人恐永離依怙色稍不喜也父以方便呼一侍人曰是兒負我命當投大仰河侍人實之如父命合家驚走見之已不可掖時祥雲俄起攝上人去致之涯頭合家相携而歸父母難未曾有寶德元年己巳四月佛誕日上人時年七歲依沙門盛源干縣之光明寺習讀內外諸典康正二年丙子四月三日十四歲剃染命名眞盛中畧延德二年庚戌四十八歲弘法勢州建西來蓮生成願三寺明應四年二月晦日酉時於伊賀國西蓮寺遷化五十三歲諡之号圓戒師西教中興智禪院南無眞盛上人 西教寺實際評ノ曰東山羽木ノ和論語ニ少ク道德ノ一ヲ記セリ彼曰勢州ノ紀氏上部左兵衛少尉光時カ男十四歳ノ時日吉聖眞子ノ權現靈夢ヲ蒙リ一生不犯念佛三昧ノ行者ナリ智禪院ト号ス法印三昧院上人西教寺開山ナリ然ルニ智禪院ハ寂巖カ傳ニモ載タリ西塔ト一院トミヘタリ當寺舊覺書ニモ智禪院トアリ三昧院ノ事ハ分明ナラス聖眞子ハ疑ク十禪寺ナラン然レモ十四歳ノ時ト云フ不審ナリ但前ノ時ニ聖眞子ノ靈夢ヲ蒙ルコアリヤ上人國師号ヲ賜事倫旨ナケレハ分明ニ定メ難シ然レモ伊賀國一國ノ寺社ノ事ヲ記シタル伊水温故ト云記録アリ全帙四卷アリ印板ニナ

シ其中ニ諡ハ圓戒國師ト記セリ上人入滅ハ西蓮寺ニノ入滅ノコヲモ三月二日ニ奏ス西蓮寺ヨリト聞ヘタリ廟所モ西蓮寺ナレハ國師号ヲ下サル、モ倫旨ハ定テ西蓮寺ヘ賜タルモノナラン然レ伊州モ天正ノ兵火ニ寺社悉ク燒西蓮寺モ其災ニ遭フ故ニ倫旨モ其時ニ燒失シタルニテ有ヘシ今傳ニ國師ト標スルハ伊水温故ニ據レリ  
實際別傳及評說飯高郡丹生智禪寺

舊錄ニ載タルヲ爰ニ記ス

勢陽要義一志郡部曰或記云云去文明十八年丙午十二月伊勢國國司發向山田悉令退治外宮社頭

迄悉燒拂其以後又明應二年癸巳八月廿二日磯城責落數百餘人誅取剩へ山田發向於齊宮瀨實檢有之陣所同安養寺也此寺有上人入御一々次第之御教訓並御開陣可然之旨有直訴處御同心上懸而安濃津西來寺令歸住其後依御歸陣延引遣此書文使ノ僧 眞明也

先日以參申候趣一々御領掌ノ條本望候唯今御神御恐肝要候太神成怒給難翻候仍未御開陣無之由承及候無心元候乍次存分趣申候凡於日本三國司在之其中別而當家者村上天皇御孫久我嫡家北畠御家公家乍武家御振舞中間大刀被持候事限當家承及候而王孫斷絶天下御望依御座先御代普光院御時神三郡山田限筋逆橋被成御判候事爲御計畧歟承及候就其折節應御所樣御他界候間御成敗實義成由承及候今度御退治此趣候歟雖然伊勢十三郡自川北八郡南五郡ノ内

神三郡申候事無餘義候御知行御成敗乍申申慮難計候 中畧 乍憚存分申候所詮先兩所關破昂此  
問御知行分今度御知行思召留候者若御運命扣候者耶其防年々之儀一々非神忠候間不審候早  
々御開陣候者外聞不可有御不足候以參雖可申入候別時念佛不得隙候間以書狀申候恐惶謹言

九月十三日

眞盛判

北島少將殿

人々御中

今詳ニスルニ雜記所載眞盛上人傳ハ伊水温故伊賀州阿拜郡長田庄長田村隣王山西蓮寺ノ傳  
記ヲ摸ノ載タリ上人誕生ノ地ハ此地ニノ入寂ハ伊賀州西蓮寺ナリ慕アリ猶傳記等詳ナリ伊  
賀國登濟新誌ニ載テ詳ニセリ併稽フヘシ

波多横山

万葉集第一 明日香清御原宮御宇天皇代十市ノ皇女參趣於伊勢神宮時見波多横山巖吹黃  
刀自作歌

河上乃湯都磐村二草武作受常丹毛冀各常處女糞手

本居宣長菅笠日記云ナリ 吉野紀行

大のき川大きな川なり雲出川のかはかみとぞいふ此川のあ  
なたも猶同じ里にて家とも立なみたりさて川邊をのほりゆくあたりのけしきいとよし大き

なる巖ども山にも道のほとりにも川の中にもいと多くてところ／＼に岩淵なんどのあるを  
見くだしたるいとたろろしかの吹黃刀自かよめりし波多の横山のいはほといふは此わたり  
ならんと縣居の大人のいはれしは實にさもあらんかし鈴鹿にもかのおとてあんなるをは  
やくいつはりなりけり勢陽雜記云湯津波村關ノ地藏中町ヨリ二丁ホト北ニ川上ト云處ヲユ  
ツハ村ト云ヘリ村ト云ヘキ民家ナシ昔ノ寺地二丁ホト北ニアリ云 云續後拾遺歌二首及白河  
殿七百首歌一首ヲ引證セリ万葉集ノ歌ナシ 伊勢名所拾遺 湯都磐村 鈴鹿郡 万葉吹黃  
刀自及續後拾遺玉吟集夫木集名寄白河殿七百首各七首ヲ引徵ノ其注ハ勢陽雜記ト同シ雜記  
所載コ、ニ據ナリ 今詮スルニ伊勢名所拾遺ニ万葉吹黃刀自ノ歌ヲ載ル據テ諸本皆コレニ  
倣テ鈴鹿郡川上ノ地トス湯都磐村ハ名所拾遺ノ牽強ニノ只續後拾遺及白河七百首ニ到マテ  
ユツハ村ト咏ス即出羽村ノ轉ニノ鈴鹿郡ニ古昔存ノ今廢セシナリ其條小野村ノ號ニ詳ニセ  
リ又湯都磐村ハ日本書記神代一書曰伊弉諾尊遂拔所帶十握劍斬軻遇突智爲三段此各化成神也  
復劍乃垂血是爲天安河邊所在五百箇磐也又斬血激灑染於石礫樹草ト同ク唯磐石ト填テイハ  
ムラト訓ス村ノ字ニ據テ村邑ノ事トスルヲ勿レ又常磐堅磐ハ舊事記曰父山祇命白送言我之  
女二竝立奉由者天神御子之命雖雪零風吹恒如磐石而常石堅石不動坐又日本書記曰生兒永壽  
有如磐石之常存 万葉集云常處女或常宮ノ類コレニ同シ此哥ノ意ハ日本書記天武卷ニ天皇

四年乙亥二月乙亥朔丁亥十市皇女阿閉皇女參趣於伊勢神宮湯津ハ巖ナリ湯ハ五ト通ス湯津ノ瓜楯ト同シ此巖ノ巖ニ美ナルヲ不老ノ長ク見ント謂ナリ然レハ湯津磐村ト云村邑ノ意ナシ何ソ荒唐ナル地名ニ填テ其徴トスルハ其非ナリ 又波多ノ横山ト徴スルハ此處ノ巖位ニ同郡八太村アリ延喜式波多神社坐シ和名類聚八太郷ナリ然レハ此地モ八太郷ノ内ナルヘシ故ニ前人皆此地ノ有トス猶古昔ノ大倭ノ京ヨリ本州ヘ至ル街道ナレハ十市皇女阿閉皇女ノ巡興セシ處ト云モ宜ナリ然レトモ此說ニ拘泥セス深ク稽ルニ萬葉集見波多横山巖ト作レハ敢テ溪川ノミヲ指スニ非ス然レモ此地山谷ニモ巨巖ハ多シトイヘモ殊ニ大仰河ト稱スル處ニ甚多シ一槩ニ拘リ難シ況大和州山邊郡仲峯山村ニ波多ノ横山一名仲峯山ト稱シ又延喜式内神波多神社坐又式内波多ノ應井神社同州城下郡羽内村ニ坐ス其地ニ波多ノ横山ト稱シ又仲峯山ト村名ニ呼フ處ナリ明日香清見原ノ宮ノ舊址ハ高市郡上居村ニアリ天武帝即位元年遷都ノ地ナリ即同郡飛鳥村ノ隣比ニ同州長谷ニ遷シ又波多ノ横山ハ長谷ヨリ波市ニ過ル邊ニアリ彼同集ニ隱ノ山をいつか越なんノ歌モ伊賀州名張郡ニ充ツ孰レ伊勢行幸ノ時或ハ齋宮群行ノ時ノ經路ニノ大倭州ニアリモヘシ同日ノ譚ナリ妄ニ本州ノ有トノミ決シ難シ其地ノ分野ヲ親見ノ古ヲ譚ヘキソ尙古ノ一端ナリ異說ヲ設クルニ非ス看官ノ訂正ヲ冀フカ故ニ標ス

井生<sup>ユカ</sup> 大野木ノ川ノ坤位ニアリ山間ニ居ス正稅千石 内二百石萬紀州白子領ナリ 屬邑平尾ア

リ井生ノ堰ト稱ス大堰アリ耕田ノ用トス○白山權現 同處山上ニアリ

川口 井生ノ西ニアリ山間ニ居セリ川口總名ニノ屬邑多シ方俗川口谷内ト云 正稅九百六石

五斗八升民居三百戶津領ナリ舊領ハ惣計三千七百七十二石トス○屬邑 御城 市場南ニア

リ 馬場御城ノ東ニアリ 出湯田 瀬古 筭所馬場ノ北ニアリ 上野 筭所ノ良位ニアリ

以上紀州領 山尾田 井生ノ西ニアリ 御衣田 小野 山尾田ノ西ニアリ 岩脇 上田

小野ノ北ニアリ 杉カ瀬 上田ノ良位ニアリ 中野 ふけ 井木 的場 筏 以上津領

ナリ上件大畧十七村トス其餘ハ小字ナリ本邑ト稱スルナシ



川口關址 的塲村ノ南ニ舊址アリ往昔關隘ノ所置ナリ是大和州ノ帝都ヨリ伊勢行幸或ハ齋宮  
群行ノ舊途ナリ 萬葉集第六 冬十月依太宰少貳藤原朝臣廣嗣謀叛發軍幸于伊勢之時河口  
行宮内舍人大伴宿禰家持作歌

河口の野邊にいほりて夜更れは妹かたもとゝたもほゆるかな  
新後撰

くもりなき月もれとてや川口の關のあら垣間こと成らん  
新千載 戀

川口の關のあら垣いかなれは夜のかよひをゆるささるらん  
新續古今

川口の關のあら垣あふ事はまどをなりとも心へたてな  
藻蘆草

川口の關のあら垣守れとも出て我寐ぬしのひくくに  
堀河百首

守る人もまた絶なくに川口の關のくきぬきはや朽にけり  
全

守る夜のひまころなけれ川口の關のあら垣道はあれども  
後小松院御製

藤裏葉卷  
守りけるくきたの關を川口のあさきにのみはたほせさらなん

名所拾遺云久岐田ノ關ハ河口ノ關ヲイフニヤ北畠權少將源國永集  
むへなれや霞へたゝる川口の關をし問へはこゝもあつまる

聖武天皇行宮趾 續日本紀十三 天平十二年十一月行幸條云同乙酉到伊勢國壹志郡河口頓宮  
謂之關宮也 同丙戌遣少納言從五位下大井王並中臣忌部等奉幣帛於大神宮車駕停御關宮十  
箇日は日大將軍東人等言進士無位安倍朝臣黑麻呂以今月二十二日丙子捕獲賊廣嗣於松浦郡  
值嘉嶋長野村詔報今覽十月二十九日奏知捕得逆賊廣嗣其罪顯處不在可疑宜依法處決然後奏  
問 同丁亥遊獵于和遲野免當國今年租 同戊子大將軍東人等言以今月一日於肥前國松浦郡  
斬廣嗣網手已訖管成以下從人已上僧二人者禁止身置大宰府其歷名如別 同乙未從河口發到  
壹志郡宿 同丁酉進主鈴鹿郡赤坂頓宮 丙午從赤坂癸未到朝明郡戊申到桑名郡石占頓宮已  
酉到美濃國當伎郡庚戌賜伊勢國百年以下八十歳已上者大稅各有差 今詳ニスルニ天平十二

年廣嗣カ亂ヲ避テ聖武帝本州ニ潛幸シ美濃州ニ至リ不破郡不破頓宮ニ坐シ近江州ヲ經テ山城州相樂郡恭仁宮ニ遷御ノ次第上件ノ國史ニ詮ナリ又和遲野遊獵ノ地今稽ル處詳ナラス孰レ川口ノ關ニ邇キ處ナルヘシ凡テ此街道ハ光孝天皇仁和年中ノ前ハ大倭ノ京ヨリ伊賀州名張郡ヲ歷テ本州ニ至リ本郡波多宮古一志ノ驛飯高郡石津清水多氣郡齋宮及小俣ニ至リ大神ニ奉幣使齋宮群行等ノ驛路ナリ又河口皇居ノ地ハ河口ノ内王住ト云地アリ方俗藤原千方居城セシ處ト云憶フニ是王住ノ名ニ據テ千方ヲ王ト稱スヘキナシ即皇居ナルヲ明ナリ  
川口城址 同處ニアリ鹿々瓜玄蕃正居ス北畠家ニ屬セリ

南家城 河口市場ノ西ニアリ正稅 津領紀州白子領入組ナリ

白山權現 俗習ニノ小倭郷ノ内往々祀レリ本邑ト北家城ノ中間ヲ雲出川流ル水源ニノ瀬戸カ淵ト稱ス巨嶮奇石多ク激流ノ處ナリ其雌頭ニ鎮德上人笈掛岩ト稱ス怪嶮アリ往昔能登州ヨリ上人白山權現ヲ笈中ニ負奉リ此處ニ至テ此嶮上ニ休憩ノ居ク白鷲七羽ニ化ノ其神七處ニ飛行小倭七處ニ止ル其處ニ祠ヲ營ノ奉祀ス今小倭ノ竹原 飯福田 山田野 八對野 井生 川口 家城ノ七處ナリ上人ノ墓ハ竹原白山權現ノ祠傍ニアリ 家城村白山社領高三斗五升免許アリ 今詮スルニ鎮德上人ノ負笈ノ説モ越大德泰澄ノ傳ニ雷同ノ羅山神社者白山佛ノ因ニ據テ本州佛刹ニ往々鎮守ノ此神ヲ祀ル處多シ日本書紀ニ據レハ菊理媛神及伊奘諾

尊泉守道者神三座トノ所謂加賀白山三所權現ト稱スヘシ神傳云泉守道者ハ伊奘諾尊ノ和魂菊理媛ハ同荒魂ナリ併祀リテ三坐トスル處ナリ今親見スルニ瀬戸カ淵笈懸岩ノ傍ニ御杖ノ木ト稱ス巨樹アリ鎮德上人ノ杖ヲ植タルカ自枝葉ヲ生ノ茂盛スルト云方俗傳アリ又深淵ノ兩岬ニ杜鵑花多シ春夏ノ間ハ甚愛ニ堪タリ此岸ノ嶮ニ海産ノ物往々アリ山溪ノ間ニ散在ス謂ナシ其故ヲ委クスルニ多氣國司館舍ヲ經營スルト泉石ノ用ニ伊勢嶋及志摩州ノ管内ノ領ナル故ニ奇石ヲ多聚テ海上ヲ舶ヲ以テ運シ雲出川ヨリ水源ニ人カヲ以牽入ケルニ巨嶮ノ溪淵ニ没メ其運ヲ得難キハ半途ニ此地ニ棄捨タルカ遺レリ故此隣比ノ村邑ニ多氣ノ石牽謠トテ今ニ至リ農夫ノ口碑ニアリ其樂云わしか殿はかためなれど跛なれど多氣のやかたの石牽の音頭取り等ノ俗謠ヲ存ス同郡多氣眞善院ノ庭中ニ泉石ノ趾今ニ遺ル孰視スルニ各海産ナリ舊傳ニ謂フ處敢テ証難シ後號同郡上多氣ノ條ニ載ス 雲津川ノ水源此地ニ藤原千方石ト稱ス常ニ逍遙ノ魚ヲ釣タル處ト云巨嶮アリ 又紀友雄大力洗水ト稱ス激流アリ千方カ事蹟ハ後號同郡城立及竹原ニ詳ニセリ

家城砦址 同處ニアリ北畠家簇下家城主水正居セリ今其舊隴ハ民家ノ傍數ノ中ニアリ古井今ニ存セリ

速總別皇子及女鳥皇女陵墓窟 北家城ノ南八手俣河ノ頭ニアリ 方俗夫婦窟ト稱ス寛保中東

都菊岡米山諸國里人談云勢州一志郡八俣河劔カ淵ニ方一丈餘ノ岩岨アリ寛文ノ頃此窟ノ中  
 二人アリ河向ノ家城村ヨリ是ヲ見テ怪ミ里人筏ヲ組テ其處ニ至ル三十計ノ女髮ヲ亂ノ空サ  
 マニ髮ノ末ヲ上ノ窟ニ漆膠ヲ以テ付タルコトクニ釣シテ苦氣モナキ体ニテ宙ニアリ里人抱  
 下サントスルニ髮放レス宙ヨリ髮ヲ切テ下シ里ニツレ行水漉キ藥ナト與ヘケレハ正氣ト成  
 リ又次第ヲ問フニ前後ヲ不知美濃國竜ケ鼻村濃州安八郡竹ケ鼻村ナルヘシ長ノ妻ナル由ヲ答フ此處ハ津  
 ノ領分ナレハ政所ニ訴フ國主ヨリ濃州ニ通ラレ迎ノ者多勢來リ具ノ歸リヌ云云今此怪譚ヲ  
 稽ルニ或云是伊勢國俗云七不思議ノ一ニノ字ハ夫婦窟ト稱ス里俗傳云此窟ニ入ルモノ多ク  
 髮毛ヲトラル、怪アリト云今憶フニ前說此窟ハ即仁德天皇ノ朝隼別王及嶋鳥皇女ノ陵墓ナ  
 リ後世ニ到リ廢ノ岳窟ノ如クニ類タルナルヘシ日本仁德紀云天皇四十年春二月納嶋鳥皇女  
 欲爲妃以隼別皇子爲媒時隼別皇子密親娶而久之不復命於天皇不知有夫而親臨嶋鳥皇女之殿  
 時爲皇女織織女人等歌曰

比佐箇多能阿梅箇儺磨多謎廼利俄於瑠箇儺磨多波柳步佐和氣能於須譬鷲泥

爰天皇知隼別皇子密婚而恨之重皇后之言敦于支之義而忍勿罪俄而隼別皇子枕皇女之膝以臥  
 乃語之曰孰據鷓鴣與隼焉隼捷乃皇子曰是我所先也天皇聞是言亦起恨隼別皇子之舍人等歌曰  
 破夜步佐波阿阿梅珥能明利等引箇慨梨伊菟岐餓宇倍能波峽伎等羅佐泥

天皇聞是歌而勃然大怒之曰朕以私恨不欲失親忍之也何暨矣私事將及社稷則欲殺隼別皇子時  
 皇子率嶋鳥皇女欲納伊勢神宮而馳於是天皇聞隼別皇子逃走即遣吉備品遲部雄播鯽磨佐伯直  
 阿俄能胡追之所逮即殺云云雄鯽等追之至菟田迫於素坦山時隱草中僅得免急走勿越山於是皇  
 子哥曰

破始多民能佐俄始枳椰摩茂和藝毛古等趣默利古瑜例磨椰須武志呂固茂

爰ニ雄鯽等知免以急追及于伊勢蔭代野而殺之云云紀中所謂菟田ハ今大和國宇陀郡宇陀ナリ  
 素坦山ハ同州同郡漆部郷曾爾谷ナルヘシ伊賀州名張郡ニ隣比ス處ナリ伊勢國蔭代野ハ今考  
 難シ疑クハ伊賀州名張郡薦生村ナルヘシ大和國ヨリ本州ニ至ル順路ニノ舊ト伊賀州ハ伊賀  
 風土記云伊賀國者往昔屬伊勢國大日本根子彦大珧天皇御宇癸酉分而爲伊賀國云云續日本記  
 云伊賀國者天武天皇白鳳九年庚辰七月割伊勢國四郡立彼國云云又倭姬命世紀鰲頭云按國造  
 本紀云伊賀國難波朝御宇隼伊勢國飛鳥代朝割置如故ト云キハ其往昔ハ本州ヨリ分置處ヲ仁  
 德天皇朝ニ復本州ニ隸屬シ天皇天皇朝ニ再ヒ舊ノ如ク今分置トスト見エタリ然ルキハ仁德  
 天皇紀ニ伊勢蔭代野ト載ラルハ伊賀ノ國ナルヘシト云モ妄ナルヘカラス然レモ此家城村ノ  
 岳窟ヲ二皇兒女ノ葬地ト指スキハ其誅戮スル地ハ伊賀國ニアリトスハ遙ナルニ似タリト云  
 ヘ凡陵墓ハ其地ヲ撰テ所築ナレハ本州ノ地ニ造ルモ故ナキニ非ス孰レ蔭代野ノ名ハ其眞ヲ

得スト云ヘ凡方俗夫婦窟ト稱シ前件ノ奇怪アルニ據レハ神靈ノ區ト謂ヘシニ皇公子ノ陵墓トスルモ然ナリ猶前輩風土記所言ノ薦生野ハ三重郡菰野ニ充ルハ非ナリ其條ニ詳ニス併稽ヘシ

北家城 南家城ノ川北ノ崖ニアリ

正稅四百二十八石紀州白子津領入組ナリ

諸國里人談云

一志郡家城ノ里八手侯河ノ水上ヨリ挑燈ホトナル火河ノ流ニ添テ下ルコト水ヨリ速シ是ヲ千方ノ火ト云昔藤原千方ハ此處ニ住ケルトナリ大手ノ門ノ礎ノ跡今ニ存セリ夫ヨリ旗屋村の塲村丸ノ内村三ノ丸二丸本丸ト云村々アリ今凡七千石許ノ處ナリ千方ハ今見大明神ト云則此處ノ生産神ナリ伊勢名所集云河口關一志郡河口トハ十六郷ノ惣名ニ關ハ何レノ處ニアリ凡不知津ヨリ坤四里藤原千方カ碑河口ノ上田村ニアリトナシ云 今詳ニスルニ分部及本邑ニ燐火アリ夏秋ノ間激雨ノ夜多ク出方俗怪異トスルニ據テ藤原千方カ寓說ニ因テ其名ヲ稱セリ此書ハ寛保年東武菊岡沾涼所著ニノ巷說俚語ヲ摘テ記ス其真ヲ探ルニ非ス大城門ノ礎ハ此地ニ非ス旗屋ハ八手侯ノ訛言ニノ旗本ノ誤ナリ的塲ハ河口谷ノ内ニアリ丸ノ内三ニ本丸等ノ名ナシ今見ハ真見ノ謬ナリ上田村ノ碑ハ妄傳ヲ摸ノ竜尙舍照近所撰名所集ニ據レリ各非トスヘシ詳ニ後號本郡城立ノ條ニ排付ノ論セリ併稽ヘシ

真見 南家城ノ西ニアリ

正稅百九十九石津領ナリ

方俗傳云天智帝朝ノ逆徒藤原千方ヲ紀

友雄家城ノ瀬戸淵ニノ斬ル其首雲出川ヲ流レテ飛行ス探尋ルコト二十餘町ニノコレヲ得タリ故ニ真見ト名ク其事實後號ニ詳ニセリ

真見城址 天正年中福田山帶刀居セリ稻垣ノ城主岡村修理允カ外戚ナリ

藤村 真見ノ北ニアリ 正稅三百四十九石津領ナリ

二侯 藤村ノ坤位ニアリ 正稅四百十石津領ナリ

城立 二侯ノ西ニアリ俗傳ニ藤原千方城ヲ築タル故ニ城立ト名ク

正稅百二十八石津領也

藤原千方窟 同處山上ニアリ

相傳云天智天皇朝ニ藤原千方將軍王命ニ叛キ伊賀伊勢ノ二州ニ横行ス其居地伊賀州 高尾村ノ乾ニアリ峯ヲ涉リテ本州一志郡庄内ノ郷ニ到テ城壘ヲ設營ミ謀畧ヲ以テ四鬼ヲ從ヒ逆意アリ紀朝臣友雄勅ヲ奉ノ追討使ニ補セラレ本州ニ下向ノ千方ヲ謀リ出シ家城ノ瀬戸淵ニ射殺セリ其首雲津川ヲ慕ヒ溯リテ飛行ス探追フコト二十餘町ニ得タリ首ヲ始テ見タル處故ニ真見ト名ク同郡真見村アリ城壘ヲ築タル地ヲ城立ト稱ス其山上ニ字ヲ千方屋敷ト稱スアリ其顛ヲ同郡八手侯ニ祀リテ每例十一月五日祭アリ方俗君ノ祭ト稱ス其地ヲ君カ野ト稱ハ八手侯舊名旗本ト名ク千方カ軍ノ旗本ト云意ナリ其骸ハ雲津川ノ末流ニ至テ川口ノ内上田ニ停ル其地ニ瘞埋ス墓墳アリ及石塔ヲ建ツ俗傳勢陽雜記ニ所載ナリ 林羅山神社考曰世傳

千方者天智帝之叛臣也千方役使四鬼所謂金鬼風鬼水鬼隱形鬼也在伊賀伊勢之間不順王命於是勅紀友雄討千方友雄乃往詠和歌送之

久佐茂幾茂和可於保畿美能久爾奈辰波伊豆久訶於爾能相美可奈留部幾

諸鬼讀之感而散去千方失勢友雄終討滅之案千方事未詳而俗說所傳亦多坂上田村曆討鈴鹿山之鬼源賴光與貞道末武公時綱保昌等爲山伏貌入大江山殺酒頭童子又令渡邊源五綱擊羅生門鬼又擊和州宇陀森鬼得其腕賴光獲其首多田滿中斬信濃國戶隱山之鬼餘五將軍亦殺戶隱山之鬼此之類世之所稱有之乎 伊水溫故引舊記云千方ニ四鬼從フカ故ニ不屈爾ル處ニ河内國大領納言ヲ勅使トノ發向シ一首ノ御製ヲ箭ニ付テ敵陣ニ射セシム四鬼是ヲ見ルニ

土も木も我大公の國なるをいつくか鬼のすみかなるらん

トノ御咏哥ナリ四鬼勅哥ヲ見直ニ吾國ニハアラシトテ忽化生ノ形トナリ大地ヲ踏破テ奈落ノ下ニ墮没ルト云其跡トテ今ニアリテ地ニ穴アリ風氣ノ通フヲ歷然ナリ千方四鬼ニ棄ラレ三國カ岳ヲ逃去リ勢州家城ノ瀬戸カ淵ニテ殺サル紀ノ朝雄頭ヲ捕テ歸洛スト云伊賀州伊賀郡霧生村ノ三國カ岳千方將軍籠居ノ地ナリ谷ハ南北十五間東西八間ノ屋敷跡アリ北向ナリ石ノ柱二本アリ長一丈一本ハ折タリ 北畠准后親房伊賀記曰村上天皇の御宇に藤原千方正二位を聊か望みしにろの甲斐なかりければこれを逆心して日吉の神輿を取り奉り三國かた

けにとりこもり千方にしたかふ處の山法師山注記三河坊兵庫の堅者筑紫坊この四人かれに従ふ此山法師かちから大木をたふし勢ひ岩石を破るゆへに官軍多く討れて既に引退くへき處討手の大將紀の朝雄六根清淨の中臣稜を誦して神功ならひなかりしにや千方終に柳のものとに縊り果にき其處を逆柳と申てた、今東條か宅地のうらとねはへたり伊勢甲和郷にも遺跡あるなり藤原千峯といふものゝ子にて鎮守府將軍に至る云々 伊水溫故評云世ニ云火鬼水鬼土鬼隱形鬼ノ四鬼ハ先注ノ法師等カ術ナリ火鬼ハ身ヨリ火ヲ出ノ敵陣ヲ焚水鬼ハ大水ヲ湛ヘテ群敵ヲ防ク土鬼ハ須叟ニ大山ヲ眼前ニナシテ敵ヲ迷ハス隱形鬼ハ己カ形ヲ隱ス是皆四人ノ法師カ所業ナリト云フ

30藤原大系圖云天兒屋根命 此間廿一代

鎌足不比等

房前 魚名

藤成伊豫守 從四位下

豐澤 備前守

村雄 河内守

秀郷 武藏守

千常 左衛門尉

千方

從四位下

世稱倭藤太

從五位下

今詮スルニ藤原千方四鬼ヲ使テ帝朝ニ叛クト謂フハ舊ト大平記第十六日本朝敵ノ條ニ天智帝ノ御宇ニ藤原千方ト云モノアリテ金鬼風鬼水鬼隱形鬼ト云四ノ鬼ヲ使ヘリ伊賀伊勢ヲ押領ス紀友雄宣旨ヲ蒙リ彼地ニ下リ一首ノ歌ヲ咏ノ彼鬼ニ送リケル四鬼惡逆ノ臣ニ仕ルヲ惡テ匿失ヌ故ニ千方勢ヲ失ノ友雄カ爲ニ誅セラル由ヲ載タリ藤原姓ハ天智天皇八年始テ大織冠鎌足ニ賜ヒテ大系圖ニ其時ニ藤原千方ト稱スナシ大平記ニ同條ニ云神日本磐余彥天皇

御宇天平四年ニ紀州名草郡ニ土跡ト云モノアリ云云今稽ルニ釋日本記引攝津國風土記曰宇稱備能可志波良能御宇天皇世偽者土蜘蛛注云此人恒居穴中故賜賤号曰土蜘蛛既ニ日本書記神武卷ニ所載ナリ天平四年ハ聖武天皇ノ時ナリ何ソ神武帝朝ニ天平ノ年号アルヘキ故ニ其杜撰妄誕例ノ識ヘシ然ルニ伊賀記ニ所謂ノ村上天皇ノ朝ニ從フヘシ蓋大系圖ヲ徵ノ倭藤太秀郷ノ孫千方ト例スルキハ村上帝ハ天曆ノ朝ナリ秀郷ハ後冷泉天皇康平年中ノ人ナリ百年餘後ニノ其孫ノ天曆中ニ存世スヘキ理ナシ是モ鹵莽ナリ村上帝朝ニ千方ト稱ス叛臣ノアリタルハ知ス大系圖ニ所載ハ千方ニ非ス千方ニ非ス行同訓ナリ其餘千方四鬼ノ說ハ國史及實錄ニ所見ナシ本朝通記卷二景行天皇條云熊襲謀反日州不朝貢冒川縣掠略疆界於是邑長速津媛迎車駕曰玆山有大石窟曰鼠石窟有數寇一曰青二曰白三曰打媛四曰八田五曰國麿倍此五寇強力暴逆集衆逆命於是帝權造行宮于來田見邑以居之乃與羣臣相議曰今多動兵衆以討之畏隱山野必爲後愁不如急襲之簡猛卒穿山排草襲之軍急迫青白二寇不能拒戰皇軍進悉殺其黨是青白己下ノ五寇ヲ載スルニ同ク此等ノ遺事ニ據テ金鬼風鬼水鬼隱形鬼ノ名ヲ設ケテ妄作スル處ナルヘシ或云古今集序ニ和哥ノ德ヲ賞ノちからをもいれすして天地をうこかし目に見ぬぬれにかみもあはれとれもはせト紀氏ノ所錄ニ同シコ、ニ據テ上古ヨリ妄譚ヲ設クモノ多シ眞ニ然リ後世ニ至テ雅俗奇ヲ說テ其州其土ニ所傳ノ弊習多シ其徵ヲ得サルハ省テ

論スヘカラストイヘ凡典故ノ志默スルニ忍スコ、ニ標出ス

福田山 城立ノ坤位ニアリ山間ニ民居ス正稅百五十五石津領ナリ

八手侯 南家城ノ南ニアリ山間ニ民居ス正稅四百一十一石津領ナリ内今計ルニ四百四十石六斗

一升六合舊名旗ト記セリ前ニ辨ス 屬邑多シ 小河内本邑ノ坤位ニアリ 宿平尾小河内ノ

坤位ニアリ 君ケ野宿平尾ノ北ニアリ脇野君ケ野ノ乾位ニアリ 雜記所載藤原千方カ首ヲ

竊本村ニ祀リテ霜月五日毎式祭禮アリ俗君ノマツリト云其里ノ名モ君カ野ト云 北畠權

少將國永集云 二侯の上に君か野といふ處をどほりけるとて八月に

君か野の露れもけなる小車を折もて御幸の跡とたに見ん

今詮スルニ源國永家集ニ所詠ハ君カ野ノ本據ニ因テ標ス處ナリ前ノ聖武天皇潛幸ノキ川口

關宮ヨリ此野ニ遊獵ノ地ナルヲ必セリ關ノ宮ノ遺址的場ヨリ八手侯ニ至ル稍ク二里許櫻峠

越ト云隣比ノ邑ナリ 續日本紀第十三天平十二年十一月甲申朔丁亥遊獵于和遲野免當國今

年租云此ニ云和遲野今謂君カ野ナリ其祭祀十一月五日トスルモ天平十二年十一月甲申朔

ヨリ計スルニ第四日丁亥ナリ今ノ祭祀スルノ前日ニ當レリ方俗君カ野君ノ祭ト稱スルハ上

古租稅ヲ免除セラル願恩ヲ報ス祭祀ノ遺習ナルヘシ千方カ習俗ノ流毒ヨリ皇恩ヲ忘失セル

ハ亦歎スヘシ千古ノ遺憾ヲ意フニ臆斷ニ似タリトイヘ凡未遠ノ確論ナリ

竹原 八手俣ノ坤位ニアリ竹原谷ト稱ス 正稅七百二十八石紀州白子領ナリ 屬邑多シ持經  
八手俣協ケ野ノ坤位ニアリ

瀨木 持經ノ坤位ニアリ 中原 瀨木ノ南ニアリ 掛脇 瀨木ノ坤位ニアリ 小原 掛脇  
ノ坤位ニアリ 波田 小原ノ南ニアリ雜記不載明曆中ヨリ後ニ所置ナルヘシ  
御厨 三ヶ野等アリ

白山權現祠 同處ニアリ高二石紀州領主ヨリ免許アリ

八知 竹原ノ坤位ニアリ八知谷ト稱ス安濃津府ヨリ坤位八里 正稅千百二十九石五斗民家百  
三戸津領ナリ 屬邑大野 竹原ノ小原ノ西ニアリ 須ヶ淵 大野ノ巽位ニアリ 橋 須ヶ  
淵ノ坤位ニアリ 平尾 橋ノ南ニアリ 灰ヶ野 平尾ノ南ニアリ 小西 橋ノ西ニアリ  
小田 灰ヶ野ノ南ニアリ 市場 小田ノ西ニアリ 大御堂 市場ノ南ニアリ 新堂 大御  
堂ノ南ニアリ 老ヶ野 新堂ノ西ニアリ 比津 新堂ノ巽位ニアリ 東川等ナリ 產物紙  
ヲ漉出ス又炭多ク需ク八知炭ト稱ス

上大郎生 八知老ヶ野ノ西ニアリ安濃津府ヨリ坤位十二里本郡坤位ノ極界ニノ大和州宇陀郡  
界ニアリ 正稅五百二十一石津領ナリ 屬邑 中大郎生 本邑ノ良位ニアリ 下大郎生  
中大郎生ノ北ニアリ 猿子 下大郎生ノ乾位ニアリ舊名鱈尾或多羅尾ト録セリ近江州ニ多

羅尾同名アリ舊名鱈尾ナリ其地ヨリ轉シ來テコ、モ鱈尾ト稱セシヲ今大郎生ニ轉訛セシナ  
リ 北畠材親記曰むかし近衛殿の餘胤とて鱈尾といふ哥よみ近江より此國に來り住けるか  
ろれか妻は通方卿の姪なるをすかしむかへともに住にけりろれから通方の卿もみろかに來  
りたまひぬる事も有とる今の中かいとの公家石といふは通方卿のとうりう有りける礎とい  
へり 今詳ニスルニ通方ハ北畠准后親房ノ祖父中ノ院大納言通方卿ナリ 中垣内ハ中大  
郎生ノコナリ  
大悲山仲源寺 下大郎生ニアリ眞言宗 此地ハ伊賀州伊勢大倭州ノ三國ノ界ナリ 往昔不動  
明王三軀ヲ安ス其二軀ハ木佛ナリ一軀ハ石佛ナリ昔兵革ノ時燒亡ノ石佛一軀ヲ今安セリ弘  
法大師作ト云 本堂ト方丈庫裏ノ間ニ溪澗ヲ隔テ獨木橋ヲ架ス伐木鳥聲ノミヲ聽テ幽棲閑  
寂ノ淨地ナリ

御嶽 八知老鹿野ノ坤位ニアリ同郡杉平ヨリ北十町山上ニアリ安濃津府ヨリ坤位十里三多氣  
或ハ三竹或ハ密嶽凡俗稱セリ 正稅百三十石津領ナリ 御嶽山アルニ據テ名ク  
御嶽權現 本邑ノ北ニ高ク聳タル御嶽ト稱ス山アリ其山ノ山腹ニ坐ス東ハ本州西ハ伊賀州南  
ハ大和州宇陀郡ニ跨リテ近邑ノ中ニ突起ノ高嶽ナリ御嶽ト稱スルハ大和州金峰山ヲ此ニ移  
スニ據リテ其名ヲ稱スナルヘシ

密嶽山 金峯寺眞言宗本堂藏王權現石脇檀彌勒佛中尊釋迦佛左脇千手觀音ヲ安置ス其餘十六

社アリ左ノ三社ハ右熊野權現中勝手明神左辨才天女 右脇ノ三社ハ右天照大神中子守社左  
 八幡宮ナリ各本堂ノ左右ニ坐ス 石階三十七級下リテ御手洗池アリ左ニ二間六間ノ拜殿ア  
 リ右三間七間ノ客殿アリ又石階八十六級下リテ黒木ノ鳥居アリ此柱ハ西ハ和州東ハ本州ノ  
 國界ナリ 本堂ノ正面ヲ限リ半ハ各二州ノ界域トス鳥居ノ前ヨリ山下ニ至リ櫻ノ行樹右左  
 ニ並ヘリ春時ハ花香爛熳トノ馥郁タル壯觀ナリ凡テ山中和州金峯山ヲ迂ノ藏王權現及勝手  
 子守神社等ヲ設ケ營メリ故ニ櫻樹ヲ多ク移シ栽ル處ナリ御嶽及密嶽ノ名モ然リ例祭正月十  
 日三月十日十二月十日土人正月十日ハ流鏑馬ヲ執行ス神前ニ菜蔬ノ供ヲ献シ鳥居ノ前ニ二  
 人立並テ箭三手ヲ射ル其的ハ溪間ヲ隔テ三十間許ニ居ク本邑ニテ執行人四人ヲ定メ隔番ニ  
 ノ毎歲前年ノ正月ヨリ獸肉不淨ヲ禁食ノ親戚ニ死穢アルハ其人ヲ除ク故ニ四人ノ黨ノ内其  
 穢ナキヲ擇テ執行ス四人其觸穢アルキハ其祭禮ヲ停ム是ヲ大黨ト稱ス亦射人ハ一七日潔齋  
 ノ薦ニ臥ノ慎ミ守リテ務ム的ヲ掌ル者モ然リ一年ノ禁戒ヲ同事ニ謹テ前九日ニ的ヲ立ツ是  
 ヲ的ノ黨ト稱ス的ノ大濶五尺三寸矢數多ク中ル時ハ九穀ノ豐饒ナリト占ス其餘三月十二月  
 ノ祭ハ社僧密法ヲ修シ郷人ノ詣スルノミニノ流鏑馬ノ式ナシ都テ古實ノ遺式アリ 往昔開  
 山未詳國司北畠家ノ執掌ノキハ本堂及鐘樓堂頭等嚴重ニノ壯麗ナリシ四時ノ祭祀モ善美ヲ  
 書セリ國司家廢頽ノ後伊賀亂ニ賊兵ノ爲ニ侵レ堂宇悉ク兵燹ニ斷滅ノ稍ク小堂ニ營ミテ數

歲ヲ經タルニ伊賀州小天狗ト稱ス修驗者正保元年三間四面ノ本堂ヲ建シ本尊ハ和州吉野山  
 藏王三尊彌勒釋迦千手觀音ヲ彫ノ安置セリ

御嶽城址 同處ノ北ニアリ天正四年御嶽左近進居セリ日置越前守孫ニノ北畠家歴代ノ臣ナリ  
 當邑ニ居ス故ニ御嶽ト稱号ス天正年中國司具教三瀬御所ニ斷滅ノキ織田信雄令ノ本田左京  
 進木造左衛門佐瀧川三郎左衛門ヲノ撃シム畿ノ小城トイヘテ要害險固ニノ陷ス事能ハス和  
 睦ノ城主左近進伊賀州ニ退ク義ヲ全ノ織田ニ屬セス其時廢城ス遺址也

杉平 御嶽ノ南ニアリ大和州長谷街道ノ傍ニ民居ス 正稅七十四石津領ナリ大和本州ノ界ナ  
 リ宇多郡神末村ニ至ル里程前ニ記ス此間ニ岩坂アリ

石名原 杉平ノ異位ニアリ街道ノ傍ニ民居ス正稅七百七十七石津領ナリ 八知ノ内老鹿野へ  
 徑アリ一里廿二町

奥津 石名原ノ東ニアリ正稅

紀州松坂領ナリ 屬邑波籠 本邑ノ北ニアリ

市場本邑ノ川西ニアリ 大久保市場ノ北ニアリ 上藤大久保ノ北ニアリ 本邑ト上多氣ノ  
 間ニ飼坂ト云アリ大和長谷街道ニノ嶮岨ナリ一名若女坂ト云

八幡宮 市場ノ西ニアリ街道ニ大鳥居ヲ建ル八幡宮ト額ヲ掲ク壁額ニノ黒漆ニノ白字磨滅ノ  
 古物ナリ炎上ノキ此額ノ遺レリト云裏書アリ近衛信基龍山公ノ筆ナリ天正年中ニ所掲ノ



古物ナリ鳥居ノ正面川ヲ隔テ鏡山ト云アリ此社祠ノ前ニ宮代川ト名クアリ土人諺曰假初ニ  
涉ルキハ甚深シ慮リテ淺ク涉レト云戒アリ當社ハ國司北畠家歴代崇敬ノ處ニノ社殿モ造營  
嚴重ナリシ處ニノ斷滅ノ後廢社ニ及ヘリ然レモ今ニ其形勢威儀ハ存セリ本社大鳥居ヨリ三  
町許奥ノ山腹ニ祠有リ

金華山崇福寺 本社ノ傍ニアリ禪宗曹洞天正年中近衛信基當社參詣ノキ當寺ニ休憩シ衣冠ヲ  
整ノ詣玉フ處ト傳ヘリ八幡宮ノ神宮寺ナリ二石一斗二升五合本社ニ國印ノ寄附アリ今詳ス  
ルニ本邑ノ名ニ奥津ト稱スハ津ノ因ナシ只其邑ノ本州ノ深奥ノ地ニアルヲ稱スナルヘシ延  
喜式祈年祭祝詞云 皇神等 能 依 左志 奉 牟 奥津御年 乎 手 肱 爾 水沫晝垂向股 爾 泥晝寄 氏 取作  
牟 奥津御年 乎 八束穗 能 伊加志穗 爾 皇神等 能 依 左志 奉者 云 云津ハ助字ニノ其深奥ヲ謂ナリ

川上 奥津ノ南ニアリ安濃津府ヨリ坤位十一里凡テ雲津川八手俣川ノ水源ナルユヘニ川上ト  
名ク 正税 津領ナリ 屬邑 上村 本邑ノ北ニアリ 中野上村ノ良位ニ  
アリ 前原 上村ノ北ニアリ 往昔ヨリ一村茶茗ヲ多ク栽テ芽ヲ採リ蒸焙ノ四方ニ鬻ク山  
城州宇治及江州信樂ノ如シ世俗稱ノ川上茶ト云  
丹生俣 川上ノ東ニアリ山間ニ民居ス丹生明神ノ祠アリ多氣川ノ水俣ニアリ故ニ名ク 正税  
百二十九石八斗一升民家三十六戸津領ナリ 正税七十石七升民家二十戸紀州松坂領ナリ

屬邑 西俣 本邑ノ西川上ニ至ル山間ニアリ  
丹生大明神 同處民家ノ傍山上ニアリ石階二十級登リテ正面本社一字 祭神高野丹生ト相同  
シ 瑞籬小門アリ右ニ拜殿廳屋アリ本社ト廳屋ノ間ヨリ藥師堂ニ至ル徑アリ 創立ハ國司  
北畠家ノ時ヨリ經營ニノ嚴ナリ

藥師堂 同所處隣ニアリ民家ノ傍ヨリ山上石階三十級登リテ右ニ本堂九間四面ナリ藥師佛ヲ  
安ス其餘坊舎ナシ國司北畠家ノ世ヨリ經營ス多氣城分野圖ニモ載タリ  
宗隆寺 同處藥師堂ノ坤位ニアリ淨土宗 多氣分野圖ニハ宗龍寺ト所載ナリ今更テ宗隆寺ト  
号ス

赤松左馬助教祐墓 同處宗隆寺ノ西芝生ノ中ニアリ方俗赤松塚ト稱ス一堆ノ石屏ヲ築テ其上  
四尺許ノ五重ノ石浮圖アリ古物ナリ銘文ナシ左右ニ石燈爐ヲ居ク左ハ全物也銘曰  
奉寄進 播州佐用郡 願主田和村淨圓  
寶曆六子二月日 小林平八  
右ハ火袋ナシ蓋ト柱ノミ遺レリ 銘曰  
享保十五庚戌 小林平 〇 缺損  
山本大五 〇

七月五日 壹四十五

赤松一家ノ浮沈ハ續大平記第十九本朝通記嘉吉元年六月條次ニ吉野日記同年同月條同三年七月條同文安五年正月條ニアリ今詮スルニ方俗所傳云赤松某國司家ヲ遷テ本州ニ奔ル國司不聽故ニ再奔テコ、ニ至ル今民家ノ傍墳墓ノ西ノ小路ニ草茫ノ地アリ方五間許除地ニノ耕耨モセス是生害ノ時辻堂ニ入テ自刎ス其堂ノ舊址ナリ又其墳ハ浮圖ノ形近世ノ巧ムニモ非ス蘇苔埋テ文字モナシ前ニ記ス石燈爐ハ古屋草紙ニ所謂播州回國ノ修行者建タル處其銘文ニ分明ナリ其支族ノ輩ナルヘシ然レモ近習ノ所設ニノ敢テ信スルニ不足 其本州ニ奔リ廢亡スル地ハ誣ルニ及ハス然レモ續大平記所載ハ性具入道嫡子彦五郎教康本州ニ僭行ノ此ニ自刎ノ亡スルト云猶子左馬助教祐備中水田城ニ居シ終ニ亡スト勢陽雜記此ニ雷同ノ彦次郎教祐國司北畠ヲ托シ奔ル山名宗全カ爲ニ自殺ス康正元年五月ト記セリ前説ト異ナリ 吉野日記赤松左馬助教祐本州ニ奔リ足利家令シテ軍卒ヲ差シ國司ニ命ノ誅伐ス其僕者二人斬殺スト云文安五年正月條ニ記ス本朝通記ト同ソ文安五年ハ康正元年ヨリ八年後ニノ年月稍ク異ナリ 猶吉野日記左馬介教祐ト標ス 通記彦次郎教祐ト云續大平記左馬助教祐文安年中備中水田城ニ居シ後ニ亡スト云トキハ吉野日記ニ相似タリ然レハ左馬助教祐此地ニ喪ノ瘞埋ノ地ト記スニモ適ヘリトスヘシ續大平記既ニ彦次郎教康本州ニ潛行スト云キハ亦此ニ脚躡スト云ヘモ吉野日記其僕者二人斬殺スト云ニ據ルニ本州仁柿村ニ自殺シ其甲ヲ此ニ遺シ

民俗所傳スル處分曉ニノ前説ニ似リ因テ憶フニ教康ハ其實遠ノ教祐其徵ニ邇シ吉野日記ハ偽撰ニノ往々異説多シト云ヘモ其眞モ相半ス故ニ姑ク教祐ニ從フ前輩所謂教康ハ前記ニ所載ト云ヘモ續大平記モ敢テ信シ難キ多端ナリ故ニ教康ヲ此ニ瘞スルト云ハ猶後ノ訂正ヲ期ス方俗赤松塚トノミ稱ノ其名徵ナリ僕者木所某自殺ノ所傳ハ飯高郡上仁柿村ノ條ニ載ス併考スヘシ

長樂廢寺 今ノ崇隆寺ノ東ニアリ多氣城分野圖ニ所載今廢ノナシ

養永廢寺 丹生俣川ヨリ東ニアリ同上今廢ス

本願廢寺 養永寺ノ東ニアリ同上今廢ス

川上杉峠口 崇隆寺ノ北ヨリ川上村ニ至ル徑アリ川上下丹生俣ノ界ニアリ 古昔多氣國司在世ノ時要害ノ防禦ヲ居テ監スル處ナリ

嶂路越口 丹生俣小路ヨリ南ニ至リ飯高郡川俣谷赤桶ニ到ル險路ナリ

諸州巡檢使ノ本州桑名ヨリ海東ノ地ヲ檢ノ志州鳥羽府ニ至リ度會郡田丸府及飯高郡丹生

ヨリ同郡赤桶ニ至リ此處ヨリ本郡多氣及與津ヨリ大和州ニ至リ又伊州ヲ歷テ再本州員辨郡石樽ヨリ丹生川及山口ニ到リ美濃州土岐郡ニ入テ歸途ニ趣カル本州檢察ノ終ナリ然ルニ間道幽僻ノ地トイヘモ古昔ヨリノ便路ナリ 多氣國司家在世ノ時要害ノ禦ヲ居テ監スル處ナリ

リ嶺路越口ト稱ス 丹生俣川ヨリ北西同小路ヨリ東西同西俣ヨリ南北 同立俣ヨリ 東國  
 司屬官ノ諸士ノ邸舎ノ地ナリ今ハ耕地トナリ詳ニ多氣川ノ水源飯高郡上仁柿局ケ嶽ヨリ流  
 テ西北ニ至リ本郡上多氣ヨリ下多氣及下野川八手俣ニ至リ竹原川ト合シ家城大野木川須賀  
 瀬ニ至リ嶋貫ニ流テ雲津川ト稱シ東海ニ入ル其水源ニ小流濫觴ノ如シ南ヨリ北ニ流ル故  
 ニ立俣ノ名アリ俣ハ川俣水俣ノ謂ナリ  
 上多氣 丹生俣ノ北ニアリ 正稅四百九十石紀州松坂領ナリ 屬邑小津本邑ノ南ニアリ 立  
 川本邑ノ南ニアリ小字ナリ 前ニ錄ス一志郡ニ多氣ノ名アルハ詳ナラス其北ハ安濃郡其  
 南ハ飯高郡ナリ多氣郡ニ遠シ古今ノ差ニ分隸ノ變ニモ非ス舊記ニ或ハ多藝ト記セルモア  
 リ然レハ多藝多氣各假字ニ多氣郡名ニ抱ハリタルニ非スト惟ヘリ  
 多氣城及北畠家歴代館舎邸舎墟 同處ニアリ本城ハ霧山城ト名ク今ノ眞善院ノ乾位山上ニア  
 リ櫓臺及城壁ノ威儀今ニ存セリ又條城ハ天ヶ峯城ト名ク今ノ奥津領ノ山上ニアリ本州國司  
 ノ中興ハ村上天皇十代孫中ノ院頭大納言通方ノ二男頭中納言正二位雅家万里小路北畠ト稱  
 號セリ其後家風稍ク衰ヘテ雅家ヨリ二世師親師重三世北畠准后從一位大納言親房中興ノ後  
 醍醐天皇ノ寵臣ニ大ニ恩遇セララル故ニ家風再盛ニ忠節アリ嫡男中納言顯家奥州國司鎮  
 守府將軍ニ任シ三男從一位右大臣顯能家系ヲ繼テ本州ノ國司ニ始テ補セララル曆應元年ナリ

顯能ノ二男正二位權大納言顯泰其男大納言滿雅其男權大納言教具其男從四位左近將中將政  
 卿其男正三位權大納言材親其男從四位左中將晴具其男正三位權中納言具教其男左中將信意  
 相續テ九代本州ノ國司北畠多氣御所ト俗稱ス雲津川ヨリ以南一志飯高多氣ノ三郡ヲ領シ人  
 民ヲ撫育シ國政ヲ掌握ス此地ヲ始テ鎮護トノ城壘及藩内ノ邸舎ヲ居ク始メ顯能曆應元年本  
 州ニ封セララルヨリ觀應三年南朝後村上天皇ノ勅ヲ奉ノ大將軍ニ任シ伊賀伊勢二國ノ軍卒ヲ  
 三千餘騎ヲ從テ父准后入道ト成ニ入洛シ朝政ヲ掌ル其後南朝明德三年ニ及テ廢絶ノ後足利  
 家ニ屬シ其男顯泰後小松天皇ニ奉仕シ一志飯高飯野多氣度會五郡及大和國宇陀郡總テ六郡  
 ヲ領シ軍卒二万五千余騎ノ大將ナリ稱光天皇應永二十二年北畠滿雅足利義持將軍ト矛盾ノ  
 事アリ故ニ將軍江州六角伊賀州仁木大和州筒井越智十市久世滿世本州ノ長野工藤雲林院關  
 神戸峯千草家等ニ命ノ北畠家ヲ襲シム南伊勢ニ城砦ヲ諸處ニ築テコレヲ挑防ス本郡阿坂軍  
 ハ此時ナリ其後將軍國司ト和親ス應仁元年細川勝元山名宗全入道京洛ニ擾亂ノキ足利義視  
 將軍潛行ノ本州ニ至リ國司教具ニ寓ス事實將軍家譜應仁亂記ニ載タリ爾ヨリ後弘治永祿中  
 ニ及テ家風益熾ニ其一族若干家ニ分テリ所謂北畠三副將ハ田丸御所 大河内御所坂内御  
 所ナリ各軍卒一千ヲ屬セリ 北畠物語云三家各士六百人内馬 又一志郡波瀨御所 同郡岩内御  
 上百騎小人四百人一千ノ大將也

所 同郡藤方御所 北島物語云波瀨岩内藤方三家士三百人内 同郡木造御所 北島物語曰木造御  
 馬 上五十騎小人二百人合五百ノ大將ナリ 所士六百人内馬上  
 百騎小人四百人 各軍卒五百ヲ屬セリ又八下 森本 方穗 三家合五百ノ軍卒ヲ屬ス又與力  
 一千ノ大將ナリ 和州ノ三家ハ 澤某 秋山某 芳野某ナリ 北島物語云澤一千ノ大將ナリ 此三氏ハ南朝ノ舊  
 臣ニノ後ニ北島家ニ屬セリ又四管領ノ長臣ハ澤某 秋山某 鳥屋尾某水谷某ナリ 北島物語  
 水谷等ヲ以テ大將 國司ノ家老トス 各其知令ノ條ニ姓氏ヲ詳ニス九世信意ニ至テ永祿十二年織田信長北伊  
 勢ヲ侵ノ且北島家ヲ襲ハントスルキ大軍ヲ挑防スルニ地理利アラストテ飯高郡大河内城ニ  
 移ル此時多氣ノ地ハ舊隴トナリ又此時織田北島和親ノ其男茶篋丸ヲ信意ノ嗣子トシ後ニ北  
 島左中將信雄ト稱ス度會郡田丸城及一志郡松ヶ島城ニ迂ル安濃津城ニ織田上野介信包河曲  
 郡神戸城ニ織田三七郎信孝桑名郡長嶋城ニ瀧川左近將監一益北伊勢五郡ヲ領ス其餘關 峯  
 雲林院 長野 千草等各織田家ニ屬ス故ニ九代信意ハ信雄ニ從テ田丸城ニ居ス父具教ハ  
 度會郡三瀨城ニ居ス勢州一國槩ノ平均ノ織田ニ屬スルニ似リ其後天正四年十一月廿五日具  
 教織田ノ爲ニ害セラル其餘一族長野次郎 具教次男 及三男式部少輔房兼坂内御所兵庫頭ヲ  
 誅ス又大河内御所波瀨岩内凡テ一族十三人一時ニ誅ノ滅亡ス曆應元年國司補任ノ始ヨリ天  
 正四年ニ至テ二百二十九年ニ及テ北島國司ノ家系斷絶セリ

以上北島物語勢陽軍記雜記所載粗相同シ此外伊勢軍記眞字勢陽軍記伊勢兵亂記アリ大同

小異ニシテ謬誤多シ

北島家系譜

北島物語或雜記云紋所久我一流  
 ニノ割菱桐ヲ用ユ

村上天皇

具平親王

師房

久我家

顯房

堀川右大臣

雅實

久我太政大臣法名蓮覺

雅定 中院右大臣

雅通

久我内大臣

通親

土御門内大臣

通方

中院頭大納言正二位

雅家

中院通方二男正二位頭中納言  
 始北島ト稱ス

師親

正二位大納言法名覺圓

師重

正二位大納言法名經覺

親房

大納言從一位准后

一云天德院殿台宗覺元大居士

顯家

鎮守府將軍中納言  
 奥州國司

延元二丁巳年正月於攝州安部野戰死

顯信

春日中納言奥州國司屬鎮西宮延元三年於筑前戰死

顯能

權大納言右大臣從一位

一云源光院殿端墨雲宰大居士

顯泰

權大納言正二位

一云寶樹院殿弘覺誦教大居士

滿雅 權大納言從二位

一云長福寺殿祐山常滿大居士

壹五十二

教具 權大納言從二位

文明三年三月二十三日薨

一云金剛寶寺殿興運常威大居士

政卿 從四位上左近衛中將

文明十年

一云高德院殿心祖先天大居士

材親 權大納言正三位法名

永正八年出家四十四歲

一云淨眼寺殿無外逸方大居士

晴具 三木中將從四位下

永祿六年

一云義照院殿心月晴具大居士

法名天祐六十一歲薨ハ親平或具國

一云寂光院殿心祖不智大居士

具親

木造左中將從四位下爲木造俊茂  
嗣子天文二十三年薨

信意

參議左中將或云始具房天正二年信雅ト稱ス

具藤

長野次郎

房兼

式部少輔 實具親ノ男

親顯

慶長八年誕生實ハ中院通  
勝男信意爲嗣子

信意 神風徵古錄云天正四年十一月四日大河内城自害トス非ナリ雜記所載大河内御所十一

月二十五日田丸城ニ誅スハ誤ナリ然レ北畠信雄養父タルヲ以テ京師ニ許シ居ノ後薨スト  
云 木造家ハ北畠權大納言顯能三男正三位顯俊ヨリ氏別ス

國司歷代館舍爐今ノ眞善院ノ地ナリ本邑ノ西ニアリ 雜記所載北畠家代々ノ古墳今上多氣  
下多氣兩邑ノ間上多氣領ニアリ堅六十五間横三十八間ナリ西北ニ林岳續キ東南ニ溪川アリ  
築山泉水ノ形ノミ致景古ノ儘ナラントソ覺ユ池ノ長南北二十七間横十間嶋崎ニ古松アリ俗  
ニ蛇松ト謂フ又大ナル堅石數多其外池中ニ埋レ青苔生タル巖ニ其數ヲ知難シ櫻ノ馬場六十  
間横十四間笠懸ノ馬場堅六十二間横三十三間犬追物馬場堅五十間横三十二間ナリ斯ル處彼  
屋形モ没後ニ土民ノ耕地トナリシカ其後上多氣數度ノ火害ナトアリテニ村ニ衰微セシカ  
ハ民間不思議ノコトシ屋形ノ跡ノミ耕地ヲ改メ八幡宮ヲ勸請シ社壇カクノコトク設ケ信仰  
不怠ケレハ兩多氣ニ賑ハシク成リヌ宿願ノ者神前ニ小松ヲ寄進シ栽ケルニ尋常ノ松ニテ  
モ多ク三葉ヲ生シケル毎祭八月十五日隣邑ノ民群集シ鉄炮ノ的ヲ打祭禮ヲ營ミケルナリ云  
云今詳ニスルニ北畠歷代ノ古墳ニ非ス館廳ノ舊址ナリ堅横ノ疆域大畧右ニ同シ然レ後世  
ノ除地ナリ古昔ノ館舍ノ城界ニハ非ルヘシ假山泉石ハ南北今檢スルニ埋没ノ二十間許東西  
稍ク濶狹アリ池潢ノ形ハ水ノ字ヲ象レリ假山ハ煙ヲナシ稍ク堅石數十箇アリ其餘汀除ニ數  
十箇アリ各海産ニ本州及志摩州ノ海岳ナリ前號家城瀬戸カ淵ニ辨スルカ如シ其大畧

琴ノ石 池中中嶋ニ架ス石梁ナリ形琴瑟ニ彷彿セリ 飛蛙石 居蛙石 仁王石 孔子石  
 座禪石 達摩岳 唐子石 船岳 屏風岳 虎石 龜石 夜啼岳 大黒岳 蛭子岳 仙人岳  
 富士石 等ナリ其餘小嵩雅致ナル多シ後人ノ名稱ス處ナリ池嶋ノ蛇松ト稱スルハ今枯槁  
 ノ亡シ眞善院ノ東ノ山傍ニ方俗兒松ト稱スアリ其治世ヨリ存在ノ古樹ナリ枝葉蟠屈ノ下垂  
 ス又櫻ノ馬場今亡シ悉ク耕耨ノ田圃ナリ其餘ノ犬追物笠掛ノ馬場ハ今本邑ノ内馬場ト稱メ  
 民居四五宇アリ悉ク耕地ナリ館廳ノ址ハ四壁ニ林岳溪川大路ヲ疆リテ繞ニ眞善開ノ境地及  
 八幡祠ノ社域トナレリ八幡ノ社前ニ古井アリ往昔ノ形勢ナリ前ニ謂フ三葉松今曾テ亡シ都  
 テ老杉樹ヲ栽ル毎祭八月十五日鳥銃ノ的及相撲ヲ行テ隣邑ノ民詣スル多シ明曆中所謂ト稱  
 ク今ハ異ナリ 今詮スルニ多氣城及館舍ノ廢絶ハ永祿十二年飯高郡大河内ニ織田ノ軍ヲ豫  
 防センカ爲ニ所築ニ其時國司具教及其嫡信意俱ニ大河内ニ遷リ多氣ハ舊墟トナリ織田ト  
 和親ノ度會郡田丸城ニ信意ハ寓シ其父具教ハ同郡三瀬城ニ遷ルハ既ニ伊勢兵亂記勢陽雜記  
 其餘諸本皆同シ今一ノ疑惑アリ吉野日記云應永二十一年南帝ノ皇子ニ位ヲ不讓ニ依テ伊勢  
 國司北畠滿雅鬱憤ヲ合テ武家ニ背テ軍士ヲ聚メ所謂關左馬助其一黨神戸岸岡國府鹿伏鬼等  
 其外和州伊州勢州志摩ノ兵士悉ク駈催ス然レ北畠俊泰ノミ武家ニ背カス應永二十二年春三  
 月北畠滿雅兵ヲ起シ坂内ノ城ヲ攻ル時ニ城主俊泰京ニ在リ故家僕拒戰トイヘ尺滿雅急ニ攻

戰フ城内ニ將ナク一決セムノ遂ニ陥ル爰ニ於テ國司阿佐賀城ニ居ヲシテ其弟雅俊木造城ヲ  
 守ル顯雅大河内城ヲ守ル其外多氣坂内玉丸等ノ諸城ヲ兵士ヲ守シムト云 又云永享十二  
 年七月三日條今年伊勢國司滿雅卒ス其遺跡其子中將顯雅相續メ大河内城ヲ守ル其弟少將教  
 具多氣城ヲ守ル下畧飯高郡大河内 又一本云永祿十二年秋八月二十日信長卿勢州征伐ノ爲  
 尾濃七万余騎ヲ卒ニ秀吉ニ命ノ同二十六日阿坂越ヘ攻ル 中畧 信長卿國司ノ本城大河内ヲ攻  
 國司具教入道不智齋息男左中將信意次男長野次郎長教ヲ主將トシ一族郎等三万餘人籠城ス  
 寄手池田勝三郎信輝搦手ノ攻口ヲ乘入リ二ノ丸ニ國司勢楯籠ル此間ニ同國八田城主楠七郎  
 左衛門尉正具信長ノ本陣ヲ夜討ス藤吉郎奇計ヲ出シ多藝谷ノ城ヲ攻國司入道遊山別業ノ地  
 ナリ國司父子ノ妻女一族ノ女房幼老ヲ籠置ク大河内少輔森本飛彈守ヲノ二千餘人コレヲ守  
 護メ十月二十三日淺野彌兵衛尉堀尾茂介ニ命メ燒草ヲ用意シ秀吉二千餘人ヲ卒ノ二十四日  
 ノ曉ニ城ノ塀際ニ至リ堀尾二百五十人搦手ヨリ城中ニ入父子ノ妻女一族ノ妻子以上三十七  
 人ヲ搦捕リ城ヲ燒討ニス又生捕ノ婦人三十餘人ヲ大河内城ニ不破河内守菅谷九右衛門ヲ兩  
 使トシ送遣シ和平ヲ取結ヒ信長長男茶筵丸ヲ北畠ノ養子トシ歸陣ス 吉野日記ヲ閱スルニ  
 應永中滿雅ノ時ニ大河内城ハ存在シ多氣モ未舊墟ナラス又或本ノ異説ハ其徵未詳トイヘ尺  
 大河内拒戰永祿中ニ未タ多氣ノ故城モ全事本説ノ如シ豊臣氏駈テ其城陥ルト云ヘ尺燒討ノ

證ナシ今親見スルニ古瓦及泉石等ヲ遺セリ敢テ火ニ遭シモノニ非ス然レハ前ノ二説大河内  
城所築ハ應永中既ニ存在ノ多氣ノ舊址トナリシハ永祿中ナルヘシ然レモ又異説アリ 北島  
國永集曰 吉野にまうて歸り多氣につきて或夜人のもとより

もろともに見る人いかにさらぬたに云とふ程の月の光りを  
と有ければ

袖にのみくもりし月ももろとも詠る夜半の光りくまなき  
多氣といふ所ふる郷と成てよろつ物わはれなるに花漸ちりける頃立こゑて

めて來ても恨られけり花は根に鳥はふる巢にかへるこゝろを

伊勢の海の沖津塩よりも世に辛く老もて來ていつとなく寐覺かちなる床の上に夜なくあ  
かしかねたるまゝたもひつゝけ侍るに家くの軒をならへし多氣なれと坊舎の一字もあら  
されは佛の御法を聞得にしころなからめある經に唯鐘告四方と説たかれしにたかひ長夜の  
睡りも角やらんと告れとろかす鐘の響も絶つゝ臺のかたふきたるもなくして雫は不斷の香  
ともならず甍の破れたるも残らねは月は常住の灯とも見ぬす鼻のやとるべき松さへはた枯  
果て風の音までうらめしくとたへても猶身にしむはかりあはれなり籬は野らとなりて蘭菊  
の叢を狐のかくれ所とするゆへにや民の窠のこゝかしこに有なからくたかけなどひとつも

なければうら音をたに聞さるに頭の白髪のみならずゆるさぬ關のせきとめられもせて月日  
のはやく過行は今歳もいまはと打佗て思ひをのふるといふ事を二首によめるところ

鳥もなく鐘もなき里にいつかきて我世の夢は驚かされん

冬枯の野となるまでにはわひて住は爰とてまたふか草の里

ことしまた越ば松山まぢみんと老か身にしも花のしら波

雜記所載 飯高郡大河内に城廓をこしらへ移り賜ひしより古き都の名のみのこりしにひとし  
く成ければよみて遣しける

秋山や澤に木の葉のちりはて、多氣の御庭に鹿や住らん

國司の返哥

垣かはねやれ果たる家所細野の草生あれ果にけり

注曰澤秋山ハ國司ノ家長ナレハヨミ入ケルトソ家所細野草生皆工藤家ノ一類ナルエヘカク  
咏ルナルヘシ 今詳ニスルニ國永集ニ吉野ニ詣ノ歸途ニ多氣舊墟ニ至ルノ詞アリ吉野皇朝  
ハ長祿三年六月ニ至テ赤松カ族石見某カ爲ニ皇統絶テ北朝ニ一統ス然レハ長祿ヨリ前ニ皇  
居存在ノ時ナリ織田家ト和親ノ後ニ絶廢スルキハ永祿十二年ナリ長祿ハ百九年前ナリ長祿  
ノ後明應永正文二至リ多氣居城ニノ執掌ノ政アリシハ必然ナリ國永所謂甚疑アリ又雜記  
所載細野九郎左衛門尉藤敦ノ咏アリ天正八年安濃城ヲ退居ノ伊賀州ニ遁ル然レハ天正ヨリ

以前在城ノ時ノ口號ナリ藤敦存世ノ時ニシテ詳ニスルニ永祿天正ノ間ナリ既ニ永祿年中尾州清須本ノ城藩ノ圖本ノ所載ハ未多氣舊墟ノ前ナリ唯其徵ハ永祿中ニ從テ其後舊墟トナリシト必然リ繼記所載ノ大河内城ヲ所築ヨリ舊墟トナルト謂ハ恐臆斷ナリ撰者ノ暗推ニシテ録セラルナリ吉野日記ニ據レハ永享十二年多氣大河内城ニ存在セリ其徵ヲ得テ論スヘシ多氣窓螢曰ひかし貞觀八年此國こよのうつかれて饑饉しわたりける官よりたほせて米數千俵にさはし賜へり中にも多氣の人多氣の守止見といへるかゝる天恩代々よろつ曾孫に傳はりなんものとやかて其米八升はかりみばへに蒔けるが程なくたひひろこりて其田は今のつかさ田これなり百姓たゞ其名はかり傳へをほへて今にでうくはんどいふ米此邊に多しとろめてたきためしなるへし

大日本史清和天皇本紀云貞觀八丙戌年六月甲戌朔伊勢因幡飢疫賑之 又云秋七月丙午遣使伊勢賑多氣度會二郡飢 今詳ニスルニ多氣度會二郡ニ隸ル國史ノ言ニ據レハ此地ノ事ニ非ス然レハ多氣窓螢ニ據レハ今ノ多氣村ノ事實ニ似リ國史ヲ本據トシ他ノ皆ヲ容ルニ及ハストイヘル今此地ニ多氣早稻ト稱ノ甚早ク實ル稻アリ本邑ハ云ニ及ハス隣比ノ地ニ種稼スル多シ若ハ貞觀ト稱スル遺種ニ非スヤ其眞ハ未得姑クコ、ニ標ノ後賢ノ訂正ヲ俟モノナリ

勢陽五鈴遺響一志郡卷之二終

眞善院 上多氣村國司館舎ノ墟ニアリ天台宗本尊大日如來 明曆中末創造處ナリト今ニ至リ

稍ク五世相續ス堂内ニ多氣屋形圖及藩中連署ノ錄一冊ヲ藏ス古圖ハ蠹魚ノ患ニ分明ナラス故ニ再摸ノ今藏スト云其舊幅ハ村正ノ許ニ秘蘊ス連署錄ハ近世ノ撰ナリ其餘遺物ナシ

八幡祠 本堂ノ南ニアリ三社並建リ中央ハ北畠准后親房ヲ祀ル南ハ鎮守府將軍顯家北ハ國司始祖顯能ヲ祀レリ方俗中央ヲ八幡宮南ハ天照大神北ハ春日明神ノ三社ト誤リ祀ル鳥居アリ拜殿ナシ

禁中宮 眞善院ノ乾位ニアリ後醍醐天皇後村上天皇ノ御廟ナリト云清須本ニ載ス方俗禁中宮ト稱ス往昔ハ八幡ヲ祀レリ治世ノ時ヨリ存ス處ナリ

金山大明神 眞善院ノ乾ニアリ本邑ノ生土神トス方俗カナフ明神ト稱ス又多氣分野圖ニ金生明神或叶明神ト録ス北畠家存世ノ時ヨリ奉祀スル處ナリ 多氣窓螢曰ひかし伊賀伊勢は兄弟の國なり日鷲命此國つくりのどほつをやなりと下官この國しりけるより此國のはしめなる神いかて敬さらんと度會なる俊延にかたらひ合せ多氣にうつしまつり近きころほひ如在の禮たこたらぬに付て家司等いたうかたむさどうとみて多氣の國たやのやしるとなん



ぬかづきぬ 今詮スルニ天日鷲命ノ事蹟ハ和銅風土記ニ所載ニシテ安濃郡安濃神社ニ祀レリ  
此記ニ遷シ祀ルト墳レハ彼地ヨリ多氣ニ遷座アリシナリ其地未稽得或曰金山明神ハ治世ノ  
大洞ニノ崇敬異ナルニ據レハ本文ト牽強ノ日鷲命ヲ祀ル處ナルヘシ未詳ノ論ナリ今稽ルニ  
後村上天皇大倭州吉野郡賀名生ニ皇居ノ其地主ノ神ヲ北畠家ノ遷シ祀ル處ナルヘシ其謂ハ  
賀名生金生叶ニ訓通ヘリ後世ニ及テ字ヲ轉シ謬リ又金山ト轉訛セシナリ然レモ未其徵ヲ  
得ストイヘモ永祿中尾州織田家清瀆沙汰本ニ賀名生ト記セリ稍ク眞トスヘシ  
香榮寺 字ハ六田ニアリ多氣分野圖ニ北畠家館舎ヨリ東ニアリ稽ルニ今其地ニノ未舊地ヲ變  
セス

沈福廢院址 香榮寺ヨリ良位ニアリ多氣分野圖ニ存ス今廢亡セリ 藏王權現堂アリ

慶正廢院址 同處櫻馬場ノ東ニアリ今廢亡セリ多氣分野圖ニ存ス處今耕地トナレリ櫻馬場ハ

往昔左右櫻ノ列樹アリテ館舎ノ東惣門ヨリ直路ニ此院ニ至ル大路ナリ今馬場モ廢シ田圃ノ  
中ニ大路ハ其址ヲ存ス

觀音廢寺址 犬追物馬場ノ西ニアリ今馬場ト稱ス田圃ノ中ニアリ 永祿年分野圖ニ所載ナリ  
今ハ亡シ

慈恩廢院址 同處ニアリ同分野圖ニ所載ナリ今亡シ

洞雲廢寺址 同處坤位ニアリ同分野圖ニ所載ナリ今廢ス

聖光寺 同處町小路ノ川岸ニアリ同分野圖ニ所載ナリ往昔寺前ニ石燈爐一基大橋ノ南詰ニア  
リ今猶存セリ

安中庵廢址 同處町屋南裏ニアリ同分野圖ニ所載ナリ今亡シ

大正庵 同處字ハ木津ニアリ今大聖寺ト號ス淨土宗同分野圖ニ所載ニノ治世ノ時ヨリ存セリ

大蓮廢寺址 同處ニアリ同分野圖ニ所載ナリ今亡シ 毘沙門堂 上ニ同シ

廣大明神 同處ニアリ今ニ存ス同分野圖所載ナリ

法光廢寺址 同處廣明神祠ノ南ニアリ同分野圖所載ナリ今亡シ

傳通院廢址及松月院廢址 同處ニアリ同分野圖所載ナリ 本願廢寺址及養永廢寺址同處南ニ  
アリ同分野圖所載ナリ

長泉寺廢址 立川町屋裏ニアリ

茶臼淵 堅川ニアリ多氣川ノ水源ナリ溪澗ノ間ニニ大崑上下ニ疊ミ重リテ礪白ノ如シ其間ヲ

流水激キ下レリ故名ク分野圖ニ所載ナリ今尙存セリ

川上杉峠口 川上村堺ニアリ國司館舎ヨリ五十五丁

櫃坂口看監所舊址 上仁柿ノ堺櫃坂ニアリ國司館舎ヨリ七十餘丁ニアリ

障路越口 丹生俣ニアリ國司館舎ヨリ百餘町

飼坂口看監所舊址 奥津ノ堺ニアリ國司館舎ヨリ二十二丁

比津峠越口 奥津堺ニアリ國司館舎ヨリ三十五丁

櫻峠口看監所址

國司館舎ヨリ五十二丁

白口峠看監所址

國司館舎ヨリ五十丁

漆峠口 下多氣漆ノ堺ニアリ

以上四箇處鎮護ノ監所ヲ居ク又四箇處ノ徑路有リ四方ニ通ス治世ノ時要害ノ設置處也

專修廢院址 今ノ町屋ノ東ニアリ永正年中分野圖ニ所載ナリ

藥師廢寺址 今ノ眞善院良位ニアリ永正年中分野圖ニ所載ナリ

惣持廢寺址 其地未詳

竜淵廢寺址 其地未詳雜記所載上多氣ニアリ今ハ廢ノ土民ノ耕地トナリ字ハ遺レリ今檢スル

ニ永正中應永永祿中ノ分野圖ニ亡シ永祿ヨリ以往ノ一二本ニ不載トイヘ其耕地ノ名ニ遺ル處ハ眞ナリ然レハ永正ヨリ以前ノ存在ス處ナルヘシ

福壽院 國司館舎ノ北ノ傍ニアリ今下多氣ニ存ス後世遷シタル處ナルヘシ永正年中分野圖ニアリ其以後ノ諸本ニナシ永正ノ後ノ轉移ナリ

下多氣 上多氣ノ北ニアリ

正稅三百五十三石津領ナリ今檢スルニ九百五十一石九斗六升四

合民家四十戸古今甚異ナリ 屬邑漆アリ本邑ノ西ニ居ス古昔ハ上下多氣各一郷ナリ今下多氣ヲ置クトミヘタリ

慶幸山金國廢寺址 同處ニアリ古屋草紙金剛寺ニ作ル非ナリ曹洞禪宗往昔ハ大刹ニノ十六字子院アリ寺領五百貫國司北畠家治世ノキ會下ニ數百口ノ僧集リテ勸學ノ道場ナリ多氣城廢

亡ノ後耕鋤ノ地トナリテ其址ヲ遺セリ永正年中及眞善院圖分野圖ニ所載ニノ永祿中清瀨本ニハ亡シ永正ノ後廢絶スト惟フヘシ 背書國誌云當寺ハ北畠家歴代ノ香華所ナリト載ス

崇恩廢寺址 今未詳 北畠材親多氣尙螢曰むかし京の七條西のかたはらに國ノくめくれる隱

陽師の侍る名を紀明といひけるこれか此多氣に來りて地のかたちをうらなひ爰は時よくは都に似かよふへき瑞あるよしめて、つさも崇恩寺にたくれりげにや下官か家さかへ政もしるさ代ノく經て天恩厚きにかゝる山の中にさいひ置んやう其時はあやしかるへしすへて隱陽師のいふこともいみしくたろろしきなり崇恩寺の什物見てたのしき事にたほへ侍る

今詳ニスルニ崇恩寺應永天文永祿等ノ古圖ニ其地ノ徵ナシ然レハ材親記ニ所載ハ永正年中ナリ其時存在ス處ナリ何ソ應永天文ノ圖ニ不載ハ疑ヘシ故ニ其舊址ヲ詳ニスルヲ能ハスコハニ標スノミ

旭照山西向院 同處ニアリ應永年間以後ノ圖ニ六地藏ヨリ南ニ川峴ニアリ眞善院本ニ西迎院ト記セリ

長樂寺 同處ニアリ分野圖ニ舊ト丹生侯ニアリ今此地ニ遷ス處ナルヘシ

妙法庵趾 應永分野圖及眞善院圖ニアリ金生明神ノ乾位川峴ニアリ今ハ絶タリ永祿年中圖ニ

亡シ 今詮スルニ永正年中國司材親隱接ノ飯高郡大石ニ居ス大石御所ト稱ス其時館ノ南ニ

遷ノ妙法庵ト稱ス其徴ハ大石ノ條ニ詳ニセリ故ニ此地ニ廢ノ永正以後ノ分野圖ニ不載ナリ

善阿彌庵址 白口峠ノ麓ニアリ應永及眞善院圖ニ載ス今舊址詳ナラス

有壽院及月徳寺是故院廢址 未詳 永祿及眞善院圖ニ有無アリ都テ多氣舊隴圖傳ハ別幅ニ録

セリ

高寶山應壽寺 同處屬邑漆ニアリ 眞言宗 本尊不動明王 雜記所載往昔ハ大刹ニノ本堂護

摩堂善美ヲ盡シ莊嚴ナリ寺領二百貫ノ地ナリシカ北畠家滅亡ノ後纔ニ其名ヲ存スノミ 今

詳ニスルニ應永ヨリ永祿ニ至リ諸圖ニ亡シ其徴ヲ未得處ナリ若ハ有壽院ノ再造セル處ナル

ヘシ其寺號ノ轉訛セルカ如シ猶稽ヘシ

山王權現 同處ニアリ今ニ存在セリ

經塚山 同處ニアリ法華藏石經ヲ瘞ム處ナリ

慶由カ淵 天正四丙子年十一月廿五日三瀬御所具教ヲ謀リ撃ントテ信雄ノ令ヲ奉リ藤方刑部

少輔奥山常陸介瀧川三郎兵衛尉長野左京進四人具教ヲ害ス刑部少輔カ父慶由入道田丸城ニ

質トノ居タルカ其舊主ノ恩ヲ願テ愁憤シ舊郷ノ多氣ニ歸シ深淵ニ身ヲ投ノ義死シケル其舊

址ヲ慶由カ淵ト名ク伊勢兵亂記所載ナリ詳ニ度會郡三瀬條ニ載ス

小川 下多氣ノ東ニアリ同郡同名アリ 正稅二百五十二石六斗七升三合民家八十六戸津領ナ

リ 屬邑 小楨本邑ノ西ニアリ 中村小楨ノ南ニアリ本郡ニ小川二處アリ

柚原 小川ノ巽位ニアリ 正稅三百九十九石五斗七升民家七十戸津領ナリ 屬邑 寺谷本邑

ノ南ニアリ 北畠家臣湯原半九郎居住ス眞善院名録ニ載タリ

阿良々木明神 柚原ニアリ祭神未詳方俗蘭ノ字ヲ用和名鈔ニ蘭阿良羅伎ト訓スルヲ以ノ故ナ

ルヘシ然レモ此木ノ事ニ非ス阿羅良木ハ和州金峯山等ニ器物ニ製ノ多ク貨賈ス又笏ニモ作

ル故ニシヤクナギト稱ス石楠花ノ轉ナリ凡テ笏ニ造ル木ハ何ニ不限朝野群載ニ寸法ハ所載

トイヘモ其木ヲ指ナシ唯反裂サル木ヲ用故ニ上世ヨリ阿羅々木ハ木理密ニノ美ナリ殊ニ

不反裂カ故ニ通ノ用俗ニ欄ノ字ニ作ル此地古昔ヨリ石楠樹多生タル社地故ニ名クナルヘシ

孰レ近世ノ所營ニノ郷俗小兒ノ病患延壽ヲ禱習風ナリ古屋草紙坂内村荒良伎神社素盞烏尊

ヲ祀ルトスハ未詳 例祭八月十六日近郷ノ詣人多シ

後山 柚原ノ十六丁良位ニアリ 正稅百廿六石今百七十七石六斗六升民家四十戶津領也 屬  
邑淵草 本邑ノ乾位ニアリ雜記不載明曆中ノ後ニ所置ナルヘシ後山ノ名義ハ柚ノ原ノ良ノ  
山ノ後ニアリ故名クナルヘシ

與原 後山ノ良位廿町ニアリ 正稅二百三十七石九斗七升八合民家三十七戶津領ナリ

飯福田 與原ノ十五丁乾位ニアリ松坂ヨリ西三里 正稅百二十一石二斗九升民家二十五戶津  
領ナリ

國峯山飯福田寺 同處ニアリ 眞言宗 相傳云文武天皇大寶年中役優婆塞小角建立 本尊藥

師如來不動明王同作 鎮主神 蛭子 仁王童子 愛宕權現 熊野三社 吉野藏王權現又白

山權現鎮德上人感得ノ神ナリ小倭七所ノ其一ナリ詳ニ同郡家城ノ條ニ載ス

白山秘所ノ窟溪澗ノ下ニ高三十間ノ岩壁ノ上ニ一ノ巨岳アリ七八間四方ノ洞窟ナリ人跡ノ

及フ處ニアラス役小角經營ノ草堂アリ寛永年中顛倒ス其朽材及佛像等白山權現ノ山頂ヨリ

眺ルニ顯然タリ 又籠ノ窟ト云アリ此間ノ奥二十間四方ノ巨窟ニ並タル間四五尺許モアリ

此處役行者密法ヲ修セシ遺址ト云其餘 烏帽子窟 巒石 障子岩等ノ數十ノ怪岳奇石山中

ニ充滿ス凡テ郷俗及隣民飯福田山上ト稱ノ大倭州吉野ニ比ノ精進潔戒ノ詣人多シ其巨岳ニ

鏡鎖ヲ垂テ鐘掛不動岩等ノ名アリ往昔ハ倭州金峯山中絶ノキ此地ニ登山禪定セリト稱ノ彼  
徒ノ修行所ナリニ王門ノ傍ニ右ニ石鏡アリ又明星石獅々鼻石等巨窟アリ 寺傳云往昔ハ本  
堂護摩堂阿彌陀堂坊舎六宇各莊嚴ヲ盡シ寺領五百貫ノ寺産アリ多氣北畠家ノ祈禱所ニノ天  
文中修補増加ノ善美ヲ盡シ嚴重ノ大刹ナリ國司家衰敗ノ後尾州内府織田信雄天正十一年  
松島在城ノ時飯福田後山ノ二郷ニノ寺領百五十貫ノ地ヲ寄附ス其舊案今ニ藏セリ織田斷絶  
ノ後浦生飛彈守一志飯高檢領ノキ寺産ヲ收納シ伽藍ヲ壞其材ヲ用テ飯高郡松坂城ヲ經營ス  
故ニ再衰頽ノ今ノ形勢ニ及ヘリ又往昔ノ古鐘ハ今ニ存セリ什貫トス 今詳ニスルニ往昔倭  
州金峰山廢絶ノ登山禪定ノ此處ニ稍ク轉ノ修行セリト謂フハ其據ナキニ非ス役優婆塞入峯  
ノ遺跡ヲ慕ヒ熊野ヨリ大峯葛城山ニ入ル是ヲ順ノ峯入ト稱ス其後金峯山ニ巨蛇棲テ道ヲ妨  
ケ詣スル人ヲ絶タリ山城州醍醐寺ノ開山聖寶閣梨自ラ斧鉞ヲ執リ入峯シ其蛇ヲ斬棄テ再入  
峰ノ路ヲ開ク大峰ヨリノ熊野ニ出ルノ例ヲ用テ今逆ノ峯入ト稱ス今モ泥呂川ヨリ大峯ニ登  
山スルヲ逆山ト俗稱ス此緣也故ニ順峰ハ聖護院門主逆峯ハ三寶院門主天台眞言ノ二主ノ首  
座天下泰平ノ重務ナリ然ルニ上世大峯入峯ノ中絶ノキ郷國ノ修驗者此處ニ入峯ノ其修行ヲ  
爲セシ處ナルヘシ今モ郷俗多ク大峯ニ倣ヒテ六月七月ノ間登山スル者夥シ上世ハ大峯山モ  
御岳精進ト稱ノ詣人ハ一千日別堂ニ入テ精進潔戒ノ入峯セシナリ其古ニ倣ヒテ近俗ハ稍ク

潔齋輩腥不食ノ登山スルノミ妄ナルヲ察スヘシ 清少納言枕草子云 是るかなるもの千日のさうじはしむる日云々男のわかきか御嶽さうししたるへたてゐて打行ひたる曉のぬかなきいみしうあはれなりむつまじき人などの目さまして聞らんれもひやり詣つるほどの有さまいかならんと慎みたるにたいらかにまうてつきたるころいとめてたけれゑほうしのさまなどゝてすこし人わろき猶いみしき人と聞ゆれとこよなくやつれ詣つとことはしたりたるに右衛門の佐信賢はあちきなき事なり只きよき衣をきてまうてんになでう事かあらんかならすよもあしくてよと御たけのたまはじとて彌生のつもりに紫のいとこきさしぬき白き青山吹のいみじくたどろくしきなどにてたかみつのものもりの介なるは青いろの紅の衣すりもどろかしたる水干はかまにて打つゝきまうてたりけるにかへる人もまうつる人もめつらしくあやしき事にすべて此山道にかゝるすかたの人見ぬさりつとあさましかりしを卯月晦日に歸りてみな月十餘日のほどに筑前守うせにしかはりになりにしころげにいひけんいたかはすもときこゑしか下畧 今詮スルニ役優婆塞小角ハ舒明天皇即位六年誕生文武天皇大寶元年六月七日壽筭六十八歳ニノ母ト共ニ海ニ浮テ失ス其傳ハ元亨釋書及西譽抄ニ載タリ寺傳所謂大寶元年ノ開創ハ海ニ入ルノ其年ナリ本州ノ經廻ハ未其徵ヲ得ス又一山中ノ大小岳石ヲ親見スルニ灰白色ニシ眞沙ノ聚リテ嵩トナリタル也故ニ多ク大石ノ脱ノ四ニナリ

履ヲ容ルノ地アリ所謂修行場ト稱スルモ巨崖岳壁トイヘ其凹罅ノ間ニ足ヲ容テ攀ルナリ小細石モ各然リ其石ノ凹ナルヲ磨テ手洗盥トス者アリ貯水ノ用ニ足レリ又一奇異ナリ近邑ノ山淵ニハ有ルヲナシ地産ト謂ヘシ

小原 飯福田ノ西ニアリ安濃津府ヨリ坤位六里ニアリ 正税五百三十石九斗九升六合民家八十戸津領ナリ

下ノ河 小原ノ乾位一里ニアリ惣名ナリ戸木庄ト稱ス下河ノ名義ハ多氣川ノ下流ニシ雲津川ノ水源ナリ故名ク 正税 津領也 屬邑不動口 中村ノ坤位ニアリ 戸木ノ庄不動ノ口坤位ニアリ 上村戸木庄ノ北ニアリ 中津 上村ノ乾位ニアリ 三谷上村ノ良位ニアリ 山本三谷ノ良位ニアリ 大草山本ノ東ニアリ 山口大草ノ良位ニアリ 篠ノ廣山口ノ東ニアリ 小原ヨリ越ル山路一里牛谷越ト稱ス

岩倉 飯福田ノ良位廿六町ニアリ 正税七十五石五斗一升八合民家十八戸津領ナリ

波瀬 八手俣ノ良位ニアリ 安濃津ヨリ坤位五里 正税二千四百八十石紀州松坂領ナリ同名 飯高郡ニアリ 屬邑室ノ口本邑ノ坤位ニアリ

波瀬城墟 同處西ノ山上ニアリ字ヲ御茶屋ト稱ス又北ノ山ニ奥山常陸介城砦ノ跡アリ大門釘貫等ノ字田圃ノ中ニアリ 波瀬御所ハ國司北畠家ノ族兵五百ノ大將ナリ始祖ハ木造家ノ分

知雅俊ヨリ五代顯雅親參議左中將具房岩内御所主膳正ノ三男參議左中將藏人頭具祐ニ至リ任ス永祿十二年飯高郡大河内軍ノ間ニ居ス阿曾彈正忠及矢野下野守等與力ナリ永祿中三重郡赤堀城ヲ擊ツ城兵堅ク守テ陥ルコト能ハス狂咏ノ和歌ヲ落書ス

赤堀の堀のふかさをしらすして淺瀬をせゝるはせの御所かな

北島物語及伊勢兵亂記ニ載タリ

矢頭山 同處ノ西南ニアリ高嶽ナリ山上半腹ニ矢頭權現ノ祠アリ

古田池 同處ト宮野村ノ間ニアリ水田ノ用ニ設ク大池ナリ古田山 磯原山等アリ

井生 波瀬ノ北ニアリ 紀州白子領ナリ 屬邑平尾アリ 井生堰 同處ニアリ水田ノ用ニ設ク

井關 波瀬ノ良位ニアリ 正稅五百七十六石紀州白子領ナリ 屬邑東山 本邑ノ河南ニアリ

井關ノ名義ハ井生ニ對ノ田料ノ堰ナル意ナリ 一村民居ニ石工多シ凡テ此地ヨリ久居方位ノ近邑ニ路傍及寺社等ノ庭砌ニ庚申塚或ハ石經塚等ノ覆屋ニ石室ヲ巧ミ扉樞ニ至マテ彫刻ス習俗ナリ井關ノ地山ヨリ石材ヲ産シ及石巧アリ 當村ノ内櫻峠谷戸高野山牡丹岩此邊砂具石多シ大仰凡五丁四方ノ山谷皆牡丹花ノコトシ

田尻 井關ノ東ニアリ伊賀街道ノ傍ニ民舎ス正稅四百三十一石紀州白子領ナリ度會郡ニ同名

アリ稍ク山林ヲ出テ平田ノ坦地ニアリ故名ク 神鳳抄云内宮田尻御園二斗六九月

高野 田尻ノ良位ニアリ 正稅八百石五斗六升民家五十六戸久居領ナリ

日置 高野ノ巽位ニアリ 正稅四百三十七石二斗民家二十五戸久居領ナリ

庄村 日置ノ良位ニアリ 正稅七百六十五石二斗民家二十三戸久居領ナリ度會郡同名アリ

其時 日置ノ巽位ニアリ 正稅四百四十二石二斗民家十七戸久居領ナリ或ハ園村ニ作ル

戸木 久居府城ノ西ニアリ七栗郷ノ内ナリ 正稅千六百六十七石久居領ナリ 狐塚小邑良位

ニアリ

式内敏多神社 同處風早池ノ坤位三丁ニアリ方俗風早明神ト稱ス祭神大歲神安濃村置染神社

ヨリ南へ二里余 度會延經神名帳考證云敏多神社古事記云天押帶日子命伊勢壹師君之祖也

敏壹志之畧語登與知音通在戸木村之北風速池之西今稱風速社以壹師君祖神有此名戸木郷名

日置之畧語世記云阿佐加之彌子伊豆速布留神同云伊勢加佐波夜之國鎮火祭訓祠云御心一速

神風伊勢名見神武天皇御製風稱神威之巖忌神風伊勢壹志風速同名義始自阿射加神社 度會

正身神名帳再考證云敏多神社トシタト訓スルハ非ナリ万葉集ニ美努女浦ヲ敏馬ノ浦ト書タ

ルニ同シミヌタト訓スヘシミヌタハ深瀦田ニノ所祀御年ノ神ナリ 今稽ルニ延經考證ニ敏

多神社ノ名義ニ據テ敏ハ壹志ノ畧登ト知通音ニノ知志ナリ故ニ古事記所載伊勢ノ壹師ノ君

ノ祖天押帶日子命ヲ祀トス方俗風速池及風速社ノ名アルハ天押帶日子命ニ此名アリ倭姫命  
 世紀ニ伊勢ノ加佐波夜之國鎮火祭祝祠ニ御心一速日本神武紀神風伊勢國ト云ハ風ハ神威ノ  
 巖忌ヲ謂ヘリ世記ニ伊豆速布留神ノ速モ同ク同郡阿射加神社ノ事實ニ據テ風速ノ名義ハ此  
 神社ヨリ起レリト云正身再考證ニ敏多神社ノ名義敏トシト訓スルハ非ニノ万葉集ヲ引テ敏  
 馬ミヌメト訓スルニ同ク敏多ミヌタトヨムヘシミヌタハ即深瀦田ニシテヌタハ沼田ノ畧ナ  
 リ其謂ハ深キ沼田ト云ナリ其沼田ニ所祀ナレハ祭神大歲神ナリト云ノ義ナリ前考證ニ敏ハ  
 壹志ノ畧ト云ヘル未其詳ヲ得ス敏ノ字ハ譯スト云キハ多ノ義モ壹志田ト云ヘキナレハ壹志  
 ノ田ト云ノミハ荒唐ナリ猶風速ノ俗稱ニ據テ神武記世紀ノ文ヲ徵スレハ牽強ナリ風速ノ池  
 ノ稱ハ伊勢名所拾遺和哥集ニ加佐波夜國ノ名アルニ據ルヘシト云前ト同シ再考證トシタト  
 訓スルハ非ニノミヌ田ト訓スヘシト云ハ從フヘシ既ニ倭名鈔壹志郡郷名ニ民太三乃多村邑  
 ニ今美濃田アリ其敏多神社ノ戸木ニ在ス地モ民太郷ナルヘシ然レハミヌタト訓スルヲ是ト  
 ス瀦田ノ義ニ據レハ稻穀ヲ所掌ノ大歲神ヲ填ルト云モ理ナリトス然レハ必定シ難シ五十嵐  
 久貞式社案内記ニ祭神倉稻魂命或古屋草紙級長戸邊命ヲ奉祀トス級長戸邊命風神タルヲ以  
 テ風速池及風速明神ノ名アルニ據ルノ附會ナリ倉稻魂命ハ大歲神ニ從ヘルノ說ナリ各真ト  
 シ難シ其民太郷名名ハ瀦田ニ同義ナルニ據テ再考證ニ所謂祈年穀ノ云ハ姑ク從フヘシ

風早池 同處北ニアリ大沼ナリ縦十町餘横二町アリ前ニ錄ス如ク此池ノ末流同郡藤方村ニ到  
 テ相川ト稱シ相川ハ間河ノ意ニ本郡安濃郡ノ堺疆ヲナス故ノ名ナリト古說ナリ往昔ハ北  
 島物語等ニ所載カ如ク本郡安濃ノ郡界ナリ當今ハ安濃津ノ藤枝町ト垂水ノ間ニアリ後世ノ  
 定ル處ナリ國語ノ歌トテ

風早の池のなかれを尋てろ安濃と一志の堺をろしる

故ト北島物語及名所拾遺ニ古記ノ哥或ハ古老ノ傳歌ト記セリ孰レ往昔ヨリ口碑ニ傳ル處ナ  
 リ又同記ニ伊勢國ニ加佐波夜ノ國ノ稱アレハ風早ノ名由縁アルヘシト其名義ハ未詳猶前號  
 敏多神社ノ條ニ標セリ然レハ牽強ニノ敢テ從ヒ難シ或曰一志郡ニ隸ル處ニノ池沼ノ大ナル  
 ヲ稱ノ所謂一志ノ池ト填テ新古今及夫木集

さくららちる室の山風吹ぬらん一志の池にあまるしら波

又國誌及拾遺等ニ一志郡ニ一志ノ池ト謂フヘキナシ風早ノ池アリ是ナラント疑ヲ發ノ暗  
 ニ一志ノ池ニ填ルニ似リ各非ナリ今稽ルニ夫木集所載ハ市磯池ニノ今大倭州十市郡池内村  
 ニアリ履中天皇稚櫻宮ノ遺址也 日本書記履中天皇二年十月磐余ニ皇居ヲ造リ三年十一月  
 磐余ノ市磯池ニ兩枝ノ舟ヲ浮遊獵マス櫻花ノ落テ御盃ニ浮ヘリ此花何クヨリカ來レルト勅  
 アリ長眞瞻ノ連此花ヲ尋テ掖上ノ室山ニ至リ櫻花ヲ得テ獻ル冬月珍奇キヲニ愛サセ稚櫻ノ

宮ト號シ玉ヘル事ヲ載ス此意ヲ夫木集ニ咏セリ此一志ノ郡ニ非ス後昆上件ノ説ニ惑テ混合スルヲ勿レ所謂山ノ邊御井小墾田板田橋及波多横山隱山等先輩本州ニ罵リ混ス未其徵ハ大和州及本州ニ區別ノ討論アリ其眞ヲ得テ槩論スヘシ 名所拾遺ニ牟呂山ハ飯高郡ニアリトノ此哥ヲ引證セリ今詳ニスルニ飯高牟呂山御厨アリ今未知山室アリ又此山室ノ地トス愈々索強謬傳ナリ

戸木城址 同處ノ南雲出川ノ水涯ニアリ西ハイナシラ河ヲ帶北ハ水田東ハ曠野野邊ニ續ケリ天文天正年中木造左中將具政居セリ戸木御所ト稱ス 天正十二年豊臣秀吉執政ノ大和國郡山城ハ羽柴美濃守伊賀州上野城ハ筒井順慶志州鳥羽城九鬼大隅守本州神戸城ハ生駒雅樂頭又木造小倭小森上野分ハ織田上野介ニ加増本郡松島城ハ蒲生飛彈守氏郷南伊勢田丸中務少輔鈴鹿郡關長門守倭州宇陀郡澤秋山芳野ノ三家蒲生ニ屬ス織田信包カ分知小倭ノ諸士其命ヲ不聽織田信雄ニ屬ノ各矛盾ニ及フ故ニ豊臣氏其魁首木造左衛門佐具康カ居ス戸木城ヲ擊ントテ織田信包蒲生氏郷等其餘隣比ノ諸城ヲ命メ守シメ又付城ヲ築ク氏郷領ハ曾原ノ砦上坂左門須賀ノ砦ハ坂源左衛門尉八田ノ砦ハ生駒彌五右衛門尉小川ノ砦ハ谷崎忠右衛門尉ヲ守警セシム信包領ハ別保上野砦分部左京亮半田神戶城ハ中尾内藏允淨土寺城ハ守岡金介連部ハ家所三河守菴藝郡林城ハ村民部少輔ヲ守固シ戸木城ノ陣營ハ東ノ土臺口ハ蒲生氏郷

田丸中務少輔野邊川方ノ間ニ陣ス南ハ澤源六郎秋山右近芳野宮内大輔高野日置ニ雲津川ヲ隔テ陣ス 西ハ榊原刑部少輔羽野ニ陣ス北ハ家所三河守風早ノ池ノ乾ニ陣ス後戸木ノ出城ヲ奪テ風早ノ明神ノ山ニ陣ス 東ハ織田上野介信包分部左京亮陣ノ四隅ヨリ頻ニ攻討トイヘル城兵堅固ニ守衛ノ陷スヘキナシ時日ヲ經ル間ニ屯田ノ謀ヲ用ヒ九月中旬ニ至リ同郡小川ニ城兵潛ニ出テ苅田ヲ退クヲ氏郷ノ軍追テ挑戰ス氏郷自兵ヲ卒ノ駈ル處同郡見永ニ城兵中川少藏ニ遇フ危難ヲ遁ル又同郡菅瀬ノ高橋ニテ遇フ又氏郷遁去ル故ニ空手ニノ城内ニ退キ警守ル其後數回ノ挑戰ニ木造ノ長臣大塚彌三郎庄村ニ於テ戰死ス八田作兵衛尉天花寺菅太郎八田角兵衛尉モ相繼テ戰死ス數日ヲ歷テ城ヲ陷フ不能諸軍一時ニ擊入ント牒議ノケル處ニ一身田專修寺門主ノ屢ニ及ヒ和親ヲ整ントス既ニ秀吉信雄モ和親ノ由聞ヘケレハ十月上旬城主左衛門佐具康開城ノ濃州岐阜城ニ詣ル故ニ遺蹟ハ上野介信包ニ屬ス天正十八年左衛門佐具康豊臣氏ニ屬シ二万五千石ヲ給食シ岐阜中納言信雄ノ傳トナル慶長五年石田治部少輔三成逆亂ノ時岐阜城ヲ廢ス故ニ福島左衛門大夫正則カ臣長尾隼人正ニ扶助セラレ福島正則 東照神君ニ擧言ノ安藝州ニテ二万石ヲ給ス木造大膳大夫具康ト稱ス幾ナラスノ其地ニ病卒ノ其系ヲ亡セリ詳ニ同郡木造條ニ載タリ 又木造ノ臣田中仁左衛門邸舎ノ遺跡今風早ノ池ノ邊ニアリ



久居府城 江戸ヨリ百六里餘 舊名野邊今轉シテノソト稱ス前條戸木城東曠野ノ地ナリ故  
 ニ野邊ト稱ス同郡野村及小野邊アリ各野邊ニ對ソノ名ナリ 久居ノ名義ハ安濃津ノ別府今  
 ノ府城ヲ置テ永久ニ鎮居スルノ謂ニシテ寛文中以後ノ名稱ナリ 府治ハ舊領主ナシ寛文年  
 中所築置ナリ始祖藤堂和泉守藤原高虎ノ孫藤堂佐渡守高通ヨリ歷代居ス其嗣備前守高賢其  
 嗣備前守高陳其嗣大膳亮高治其嗣大膳亮高豊其嗣佐渡守高雅其嗣佐渡守高敦後本府ニ移ル其嗣  
 左京亮高榮其嗣彈正忠高興其嗣佐渡守高衡其嗣左近將監高眞後本府ニ移ル其嗣佐渡守  
 ○本村 久居府城ノ南ニアリ久居ノ舊原ノ邑ト謂ナルヘシ 野村小野邊府城ノ良位ニアリ  
 各本村ニ屬ス久居領ナリ 相川 野村ノ北ニアリ同領ナリ  
 小戸木 久居府城ノ異位ニアリ 正稅百五十六石久居領ナリ  
 川方 小戸木ノ南ニアリ或ハ川形ニ書ス 正稅二百五十八石久居領ナリ 神風抄曰河方御厨  
 榎村 川方ノ異位ニアリ或牧村ト録ス 正稅百十九石久居領ナリ 神風抄云下牧御園多氣郡  
 下牧アリ然レニ神風抄一志郡ニ録ル故ニコ、ニ標ス然レハ此地モ上牧ノ名アルヘシ今未詳  
 新家 榎村ノ東ニアリ方俗爾能美ト稱ス 正稅七百四十五石久居領ナリ 屬邑岸橋本邑ノ南  
 ニアリ 長持本邑ノ坤位ニアリ 區別ニ新家庄アリ爾波乃庄ト土俗稱ス後條ニ載タリ  
 式内物部神社 同處ニアリ方俗天王森ト稱ス 祭神未詳 スカ瀬村川併神社ヨリ半里

度會延經神名帳考證云物部神社火明命舊事記云物部竺志連公新家連等祖鎮座本記云山邊行  
 宮今号壹志郡新家村是也新家訓爾爲乃美今新家村有稱天皇森此乎 度會正身神名帳再考證  
 云物部神社考證ノ說ニ從フヘシ天孫本紀云物部竺志連公新家連等祖鎮座本記云山邊行宮今  
 号一志郡新家村是也今新家村ニ在俗天王ノ森ト云此歟未考 今詳ニスルニ延經考證ニ物部  
 神社ノ名義ニ據テ舊事記ニ徵ノ火明命ハ物部竺志ノ連公新家連等祖ト云ニ據リ鎮座本紀ニ  
 豊受大神遷幸ノ地山邊行宮ハ一志郡新家村ト今号スル地ナリ即方俗天王森ト稱スル是物部  
 神社ノ地ナルヘキカト疑ヘリ正身再考證各前者證ニ從ヒテ別異ナシ然レニ社地ハ未考ト云  
 前者證及再考證各同轍ニシテ別ニ異ナシ是物部神社ト云名義ニ據テ然祭神ヲ配セシナリ或云  
 物部ノ義ヲ宗トスルニ於テハ饒速日命ノ子宇麻志麻遲命ヲ奉祀ス云ヘシ舊事本記云宇麻  
 志麻知命率天物部剪夷逆賊師軍兵平定海内 云宇麻志麻知命率内物部乃豎予楯嚴增威儀又  
 云天皇武詔宇麻志麻知命曰汝之勳功矣念惟大功也公之忠節焉推至忠也是以先授神異劍崇報  
 不世之勳今配股肱之職永傳不貳之美自今以後生々世々子々孫々八十聯綿必胤此職永爲龜鏡  
 此等ノ言ニ據レハ宇麻志麻知命ヲ物部ノ遠祖トシ此ニ祭祀スルト云徵ナリト云猶憶フニ物  
 部ノ始祖ヲ此ニ祀ルト云キハ上祖火明命ヲ祀ルヘシ宇麻志麻知命ハ神武皇朝ノ人ニシテ遠祖  
 ニハ非ス火明命ヲ祀ルハ餘社ノ例ニ從ヒテ中祖ヨリハ始祖ヲ崇信ノ祀ル處多シニ考證ニ從

ヒテ佳ナリトス然レモ物部神社ノ名ニ據カ故ニ此二神ヲ此ニ異論アリ或云物部神社ト云ハ  
 舊ト山ノ邊ノ訛轉ニノ豐受大神山ノ邊行宮ノ地ナリ然ルニ後世延喜式ニ其時ノ轉變ニ據テ  
 物部ト載ラルカ故ニ舊事記所載ノ二神ヲ此ニ配スルハ後人ノ其舊ヲ未考ノ失ニ據レリ猶物  
 部ノ名アリト云ヘモ式帳ニ神名ヲ記セサレハ其誤傳ナルモ計ルヘカラスト云是卓論ナリ舊  
 名山ノ邊ナルハ必セリ大神宮鎮座本記云泊瀬朝倉天皇雄畧廿一年丁巳十月朔倭姬命夢教覺  
 給ク神太神吾如天之小宮座爾天下氏毛一ッ所爾坐世波御饌モ安ク不聞頂丹波國與佐之小見  
 比沼之魚井原坐ス道主子八平止女乃奉齋御饌都神止由氣皇大神乎我坐國欲反誨覺給支爾時  
 大若子命乎差使氏朝廷爾御夢之狀乎令言給支即天皇祥御夢則天皇今日相夢矣汝大若子使  
 罷往氏布理奉宣支今歲物部八十氏之人等率手置帆負彥狹知二神之裔以齋斧齋鋤等始採山材  
 天隨神教度會山田原乃地形廣大亦麗於是地大田命以金石天下津底根爾敷立天氏搆立寶殿  
 明年戊午秋七月七日以大佐々命奉布理留云從但波國吉佐宮遷幸倭國宇太乃宮御一宿坐次  
 伊賀國穴穗宮御二宿坐次伊勢國鈴鹿神戶御一宿坐次山邊行宮御一宿坐細注云今號壹志郡新  
 家村是也全文ハ度會郡度會宮ノ條ニ載タリ按スルニ雄畧天皇廿一年丹波州與謝宮ヨリ豐受  
 大神遷幸ノ事鈴鹿郡野村ノ地ヨリ本邑ニ次第ノ遷御アリテ一宿ノ地ナリ此順路ヲ以テ後世  
 一志ノ驛舍ヲ不廢ノ所置ナリ本文ニ山ノ邊行宮ト填レハ舊名ナルハ必セリ故ニ前輩万葉第

一山ノ邊御井第十二及山邊五十師原及夫木家隆爲家法親王隆覺等ノ咏ヲ此地ノ所傳トシ或  
 ハ本郡宮古村ノ忘井ヲ混シタル弊說多シ各條ニ注シ及河曲郡山邊村ノ條ニ詳ニセリ此ヲ以  
 テ山ノ邊ヲ約畧ノ物部ト後ニ填タルト云モ由ナキニ非ス然レハ上世ノ皇大神行宮ノ地ニ後  
 ニ物部神社ヲ訛リ置其神社ノ名ニ據テ後人火明命及宇麻志麻遲命ヲ奉祀スト臆斷スルナル  
 ヘシ故ニ姑ク此ニ從ヒテ其所祭神ハ未詳トイフヘシ

木造 新家ノ巽位ニアリ 正稅千六百八石紀州白子領ナリ 東鑑文治三年四月廿九日ノ條ニ  
 新家庄木造寮田哥官寮頭トミヘタリ

東明寺 同處ニアリ 應仁元年足利義親山名宗全細川勝元カ鬪亂ヲ避テ本州ニ潛幸シ同郡多  
 氣ヨリ須賀ノ積善寺ニ到リ其次ニ此刹ニ入ル將軍家譜ニ載タリ其事蹟ハ後號本州須賀ノ條  
 ニ載ス

木造城墟 同處ニアリ國司北畠ノ氏族ノ木造家歷代ノ城居ノ址ナリ 北畠權大納言顯能ノ三  
 男正三位顯俊南朝後小松天皇ニ奉仕ノ本郡ヲ領ス油小路ト稱シ木造御所ト號ス國司北畠家  
 ニ屬ノ一千ノ將ナリ其嗣中納言俊通其嗣權大納言正二位俊康應永二十年入道出家ス其嗣權  
 大納言從二位持康寶德三年薙髮ス其嗣權大納言從二位教親應永二年卒四十五其嗣參議右中  
 將正四位下政宗文龜四年出家四十三法名宗戒其嗣參議左中將從二位俊茂天文二年出家三十

九其嗣左中將從四位下具政實ハ北畠國司晴具ノ三男ナリ天文廿三年薙髮其嗣左中將從四位  
 下具康始左衛門佐ニ任ス以上九世ニノ其系ヲ亡セリ始祖正三位顯俊七世孫左中將俊茂ハ國  
 司北畠左中將晴具ノ姊婿ナリ其男ナシ故ニ具政ノ三男ヲ嗣トシ始ハ木造兵庫頭具政ト稱ス  
 具政別腹ノ男ニ其嗣ヲ命ノ木造左衛門佐具康ト稱ノ本城木造ニ居ス父具政隱棲ノ戸木城ニ  
 遷ル戸木御所ト私稱ス永祿十二年國司具教ハ具政ト兄弟トイヘ矛盾ノ意アリ其時木造家  
 ノ香華所源淨院住侶後還俗ノ瀧川三郎兵衛尉勝雅又羽柴下野守ト稱ス木造ノ長臣柘植三郎左衛門尉等織田信長ノ威  
 風ヲ慕ヒテ木造ヲ屬セント頻ニ説キ進ム具政コレヲ聽ク瀧川伊豫守ニ據テ織田家ニ通スル  
 密策ヲ聞テ國司具教太憤怒シ木造城ヲ撃ントス其長臣柘植三郎兵衛カ妻子ヲ兼テ人質ニ置  
 ケルヲ捕テ其臣中西甚大夫ニ命ノ木造城ノ南雲津川ノ岸ニ母子ヲ縊リ殺シ其屍ヲ串ニ貫テ  
 磔ニス其後澤源六郎秋山右近將監ヲ將トノ南方ノ諸軍本城ヲ撃城兵凡ニ警固ニノ輒ク陷ル  
 ヲ能ハス數日ヲ經タリ天正四年北畠具教同信意没ノ後ハ織田信雄ニ屬ス同郡戸木城ニ居ス  
 本城ハ織田信包ノ知トノ富田平右衛門尉信濃守瀧川左近將監一益方在番セリ天正十二年瀧  
 川一益流牢ノ信包ノ所知ナリ同年木造具康豊臣秀吉ヨリ蒲生飛彈守其餘將兵ニ命ノ戸木城  
 ヲ撃シム和親ノ具康濃州岐阜城ニ至リ慶長五年ノ後福嶋左衛門大夫正則ニ寄テ安藝州二万  
 石ヲ領給シ病逝セリ前條戸木城ノ條ニ併考フヘシ

式外祇園社

祭神素盞鳥命

今同處ニアリ

北畠材親多氣齋瑩曰ひかし陽成の帝の御時天の

下殊にてりかはきてたぬかたく雨いとう降らさりしにさまくの御祈り萬の神にまうさせ  
 賜ひけるに露しるしなかりけるを伊勢の人桑名の吉備磨申けるさいつころ伊勢にかくはか  
 りの事侍りしに出雲に出ける水の神の有けるを海にさゝげけるやかてうるほひ渡りたる雨  
 めてたき例となん申けるさらはさせとみことのり侍りて彼水の神を池にひたし祈りし夜空  
 めさずもなく曇りて雨車のちくを飛はしきさあらん料とてさまくの物を賜ひにけり其神  
 は今の石盡の濱より湖水に入れり其どころを水の上といふは水の神なるへし其年左衛門の  
 船わろふ事にはからす綱にかゝりて彼神を得したうとくかたしけなく家の寶とはなせりか  
 らびたる形なから星移り時かはりぬれと梓にて箱かためたんなれば今いけるかことし家の  
 寶とはなしぬ後の殿の北すみに祭るさねんこれ也

今本邑ニ桃樹ヲ多栽テ林トシ其實ヲ四方ニ貨テ民ノ利トス春月花時ハ燦然トノ愛翫ニ堪タ  
 リ羣客コ、ニ到遊テ觀花ノ宴ヲナス多シ本郡矢野ニ厓然リ

河原木造 木造ノ坤位雲津川ノ岨ニアリ故名ク正稅百二十三石紀州白子領ナリ

舞出 河原木造ノ東ニアリ 正稅二百五十九石紀州白子領津領入組ナリ

甚目 舞出ノ東ニアリ阿濃津府ヨリ南二里 正稅六百六十八石八斗五合民家百四戸紀州白子

領二百五十九石六斗四升民家三十八戶津領ナリ 神風抄云内宮甚目御園一石五斗九十二六月麥

觀音寺址 同處ニアリ往昔觀音寺アリ其本尊觀世音像ハ今尾張州海東郡江上庄甚目寺村眞言宗鳳凰山甚目寺ニ藏ス本尊聖觀音長一丈六尺腹内ノ小佛ハ本州甚目村觀音寺ノ本尊ニノ年記未詳洪水ニ流亡ノ漁史ノ罟網ニ羅リテ尾州ニ出現ノ此寺ニ安セリ佛背ニ本州甚目村觀音寺ノ銘記アリ故ニ其由ヲ識レリト其寺ヲ甚目寺ト號ス村名モ甚目寺ト稱ス建久年中鎌倉將軍賴朝ノ創建ニノ梶原平三景時奉行ス古刹ナリト云彼寺ノ傳ニハ勢州甚目浦ニ出現ス故ニ寺號ニ稱スト謂ヘリ今稽ルニ杜撰ナリ本州甚目浦ノ名ナシ其邑ノ界疆ハ雲出川ノ南二十餘町ニアリ今モ往々洪水ニ流漂ス處ナリ然レハ其寺廢ノ其本佛軀モ漂水ノ爲ニ海東ノ地ニ漂流セシヲ得タルナルヘシ然ルヲ甚目浦ニ得タル故ニ甚目寺ト稱スハ其背面ノ銘文ヲ蔽ヒテ一固有ノ寺刹ヲ罵リ誇ルニ似タリ寺說ハ閱テ姑ク本州ノ舊說ニ從フヘシ

閑法寺 同處ニアリ高一石五斗一升五合紀州領主ヨリ國印免除アリ 見永 川原木造ノ坤位ニアリ 正稅五百六十七石紀州白子領ナリ 神風抄云内宮見長御園廿町 外宮神領目錄見永御園三斗本見永御園二度御祭勤之

新家庄 見永ノ南ニアリ正稅八百廿二石紀州白子領ナリ舊ト爾伊耶ノ訓ニノ近俗訛傳シテ爾

波ト轉スルナリ 東鑑文治三年四月廿九日條又建久元年四月十九日條ニ新屋庄ミヘタリ

稱名寺 同處ニアリ高田專修寺末下野流ナリ自然石佛ヲ什貫トス 寺傳曰稱名寺中興第二泥洹院丁道上人關東巡行ノ時岩流ノ岩窟ニ到ル窟中僉佛像ナリ各大石連綿ニノ石匠ヲ盡ストイヘテ鑿得難シコ、ニ丁道末代ノ龜鑑歸郷ノ賜ニセントテ三日夜丹祈ヲ凝シ巖窟ニ入テ坐ス一佛像ヲ得シト祈ルニ三日ノ曉天ニ一佛體ヲ感得ス隨喜ノ落涙止ラス笈中ニ負テ歸郷ス面貌座光自然ニ儼然タリ今當寺ノ什寶トス記セリ海内佛軀及動物ニ似タル奇石多シ各其地ノ產物ナリトイヘテ一奇ヲ傳フ故コ、ニ標ス

野田 見永ノ西ニアリ 正稅二百六十八石紀州白子領ナリ 屬邑出屋敷アリ野田菴藝郡同名アリ

黒田 野田ノ北ニアリ 正稅二百四十七石紀州白子領ナリ野田ニ對ノ舊名畔田ナリ後訛轉シテ黒田ト記セリ菴藝郡同名アリ 外宮神領目錄云黒田御園米二斗

小川 野田ノ坤位ニアリ伊賀街道ニ民居ス 正稅千二百五十七石紀州白子領ナリ 式内小河神社 同處ニアリ方俗ニ天子ト稱ス祭神靈神 社ノ隅ニ池ノ形アリ須加村須加社

ヨリ半里 度會延經神名帳考證云小川神社龍神在小川村倭名抄云小川平加波越中國雄神神社万葉集云乎加未河伯 度會正身神名帳再考證云小川神社小川村ニ在リ祀神罔象ナリ 今

詳ニスルニ延經考證小川神社ノ名ニ據テ小川村ニ在リ水龍靈神ヲ祀レリト云正身再考證前  
說ニ從ヒ小河ノ名ニ據リ水靈ノ神罔象ヲ奉祀スト云前證ハ小河淤賀美訓同ニ據テ龍神トス  
後證ハ水靈ナルカ故ニ罔象ト排スルト云ヘ凡龍神ニ從フヘシ式社案内記此ニ從ヘリ小川邑  
ハ本郡ニ二ヶ處アリ其一ハ其地多氣河ノ派ニノ雲出川ノ水源ニアリ又其二ハ本邑ナリ各雲  
津川ノ傍ニアルカ故ニ河水防禦ノ爲ニ祀ル處ナルヘシ敦レ二邑ニ所在トスルニ其一ハ水源  
深奥ノ地ニ居ス其一ハ本邑ナリ總テ式社ノ所置ハ他郡各東海ニ邇キ地ニ多シ敢テ深遠ニ置  
所ナシ然レハ此處ニ從テ所祀トスヘシ

宮古 小川ノ北ニアリ伊賀街道ニ民居ス 正稅六百三十九石紀州松坂領ナリ 舊名都ナリ度  
會郡同名アリ 神鳳抄云二宮都御厨麥園 外宮神領目錄云都御園三石内六月鹽一石九十二  
一石又都御園四斗 今詮スルニ舊名ハ都ニシテ宮古ハ後人ノ轉ノ記セルナリ度會郡宮古モ  
然リ孰レ方俗ノ俚言舊昔ニ帝都ヲ經營セシトテ使ヲ遣シ檢セラレシニ其地ノ狭小ナル故ニ  
其事ヲ停ムト云傳ヘリ或云此地ハ舊名未詳天仁元年齋内親王群行ノ歸途ニ官女甲斐カ和哥  
ニ據テ後世名ク處ナルヘシ各非トスヘシ憶フニ一志ハ犬牙ノ地ニアリ上世ノ郡司ノ所居ナ  
リ故ニ其屯倉ヲ此地ニ所置ニノミヤケノ通音ミヤコト轉シタルナルヘシト云其例ハ大倭州  
城下郡富木村ニ宮古ノ森アリ類聚ニ祐峯ノ歌

過行ん三輪の山邊のしるしにてみやこの森の名をな忘れり

即孝靈天皇廬戸ノ宮ノ遺址ニノ此レハ都ノ轉ナルヲ明ナリ然ルニ同村ニ又三宅ノ原アリ屯倉  
ヲ所置ノ地ニノ又三宅宮古ノ訓近キカ故ニ三宅ノ森ヲミヤコト轉セシモ舊都ノ地ナレハ猶  
都ノ森ト稱スモ背クヘカラストモ云ヘリ然ルキハ此宮古ノ地ハ斷斷トイヘ凡ミヤケノ轉訛  
トノ穩當ナルヘシ度會郡ニ隸レルモ然リ其條ニ論セリ

忘井 同所ニアリ

千載集 天仁元年齋宮群行ノ時わすれ井といふ所にて

わかれ行みやこのかたのこひしきにいさむすひ見ん忘れ井の水

本居宣長菅笠日記云ふるき記を案するに千載に群行と記されたれと凡ていつきの親王の京  
にかへりのほらせ玉ふ時此わたりなる一志の頓宮より二道にわかれてなん御供の女房達は  
のほりければわかれ行都のかたとは此里の名に寄てよめりけめ云云今詮スルニ大倭ノ皇城  
ヨリ本州ノ勅使及齋王群行ハ凡テ上世ハ伊賀州ヲ歴テ本州川口及一志ト次第ノ順路ナリ歸  
途モ然リ然レモ齋宮部類ヲ案スルニ天仁年中ハ鳥羽天皇即位元年ニシテ拘于内親王ノ齋王  
ニ定ム時ナシ未群行ナシ天永元年九月八日本州ニ群行ナリ即天仁三年改元ニノ天永トス歸  
京ハ嘉承二年十二月十五日ナリ天永改元ヨリ四年前ニノ千載集云天仁ハ天永ノ謬ナルヘシ

絢子内親王ニノ群行ノ詞書至當ナリ善子内親王ハ不當然レハ絢子内親王ノ時ニノ今ノ京都ヨリ江州及本州鈴鹿郡安濃郡本郡ト次第ノ菴藝ノ棕本ヨリ安濃一志ノ頓宮ニ到ル順路ナリ然ルニ伊勢州ヲ經テ京師ニ至ルハ便道ニノ私ナリ今ヲ以檢スルニ群行ノ供奉人ノ此一志ノ頓宮ヨリ孰レ歸京センヲ慕テ咏ル處ナルヘシ本居考ノ歸京ノ時ニ填ルハ稍ク踈ナリ朝野群載及中右記一代要記園大曆帝王編年記等ニ載タリ多氣郡齋宮ノ條ニ詳ニセリ併考フヘシ又近世同郡市場庄ト久米村ノ間ニ官道ノ傍ニ標石ヲ建テ東都關源内思恭カ筆蹟点井ト題シテ其深奥ノ處ニ小キ窟泉アリ其地ヲ失サラン爲ニ鳥居神祠ヲ設テ其舊址ト罵レリ鄉民好事者ノ所設ニノ妄ナリ此宮古ノ地ハ僻地ニノ諸人ノ便宜ハ好カラス故ニ官道ニ移タル意ナルヘシ然レハ眞跡ニ非ス近刊名所圖會等モ此地ニ從ヒテ四方ノ看官ヲ誣セリ又雜記及拾遺其地ヲ詳ニセス古屋草紙云忘井光明皇后熱病ヲ腦玉ヲ夢想ニ依テ此水ヲ服病忽愈テ点タル如シ故名ク又万葉及夫木所載ノ五十師ノ清水ヲ此處ニ充ツ説モアリ各非ナリ光明后ノ所傳ハ飯高郡伊勢寺ノ謬傳ナリ其條ニ詳ニセリ

勢陽五鈴遺響一志郡卷之三終

勢陽五鈴遺響壹志郡卷之四

天花寺村 宮古ノ坤位ニアリ古昔天華寺ヲ建故ニ名ク 正稅五百廿七石紀州白子領ナリ  
 天華寺 同處ニアリ天智天皇勅創ニノ本尊藥師佛聖德王ノ作ナリ上古ハ大刹ニノ永祿中阿坂軍之時兵燹ノ爲ニ燒土トナリ今纔ニ小堂ノミ遺レリ其舊址ヨリ古瓦及土器佛具等ヲ往々鑿得事アリ 洛東靈芝山大興寺俗ニ芝藥師ト稱ス寺傳ニ天花寺庄ハ彼寺ノ領ナリ將軍足利尊氏夢中ニ一女來テ告曰今世ニ百戰百勝ノ術ヲ授ヘシ大元國ニ軍神ヲ求テ崇敬スヘシ靈夢ニ應ノ元朝ニ乞フニ關羽將軍ノ像ヲ遺レリ尊氏常ニ信仰シ此寺ノ傍ニ安置シ庄園ニハ丹波州波見保庄伊勢國天華寺ノ庄小野庄等ヲ寄附ス即尊氏自筆ノ御教書又家臣高武藏守師直カ狀アリト載タリ今檢スルニ此地ニハ此傳ヲ失ヘリトイヘモ大興寺ニ今ニ舊案ハ存セリ小野モ隣比ノ邑也 東鑑云文治三年四月廿九日丙申條不動仕庄天花寺庄久氣次郎ト沙汰文ニ載タリ

天花寺城址 同處ニアリ天花寺左衛門尉居セリ後ニ同郡蘇原城ニ移居ノ越中守ト稱ス

一志 天花寺ノ坤位ニアリ本郡ニノ一志ト稱スルハ所謂親里ト云ナリ一志郡司ノ所居也神宮雜事記云康平三年八月三日伊勢守義高被配流於隱岐國已丁事發以去元年七月天件ノ守爲檢

田入郡一志郡之處郡司伊元宿禰之住宅燒拂已了而件宿禰乍爲郡司 豐受大神宮之御領字阿射賀兼任也仍供祭物徵納之間同以燒失了依即件訴天被配流也

藥師寺 同處ニアリ高二石三斗二升五合紀州領主ヨリ免許アリ 一志正稅四百七十一石紀州白子領ナリ

平尾 宮古ノ良位ニアリ 正稅六百八十八石久居領ナリ多氣郡同名アリ

片野 平尾ノ乾位ニアリ 正稅五百五石久居領ナリ多氣郡同名アリ

須賀瀨 平尾ノ良位ニアリ雲津川ノ水涯ナリ正稅千三百八十石紀州白子領久居領入組也今詳

ニスル二千三百八十二石七斗八升民家百五十七戶 屬邑高橋 本邑ノ南ニアリ 須賀ハ砂

石ノ意ニノ河流ノ瀨ニ民居スルノ謂ナリ 神風抄云外宮北高橋御園麥上分一石 外宮神領

目錄云北高橋御園麥一石九月菓子

須賀瀨城址 同處ニアリ渡邊筑後守居ス

八太 宮古ノ北ニアリ伊賀街道ニ民居ス安濃津府ヨリ坤位三里ニアリ 正稅千四百四十七石六

斗五升民家三十一戶久居領ナリ舊名ハ八多或八田ト録ス和名類聚抄八多ノ郷ナリ或波多ト

記ノ波多ノ横山ヲ填ルハ非ナリ 大倭州山邊郡ナリ前條ニ詳ニセリ 神風抄云外宮八太御

厨七十五丁廿五石外宮八太御園四斗雜用一石二斗 外宮神領目錄云八田村當時御費粗米二

俵又本郡此地ヨリ南西ニ八田アリ八ツタト訓ス同字混スヘカラス 八太川アリ板橋ヲ架ス

式内波多神社 同處ニアリ俗龍王宮ト云社傍川上ニ石橋アリ長四尺幅二尺許硯面ノ形ノコト

ク橋ノ裏ニ地藏ノ像アリ 榊原射山社ヨリ三里半 度會延經神名帳考證云波多神社填安神

在波多村倭名抄云八太 鉢多 大和國波比賣神社倭名抄云駿河國埴生反布 按多田也 度會正

身神名帳再考證云波多神社和名抄八太 多 雜例集云一志郡外宮八太御園上ノ例ニ因レハ御厨

ニ祀ル處ニノ倉稻魂命アリ又考ルニ万葉集ニ十市皇女參趣於伊勢神宮時見波多横山岳吹黃

刀自作歌河上乃湯都磐村爾草武佐受常丹毛冀名常處女煮手ユツイハムラハ五百箇磐石ナリ

いほノ切第五ノよ第三ノゆニ轉ス例前ニアリ日本紀第一卷ニ伊弉諾尊斬軻遇突智爲三段此

各化成神也復劍乃垂血是爲天安河上所在五百箇磐石也即此經津主神之祖也ト是ハ香山ヲ折

テ出シ處ノ巖ヲ云然ルニ同第二卷經津主神ノ系譜ヲ云フニ磐裂根裂之子磐筒男磐筒女ノ所

生經津主神トアレ彼巖ノ下ヲ裂流ル、水ノ靈無形ノ神ヲ祭ノ主トナル經津主神ノ祖トスル

ナリ是以テ思フニ波多シ磐村モ河邊ニテ此神社ハ磐筒男ヲ祀ルモ云ヘシ 今詳ニスルニ延

經考證波多神社ノ名義ニ據テ大和國波比賣神社及倭名抄駿河國埴生ヲ引徵シテ祭神埴安神

ニ定ム其據未詳故ニ此神社ニ奉祀スルト決シ難シ正身再考證神宮雜例集ニ八太御厨同御園

ヲ所置ノ地ナレハ前例ニ倣ヒテ穀靈稻倉魂神ヲ祀ルヘキト云ヘ凡万葉吹黃刀自ノ歌波多横

山ヲ此地ニ填テ湯津磐村古事記云伊邪那岐命拔所御佩之十舉劍斬其子迦具土神之頸爾着其御刀前之血走就湯津石村所成神名石拆神日本書紀五百箇磐石ニ相同シ故ニ波多ノ磐村モ此水涯ノ一ニノ磐筒男神ヲ奉祀スルナルヘシト云ハ其引據ハ然リト云ヘ凡波多横山ハ恐ク此本郡波多ニ非ス大倭州ニ所在ト謂ヘシ然レハ此地ニ非ス舊ト磐村ノ哥ニ據テ磐筒男ヲ祀ルト云モ臆斷ナルニ況ヤ其地ノ異ナルニ據レハ眞トスルニ難シ波多横山ハ既本州鈴鹿郡條ニ解セリ併稽ヘキナリ式社案内記填安神ヲ奉祀スル處ト云此前證ニ從ヘリ或云古事記云波多八代宿禰命武内宿禰命ノ後也即孝元天皇ノ皇孫武内臣ノ兒ナリ波多ノ臣ノ遠祖ナリ故ニ此ニ祀レリト云倭名抄八太ニ填ルト云ヘ凡舊ト波多ナリ延喜式所載ノ如シ凡テ和名鈔ハ舊名ニ異ナル多シ敢テ八太ニ拘泥スヘカラス然ルキハ地名ニ據テ波多神社ノ名起リ波多ノ臣ノ此地ニ上世所居ノ因モアリテ其祖ヲ奉祀スト云モ誣難シ姑ク此ニ從テ八代宿禰命及武内宿禰等ヲ祀ル處ト謂ヘシ

八太城址 同處ニアリ永祿年中田上讚岐守同子息田上右近居セリ國司北畠家ノ屬臣ナリ飯高郡大河内軍ノ時城兵ノ連署ニアリ國司滅後豐臣氏ニ屬ノ其男田上兵衛尉父子朝鮮ノ役ニ戰死ス此ニ至テ家系滅ス永祿中ノ後天正ニ至リ日置大膳亮モ居セリ天正十二年豊臣氏命ノ蒲生飛彈守氏郷ノ與力生駒彌五左衛門尉ヲ居セシム

小山 八太ノ坤位ニアリ 正稅四百七十四石七斗五升民家十九戶久居領ナリ

垂水 安濃郡界ニアリ官道ニ民居ス 正稅七百二石津領ナリ或垂見凡書ス 屬邑米津 垂水

ノ東瀨ニアリ垂見ノ名義ハ涌泉ノ謂ナリ然ルニ垂水ノ君ノ子孫垂見定長ヨリ四代垂水廣信一本廣舒ニ作久安中年前ヨリ此地ニ居セシト必セリ故ニ名ク 神風抄云外宮垂水御厨九斗異本云上分一石雜用三石 外宮神領目錄云垂水御厨九斗内六月蓋三斗九十二同前 產物幅廣ノ木綿布ヲ織テ四方ニ販ク方俗垂水木綿ト稱ス

垂水廣舒舊墟 清水舊墟ノ邊ニアリ垂水家ノ事蹟古事記伊邪河宮ノ段 姓氏錄 本朝通記 本朝諫爭錄 多氣窗釜 延喜式攝津國豐嶋郡垂見神社 和名抄播磨國長濟草等ニミヘタリ垂水廣舒ハ垂

水定信ヨリ四世河内守ニ任シ後醍醐天皇ノ諫臣ニノ歴代此地ニ居ス祖業ノ地ナリ本邑ノ北ニ鷺山ト云地アリ其山嶺ニ城跡アリ天文年中ヨリ以前ノ舊墟ニノ廣舒在住ノ地ナルヘシ其鷺山ノ稱ハ散位山ノ轉ニノ致仕散官ノ意ナルヘシ 古屋草紙ニ廣舒ノ子孫飯野郡蛸路村ニ居ノ今ニ存セリト謂ヘリ非ナリ飯野郡阿和曾ノ條ニツマヒラカニセリ

垂水山成就寺 同處ニアリ一本長法寺ト號ス 本尊大日如來 天台宗 開基弘法大師往昔ハ大刹ニノ僧坊十六宇アリ寺領二百貫ノ地ニノ伽藍也相傳云白河法皇伊勢行幸ノ時此ニ駕輿ヲ停メ寺領ヲ寄セラレ元龜年中兵亂ノ爲ニ寺領佛刹モ悉ク頽廢ノ本尊ノミ民屋リ安置セリ後ニ小堂ヲ



造營ノ今ニ存ス處ナリ今ノ堂ヨリ西十町餘ニ本尊大日如來出現ノ地ト稱ノ靈泉涌出ス處アリ字ヲハシヲヨ山ト名ク此山ニ下品ノ介石土般孽ヲ産ス雨後ニ往々拾得タリ 土人傳云往昔西行法師此寺ニ詣ケルニ住侶ノ智ヲ計ント思フヲ本尊佛智ニ曉リマシテ小童ト化ノ傍ノ樹上ニ昇リ戲ルヲ見テ西行一聯ノ歌ヲ示ス

猿兒と見るよりはやく木にのぼり

ト口號セシニ彼小童答曰

犬のやうなる法師來れば

ト聯ノ歌ニ答ヘケレハ西行奇特ノ事ニ感ノ其思ヲ止ムト傳ヘリ 今詮スルニ白河天皇瑤輿ヲ此寺ニ停留シ又西行上人問答歌ノ事蹟雜記及勢陽府志拾遺古屋草紙俚諺等雷同ノ標出ス白河天皇行幸百鍊抄及神宮錄等ニ曾テ不載處ナリ或云二十一社記注又諸神記ニミヘタリト云ヘ未詳或ハ嘉元二年校定百鍊抄頭書日大治元年八月十日條大上法皇渡御新造室町殿号泉殿云 或記曰此年兩院有欲參大神宮之儀云此兩院ハ白河法皇鳥羽上皇ナリ前ニ云大上法皇ハ鳥羽天皇ニノ大神宮參幸ノ催アリトイヘ未終ニ行幸ナシ寺傳此地ハ停輿ハ妄誕ナリ又西行問答ノ和歌ノ相似タルニ古今著問集ニ載タリ好事者流此說ニ據テ偽妄セシト見ヘタリ 古今著問集第五曰基俊城外しける事道に堂有るに棕の木あり其木に六歳はかりなる小童のほりてむくを取てくひけるにこゝをは何といふると尋ければやしる堂と申と答へけるを聞て基俊何となく口すさみに童にむかひて

此堂は神かほとけかたなつか

といひたりければ此童打聞て取もあへす

ほうしみこにろ問ふへかりける

といひけり基俊あさましく不思議にたほへて此わらわはたゝものにはあらすとろいひける 藤方 垂水ノ南ニアリ安濃津ヨリ南位一里官道ニ民居ス 正稅七百七石津領ナリ舊名藤形或藤瀨ト記セリ 日本雄畧天皇紀云土師連祖吾晉進伊勢國藤形村キヤサ私民部名曰贊土師部云神鳳抄云二宮藤方御厨鹽六荷 外宮神領目錄云藤方御厨六荷内鹽二荷九十二同前 一本焼出ノ里藤方ノ舊名ナリト又雜記所載ハ度會郡通村ノ内ニ焼手ノ里ト云小村アリ鹽燒ヲ業トス名寄證心法師長明ノ和歌ヲ引リ大ニ非ナリ或曰往昔ハ此地ヨリ雲津郷長常十五所邊ノ海瀨ヲ總裁ノ一志ノ浦ト稱シ焼出ノ里モ此内ニ存セシナリ又勢陽府志云焼出里ハ藤瀨村ヨリ雲津村マテノ海邊ノ里ナリト記セリ大神宮雜事記曰醍醐天皇延長六年四月十三日條一志ノ神戸嶋拔ノ御厨預等ノ申文云當神戸者是二宮御鹽調備供進奉所也而御鹽濱ノ四至阡陌所指有限 下畧 神鳳抄云一志郡外宮神領目錄云焼出里御厨鹽九斗内六月鹽三斗九十二同前

夫木集

證心法師

壹九十四

打過る人もけふりに馴よとや藻塩焼出の里の松かせ  
名寄

晴のほる霧にたぐれてたつ雲はやきての塩のけふり也けり  
此哥鴨長明伊勢記曰伊勢へ下りけるにやきての里くもつの濱などすぐるをどにや霧晴れ  
行いせの海の沖のしら洲濱の松原ほのくどあられわたるを見れば鹽竈の敷もしらすう  
ちちりて繪にかけることくなるをよめるト載タリ 古屋草紙海道記立のほる雲もけふりに  
馴よとてト載テ誤レリ雜記此二首ノ哥ヲ引テ名寄ニ載トノ其名ナシ妄也 今詮スルニ雲津  
七郷ノ内長常ハ東北ノ海濱ニノ方俗雲津ノ鍋鹽ト稱ノ今多ク焼テ四方ニ鬻ク其製他ノ鹽竈  
ニ異ニノ鉄鍋ニテ焼ク故ニ鍋鹽ト名ク是古昔製ヲ遺タルナリ又焼出ノ里ト稱スルハ舊古藤  
方ヨリ東ニアリ万治二年九月潮ヲ焼ク濱ヲ廢ノ田圃ニ耕ノ今ノ如ク廢セリ其地ヲ字ニ燒  
出ト稱ス其邑ハ久ク絶テ鹽濱ノミ遺在セルヲ水田ニ耕耨セシナリ然レモ舊名ハ今ニ存ス凡  
テ雲津郷ニ及テ往昔ノ御厨ノ地ナリ 紀由章名所拾遺追考云焼出里ハ津ヨリ南藤方村ノ邊  
ニアリ世俗ヤデント謂ヘリ雲津ノ少シ北ナリ或ハ前説ニ本邑ヨリ雲津ニ至ル海濱ナリト云  
ハ鹵莽ナリ今モ本邑ノ南ノ小森上野ノ民家ニ柿桃ノ大ノ燒鹽ヲ旅客ニ販クアリ上古ノ産物

ノ遺風ナルヘシ 又藤方ノ名義ハ生土神ノ小祠アル森アリ其鬱林各大樹ナリ其中ニ周三園  
許ノ藤花ノ藥生ヒ縷リテ春夏ノ交花時ハ壯觀ナリシカ今ハ纔ニ其形ノミ遺レリ藤瀉ノ名モ  
コレヨリ起レリト謂ヘシ津府ノ南ニ藤枝ト云アリ此ニ隣比スル故ニ名ク處ナリ  
名寄 大内の御料權中納言隆俊伊勢に下りてふじ瀉といふ所の松とて五寸はかりなる松と  
ものいみしく老木のやうになりて苦むしなんとしたるを奉りければよめる

皇后宮下野

あらはにも千代のしるしの見ゆるかないのりかけたる藤瀉の松

類聚哥林

光俊

引こして人わすれすは藤かたの松もむかしのものかたりせよ

夫木

好忠

ささくさももへぬらめやも春來なば若菜つむへき藤瀉の山  
名所拾遺追考紀由章云此ホトリニ此山ノ名ナシ別處ニ非スヤ云  
建久元年齋宮良子内親王家貝合

よみ人しらす

藤かたにこきむらさきの色貝は幾しほ浪の染かへしけん

壹九十五

紫のかひある浦の藤かたは浪のかゝるる花と見へける  
古哥 勢陽俚諺ニ載タリ舊ト雜記ニ所載ニ其集ヲ不知

我庵はいはね岩まつ岸のうへの松にかゝれるふじ瀉の里

本邑ニ往昔孝元天皇四世ノ孫武内宿禰ノ裔愛曾國政ト稱ス弓ニ名譽ノ人アリ文華モ名高ク  
加良須ノ社八詠詩ヲ作り後ニ飯野阿波曾隱棲セリ其遠孫愛曾伊勢守南朝ニ奉任ス事蹟北島  
權大納言材親記及太平記ニ載タリ飯野郡阿波曾ノ條ニ詳ニセリ此ニ畧ス前ニ謂フ垂水氏ノ  
後裔ノ同郡蛸路ニ隱棲スルモ此謬傳ナリ然レ今ニ至リ証ヘカラス方俗ノ所傳ニ從ヘリ

一志郡 一志郡ニノ垂水藤瀉ヨリ雲津星合等ノ東海瀨ヲ總ノ指ス名ナルヘシ 古今著聞集卷  
二十云東大寺ノ上人春豪房伊勢ノ海一志浦ニテ海人蛤ヲケルヲ見玉ヒテアハレミヲナシテ  
皆買取テ海ニ入ラレタリユ、シキ功德ツクリ又ト思ヒテ臥玉タル夜ノ夢ニハマグリ集リテ  
患ヘイフヤウ我畜生ノ身ヲウケテ出離ノ期ヲ不知タマノ宮ノ御前ニ參リテ已ニ得脱  
スベカリツルヲ上人ヨシナキ憐ヲ玉ヒテ又重苦ノ身トナリテ出離ノ縁ヲ失ヒ侍リヌル悲哉  
ヤノト云フヲ見テ夢覺ニケリ上人啼泣シ玉ヲ限リナカリケリ  
千載集 道田法師

伊勢嶋や一志の浦の蛋たにもかつかぬ袖はぬるゝものかは  
新古今 俊成

けふとてや磯菜つむらんいせ嶋や一志の浦の海士の乙女子  
新勅撰 家長朝臣

梓弓一志の浦の春の月あまのたゝ繩よるも引なり  
玉葉 鎌倉右大臣

月清みさよふけ行はいせ嶋や一志の浦にちどり鳴なり  
新拾遺 法眼源承

玉藻刈る一しの海士のぬれ衣夕日も寒く霞隆るなり  
御集 後鳥羽院

伊勢嶋や一志の浦の海士乙女春をむかへて袖やはすらん  
式内加良比神社 同處官道ヨリ四丁奥ニアリ方俗片樋宮ト訛稱ス 祭神乾飯根命矢野稻葉

社ヨリ二里 度會延經神名帳考證云加良比乃神社乾飯根命在藤方村日本紀崇神云出雲之  
臣遠祖甘美韓日挾同雄畧紀云土師連祖吾筈進伊勢國藤形村私民部名曰贊土師部姓氏錄云土  
師宿禰天穗日命十二世孫可美乾飯根命之後也世記云安濃藤方片樋宮按韓日乾飯片樋竝言通

安濃壹志兩郡之交也故古記或爲壹志藤方今屬壹志郡 度會正身神名帳再考證云加良比乃神社姓氏錄云天穗日命十二世ノ孫可美乾飯根命後也此命ヲ此郡ニ祀ルハ雄略記ニ土師祖吾等進伊勢藤形村私民部名曰トアリ考證ニ大神ノ片樋宮ト混セルハ非ナリ宮ト神社トハ別ナリ社地未考此乃ノ字手爾遠波ニ非ス日本紀第一卷ニ湍土煮ヲ一云湍土根トスルカ如クにトぬハ古ク訛リ來タレハ乾飯根ヲラビニ云テにノ用のトナリシナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ加良比乃神社ノ名義ハ乾飯根命ヲ奉祀スルニ起リ其神社ハ藤方村ニアリ其故ハ日本雄略紀ニ土師連吾等天朝ニ伊勢國藤方村私ノ民部ヲ進ス名ヲ賜テ贊土師部ト云又其土師ノ宿禰ノ祖ハ天穗日命十二世ノ孫可美乾飯命ナリ此ヲ以テ藤方ニ此神ヲ祀リ其神名ヲ以テ神社ニ名シナリ日本崇神紀ニ出雲之臣遠祖甘美韓日挾即乾飯ニ同シ韓日乾飯ニ以テ神通ス倭姫命世紀云安濃藤方片樋宮ニ同ク故ニ加良比乃神社ト名ク其社地ハ安濃壹志ノ二郡ノ間ニアリ舊記ニハ壹方ニ作ル今モ壹志郡ニ屬スト云ナリ憶フニ加良乃神社ノ名義ハ乾飯命ヲ祀ルニ據リ日本崇神紀及雄略紀姓氏錄ヲ引徵ノ此藤方村ニ神社ノ存スルハ各然リトスヘシ然レハ倭姫命世紀云安濃藤方片樋宮ノ地ニ加良比片樋ノ訓相似タルヲ以テ混合スルハ大ニ非ナリ加良比ハ安濃壹志二郡ノ相接ス中間ニアリ上世ハ今ノ垂水及藤方村安濃郡ニ屬ノ延喜式ニモ安濃ニ隸屬セリ後世其界域ヲ異ニシ壹志郡ニ屬ス今古ノ差ナリ片樋宮ノ地ハ舊記ニ錄

スル如ク壹志郡ニ屬ノ今古其異ナシ加良比片樋各別ニノ壹志郡阿坂ノ條ニ詳ニセリ併稽ヘシ正身再考證ニ注解スル考證ニ倣ヒテ別ニ論ナシ加良比片樋各自ニ別處ナルハ既ニ辨セリ加良比乃乃ハ泥土根ノ神名ト同ク養根訛用シ根ハ乃ニ通音ナル故ニ乾飯比根命ノ名ヲ正ニ神社號ニ用タルト云解ナリ乃ハ餘社ノ田乃家大乃己曾ノ助字例ニ非ス實ニ神名ノ根ニ通スノ訛傳ナリ發明スト謂ヘシ古屋草紙神鳳徵古錄等ニ祭神土師宿禰此處ヨリ土器ヲ大神宮ニ獻ス云云前ノ日本雄略紀姓氏錄ニ據レリ然レモ二宮ニ此ヨリ土器貢獻ノハ舊典ニナシ其片樋宮ニ混スルハ倭姫命世紀一書云本文ニ天照大神自美濃國廻到安濃藤方片樋宮云ニ從ヒテ惑ヘルナリ此ニ據テ伊勢舊蹟聞書及勢陽俚諺等ニ異說アリ各無稽ノ言ニ據テ惑論ナリ各後號木郡阿坂片樋宮舊墟ノ條ニ詳ニセリ

上野 藤方ノ南ニアリ官道ニ民居ス方俗小森上野ト稱ス菴藝郡上野アリ往昔城府ノ地ナリ屬邑高茶屋本邑ノ南ニアリ元祿年中圖ニ町屋ト記セリ貨茶店多シ 本邑上野ハ上世ハ藤方ト一邑ナリ今藤方上野小森ト分レリ 正稅四百九十一石津領ナリ  
藤方城址 同處ニアリ永祿年中圖司北畠ノ分家藤方形部少輔具俊入道慶由及其嗣子藤方形部少輔居セリ藤方御所ト稱ス或曰藤方村ニ形部少輔居シ上野ニ餘吾將軍平惟茂後裔奥山常陸介住ス各多氣國司ノ幕下ナリ然レモ北畠物語ニ小森上野城主奥山左馬允ト載ス其祖先ナル

へシ藤方慶由及形部少輔天正年中斷亡セリ事實ハ度會郡三瀬條ニツマヒラカニセリ  
小森 上野ノ南ニアリ官道ニ民居ス 正稅九百八十八石津領ナリ 神風抄云内宮小森御厨四

貫 外宮神領目錄云小杜御厨鹽三石内六月一石九十二同

嶋貫 雲津川ノ北厓ニアリ雲津郷ノ内ナリ安濃津ノ東二里ニアリ舊名雲途或雲出厓後世ニ記

ス上世ハ嶋貫ト録セリ官道ニ民居ス 正稅二千九百五十七石紀州白子領津領入組ナリ本郷

本邑ハ津領ナリ 屬邑長藤白子領ナリ本郷ノ東ニアリ 伊倉津長藤ノ巽位ニアリ 十五所

伊倉津ノ北ニアリ 長常十五所ノ乾位ニアリ 高峰本郷ノ巽位ニアリ 池田嶋貫ノ北ニア

リ 以上雲津七郷ト稱ス本邑ハ嶋貫ノ東ニアリ嶋貫ハ條郷ナリ然レトモ官道ノ驛路ニ在カ

故ニ世俗雲津ト稱ノ本邑ノ如ク惟ヘリ 神風抄云内宮嶋貫御厨三石塩 外宮神領目錄云外

嶋貫御厨六月鹽二石九月一石十二月一石神宮雜例集云一志郡二宮御領嶋貫御厨 和銅風土

記云雲宇途郷公殺三百九十束三毛田貢竹梅桃櫻等及柴胡川芎等 云和銅年中ハ上世此郷名

アリ和名類聚ヨリ後ハ此名ナシ今雲津郷ト私稱スナリ桃梅ヲ貢ス今絶テナシ然レ厓同郡矢

野ニ桃林多栽テ花時ハ遊賞ノ騷士多シ夏月ハ甜瓜菜瓜ヲ多産ノ民利トス夏秋ノ間桃實ヲ四

方ニ鬻ク矢野桃ト俗稱ス此地及木造等ハ今所裁多ク桃樹ニ應スルノ地ト謂ヘシ貢獻ノ事ハ

亡シトイヘ厓上古ノ遺習ナルヘシ

矢野 雲津ノ内高峰ノ巽位ニアリ津ノ東口藤枝ヨリ到ル岐道アリ標石ヲ建二里雲津川ノ下流

ニ岐ニ分レテ一洲ノ嶠ヲナス所謂辛洲ノ名ニ應セリ 正稅七百六十三石津領ナリ度會郡同

名アリ 屬邑 小松本邑ノ良位ニアリ 神風抄云内宮箱木御園一石外宮三石鹽雜用三石

外宮神領目錄云箱木御園三石内六月鹽一石九十二一石宛外宮當時御贄鳥目一貫矢野村「箱

木一本傍注矢野ト記ス

式内稻葉神社 同處東ノ瀨辛洲崎松林ノ中ニアリ世俗加良浪明神ト稱ス祭神稻羽八上比賣命

其兒木俣神二座 入口左右桃林アリ小川橋ヲ架ス鳥居社司右手水處左ニ神樂殿中央鳥居正

面本社左右殿造替ノ度ニ社地東西ニ變レリ 同處式外落合社アリ本社ヨリ川ヲ陟リ二丁許

ニ三尺許ノ塚アリ大明神ト俗稱ス星合社ヨリ五丁許乾位ニアリ此邊星合領ニノ矢野ノ農民

耕作スト云 三代實錄第十貞觀七年夏四月十五日乙丑授伊勢國正五位稻葉神從四位下從五

位上勤七等椿神正位下 度會延經神名帳考證云稻葉神社二座稻羽八上姬命木股神在矢野村

加良浪社小加良浪社此乎國造本紀云稻葉國ハ因幡也因幡國ハ上郡大江神社江與屋言通大屋

姬命出出雲風土記云八野若日女命素盞鳥命實ハ其荒魂也今在矢野村八與矢同訓加良浪者勢

陽雜記月水過通詞之誤也稻葉神名亡婦女祈月事稱神驗爲名乎祭禮六月十六日與祇園御靈會

同月同旬 度會正身神名帳再考證云稻葉神社二座稻葉ハ稻場ナリ前ニ出牛庭ニ同ク稻稻ヲ

乾ス處ナリ俗ニカラス崎ト云ハ稻ヲ枯スノ崎ナリ又名所トノ星合濱ト云ハ乾會ノ濱ナルヲ  
 雅言ヲ以テ呼シナリ其邊ニ月讀宮ノ舊跡ト云處アリ是ハ苜稻ノ事ニ據テ此神社ニ月讀尊保  
 食神ヲ二座祀レルヲ中古誤テ二社トナセシヲアリシナルヘシ今ハ不然俗ノ月經ノ祈ヲナス  
 ハ月讀ハ月清ミノ辭ニ通ヘハナリ月經ヲ月トノミ云フ古事記素盞尊ノ御哥ニ見エタリ今  
 詳ニスルニ延經考證ニ稻葉神社ノ名義ニ據テ國造本紀ヲ引徵ノ稻葉國ハ即因幡ニ稻羽八  
 上姬命同國八上郡大江神社ノ江屋ト同ク大屋姬命ナリ此ニ稻羽ハ上比賣ト同神又云今矢野  
 村ニ在スニ據リ出雲風土記所載素盞尊女八野若日女命荒魂ノ名ニ八野矢野ノ訓相同ヲ以  
 テ附會シ此等ノ神ヲ奉祀スル處トノ方俗婦女ノ月經ノ通滯ノヲ祈ルニ神驗ニ應スト云ニ  
 據テ愈女神ノ意トシ猶加良須ト稱スルハ勢陽雜記度會郡山田常明寺境地ノ月經ノ不順ニ流  
 水ヲ汲用ル處土俗加利屋須岐ト稱スルヲ混合ノ加良須ノ名ハ此加理屋須岐ノ通詞ノ轉訛ス  
 ルノ名ナルヘシ例祭六月十六日祇園牛頭天王會ト相同シ是素盞尊命ノ女八野若日女命ヲ祀  
 ルニ暗ニ合スルノ謂ナリ案スルニ出雲風土記ヲ引ハ出雲此地ノ通キ雲出ニ合シ稻葉因幡ニ  
 牽強シ失野ニ八野ヲ附會シ本社ハ八上姬命即八野若日女命ヲ祀リ小加良須社ハ若日女命ノ  
 兒木俣神ヲ合祀ノ延喜式所載ノ二座ニ填ルノ義ナリ猶加良須ノ名ハ婦女ノ月事ヲ祈ルニ據  
 ルノ解ハ恐クハ非ナリ前說奉祀ノ神ヲ必定スト云ヘテ諸家異同區々トノ一定シ難シ或云伊

井諸尊ノ女可良須女命ヲ淡路ノ津名彦ニ婚ノ兒ヲ産テ即薨ス其可良須女命ノ荒魂ヲ本社ニ  
 祀リ小加良須社ハ可良須女命ノ生ル兒天水中主命ナリ即加良須ノ名此ニ起レリト粉河洞鶴  
 加良須考ノ說ナリ 社記云祭神天津雅日神即伊井諸冊尊ノ兒天照大神ノ妹ニノ欽明天皇朝  
 攝津國活田長挾國ヨリ此伊勢國加良須ノ地ニ遷リ矢野ノ神山ニ數歲ヲ經テ庶民ノ祈願ヲ滿  
 足セシムト云是前考證ニ云八野若日女命ヲ所出ト同轍ナリ又云加良須社祠官今井氏修造勸  
 緣牒云延喜式神名帳所載須氏神社トス稻葉神社ニ非スト云然レテ其徵ナシ故ニ不取云以  
 上三說各其祀ル神ヲ異ニス其須氏神社ト云ハ正身再考證ニ云稻葉ノ名ハ稻ニノ牛庭神社ノ  
 名義ト同ク苜稻ヲ乾スノ場ナリ加良須ノ名稱モ其稻ノ木ヲ乾枯ノ謂星合濱ノ名義モ此ニ據  
 テ稻ヲ乾シ會スル處ノ海濱ノ稱ナルヲ雅致ニノ星合ト云ニ同シ其地境ニ月讀命ノ舊蹟ト稱  
 スルアレハ此社ニ月讀命及保食神一座ヲ上世ニ祀ルヲ後人誤テ二區ニ別チ祀リ加良須社  
 小加良須小加良須社トスナルヘシ方俗ノ月經ノ禱ルハ月讀命ノ名ニ合ヒテ神驗ヲ稱スルナ  
 リト云は無稽ノ言其徵ヲ舊典ニ考ヘキナシ各前號ヲ排セントスルノ誣言ナリ從ヒ難シ前ニ  
 須氏神社ニ充ルハ此星台ノ濱ト加洲ノ名義同キニ據テ此ニ牽強ノ稻葉神社ニ充ル處前說ヲ  
 斥スルノ設ナルヘシ其故ハ神號ハ後號ニ辨ス加良須ノ名ハ前考證月經ヲ禱ル處ノ轉語ニ非  
 ス後考證禾稻ヲ乾枯スルノ處ノ謂ニ非ス各非トスヘシ加良須ハ俗名ニノ或ハ辛洲崎ニ書ス

其神社此辛洲崎ノ岸鬱林ニ在テ常ニ海鳥及鳥鴉等ノ宿ス處ニノ鳥崎ノ名ヲ往昔ヨリ稱セシ處ナルヘシ勢陽雜記例祭ノ日鴉ヲ畫タル扇ヲ販ク遺事アリ既ニ北畠材親記ニ西行法師此社傍ニノ畫鴉ノ扇ヲ得タルト云所傳アレハ直ニ鳥崎ナルヘキノ徵ナリ後號ニ全文ヲ標ス然ルニ今辛洲ト書スハ此神社ニ對スルノ海灣各崑石多ノ往來ノ通船風波ノ時ニ遇ヘハ其千辛万苦ノ此地ノ崑石ヲ避テ陟ル處ナリ故ニ辛苦ノ義ヲ合テ辛洲ト轉セシト云各其徵アリト云ヘ凡舊名鳥鴉ノ棲居スルノ地ニ據テ名ケ其地名ニ據テ畫鴉ノ扇ヲ販クト云ヲ舊シトノ鳥崎ナルヲ必セリ前考證ニ素盞鳥尊女稻羽八上姬命ヲ祀ルニ據テ例祭六月十六日祇園會ト同月同旬ト云ヘトモ俗說ニ攝津國生田神社所祭ノ天雅日女命勢陽雜記ニ天照大神ノ御妹ノ御神ニテ坐ス每歲六月十六日祭禮トス伊勢ノ祠官等モ此神ノ由來ハ考ヘ明サヌ由ナリ云 其時世ノ俗弊ト云ヘ凡天雅日女命ヲ祀ルト云ニ邇シ然凡天照大日靈貴尊ニ神系ニ御妹ナシ日本書記一書ニ天照大神ノ御妹ニ載ラルニ據レハ此ニ據テ神宮月次祭ハ六月十六日十七日ナルニ擬ノ此社ニモ同日ヲ例祭トスナルヘシ考證ニ祇園會同月同旬ト云ヘ凡祇園ハ十四日ナリ牽強ノ八上比賣命ニ填ソカ爲ニ設タル附會ノ說ナリ雜記謂處ノ伊勢祠官等此神ヲ不考ト云ハ妄ナリ前考證度會延經既ニ注セリ慶安ノ中ナリ雜記撰著明曆中ニノ山中爲綱同時ノ人ナリ何ソ此考證ヲ不識ハ臆見ナリ其稻羽八上姬命ヲ奉祀スルト云ニ據ルニ舊事本紀第十一云

天照大神ノ兒大已貴命兄弟二神有欲婚稻羽八上姬相伴共行稻羽於是八上姬答事八十神不聞汝言將嫁大已貴命因斯事八十神欲殺大已神而語黑怪神狀議而議之大已貴神謂我在此國爲事八十神應遂所滅矣乃速退往至木齋國云 古事記云此大國主之神之兄弟八十神坐ス其八十神各有欲婚稻羽之八上比賣之志共行稻羽時於大穴牟遲神負袋爲從者率往於是到氣多前時、裡菟伏也其菟白大穴牟遲神此八十神者必不得八上比賣雖負袋汝命獲之 度會彥敬云新家清政語曰往昔香良洲神社、森繁茂而白菟住焉今森無木枯而無其事矣 古事記所謂稻羽素菟有八上姬之據云云或云嶋貫村ノ東北ニカラスノ森ト稱ス小鬱林アリ是稻葉神社ノ舊址ナリ後ニ今ノ洲崎ニ遷シ祀レリト云是森繁茂ノ白菟住メリト云ニ相邇シ今神域ノ海濱ナルヲ檢ノ古ヲ不知レハ解シ難シ此ニ據レハ前考證ニ同ク八上比賣命ヲ此ニ祀ルニ必スルノ謂ナリ稚日女尊ヲ徵スルハ日本書紀一書云是後稚日女尊坐于齋服殿而織神之御服也素盞鳥尊見之則逆剝斑駒投入之殿內稚日女尊乃驚而墮機以所持梭傷體而神退矣云 云即稚日女尊攝津國矢田部郡生田神社ト同神ナリ式社案内記今云加良須社ノ内小加良須社ト云是方俗本社ヲ天照大神ヲ祀ルトシ小加良須社ト稱スルヲ此稻葉神社トスト云義ナリ祀神稻羽ハ上姬命木股神ニ座トス上ノ諸說ヲ分解ノ其徵據ノ眞トスヘキニ據テ考證ニ從テ稻羽ハ上比賣命及其兒木股神ニ座ヲ奉祀ス處ニ姑ク從ヘリトスヘシ

多氣窗螢曰むかし西行からすにまいりて扇をひろるゑりからす多くかきたるに

からすばの文字よりいはひろめぬれは

かやうによみける時虚空より聲して

かゝる歌にもあふぎ得しかも

西行の紀行といふものにて見し 既ニ其扇子ノ所傳ハ此ニ據レハ五百歳ノ星霜ヲ歴タル

遺事ナリ 辛洲崎ヨリ澳ニ三丁許船カ、リアリ西南風ハ好シ東北風ハ船カ、リアシ、

矢野ノ神山 先輩此處トス伊勢名所拾遺ニ在所ヲ記セス其引徴ノ哥ヲ載ス

万葉集拾 人麿

つまこもる矢野の神山露霜に匂ひ染

新勅撰 鎌倉右大臣

雁鳴て寒き朝けの露霜に屋の、神山いろ付にけり

續拾遺 從三位行能

梓弓矢の、神山春かけて霜は空にたな引にけり

玉葉集 入道前大政大臣

梓弓春たつらしももの、ふの矢の、神山霞たなひく

新千載集

常盤井入道前大政大臣

秋といへは鳴や男鹿の妻かくす矢野、神山露る染らし

以上名所拾遺所載

夫木集 爲家

梓弓はるといふより引かへて早くろいはふ矢の、さと人

全 全

梓弓春といふよりもの、ふの矢野、松原時をしるらし

紀由章名所拾遺追考云此處ハ雲出ノ邊ニアリ然レ万葉ノ妻こもる矢野、神山トヨメルハ伊

豫國ナリ爲家卿ノ哥モ彼國ナルヘシ 云眞ニ然リ大名寄未勘伊勢國歟ト疑ヘリ矢野ノ神

山ハ伊豫國ノ名區ニ此處ノ咏ニ非ス然レ諸家引據スルニ據テ其謬ヲコ、ニ標ノ考索ニ

備ヘリ

矢野城址 同處ニアリ 矢野下野守歴代居セリ國司北畠家ニ屬ス事蹟源平盛衰記 第四十 東鑑

第三十九 大平記 第三十一 其餘ハ仁木義長合戦記ニ見エタリ

式内川併神社 同處落合ニ坐ス 度會延經神名帳考證云川併神社水分神河口湯村産社云白山

此乎 度會正身神名帳再考證云川併神社矢野村ニ在リ加良須ヨリ三町許ヲ去テ雲出河ニ流



ト成テ海ニ入其中間ニアル是ナリ土俗落合社ト稱シ又土ノ御前ト云土ハ辻ノ誤ニテ二流トナル衢ナリ河ノ海へ入ル處ナレハ水戸神ヲ祀リテ速秋津姫命ナルヘシ今詳ニスルニ延經考證河併神社ノ名義ニ據テ水靈ヲ祭リ其社區ハ河口谷ノ内湯村ノ産神白山權現ト稱スナルヘシト云然レ本郡河口谷十七村アリ出湯田ノ名アリテ湯村ナシ妄ナリ白山權現ヲ祭祀ル處ハ此邊七ヶ所アリ孰レ出湯田ノ白山祠ヲ指スナルヘシ再考證河併神社ノ名ニ據テ本郡矢野加良須崎ノ西三丁雲津河ノ派間ニ落合社ト稱ス或ハ土御前ト云土ハ二派ノ衢ナル處ニ在ルヲ以テ河併ノ名ニ應ストシ河海ノ境ナレハ水戸神速秋津姫命ヲ祀レルナルヘシト疑ヘリ後證ハ竜熙近神名帳考正云矢野村去加良須三町許雲母河爲二流入海在其中間故稱落合社稱土御前此ニ據ルナリ式社案内記及勢陽雜記拾遺本郡須賀瀬村八幡祠ヲ充ツ祭神土ノ靈トス古屋草紙水戸神ヲ祀ルトス從ヒ難シ然レ須加瀬ハ雲津河ハノ水源イナシラ川ト矢下河ノ末流ト二派ノ落合フ處ニノ川併神社ノ名ニ合セルニ似リト云ヘ再考證考正等ニ所載ノ矢野辛洲社ノ南位雲津川二岐ニ分ル落合ノ地ニ所祀即河併ノ名ニ相應スカ故ニ舊說ニ從テ式社案内記勢陽雜記拾遺ノ說ハ不容ト謂ヘシ土靈ハ土御前ノ俗稱ニ從フト云ヘ再須加瀬ハ八幡宮ヲ實ハ土靈ト謂ヒ難シ或ハ水戸神速秋津彦命トスモ臆斷ナリ其徵ナシ故ニ雲津川ノ岐流井倉津ト矢野ノ中間河合ノ祠ヲ姑ク此ニ從ヘシ祭神土靈トス水靈ト云ハ牽強ナリ猶稽ヘキナ

リ

星合 矢野ノ坤位ニアリ 正稅四百八十石民家四十六戶紀州白子領四百八十六石八斗民家二十三戶津領ナリ 屬邑岡田本邑ノ良位ニアリ 神鳳抄內宮波長御厨四丁九段六石六九十二月異本ニ氏氏ニ作ル

星合城址 同處ニアリ 星合權中納言源賴房住ス天野信景鹽尻ニミヘタリ

式内須氏神社 同處ニアリ方俗星ノ社ト稱ス波長ノ誤ナルヘシ神鳳抄ニ據レリ祭神天棚機姫命 大口村加世智社ヨリ乾位一里十丁 度會延經神名帳考證云波長神社八衢神道饗祝詞云八衢比古八衢比賣今云八手俣村夜遲波長音通ス 度會正身神名帳再考證云須氏神社一本須作波是也今會原村ノ邊ニ波長村アリ神鳳抄ニ蘇原御厨波長御厨ト載タレハ此神社ハ御厨ニ祀ル神ニテ倉稻魂ナリ 今詳ニスルニ延經考證ニ波長神社ニ作リ名義ニ據テ祭神八衢神ノ名ニ相似タルニ因ツテ此ニ祀ルトスハ衢ノ神号ニ據テ一志郡八手俣村ニ在トス夜遲摩多神ノ夜遲ハ波長ニ通音スル故ニ其社号ハ波長神社ナリト云謂ナリ延喜式舊ト須長ニ作ル考證ニ八衢神ヲ牽合スル故ニ強テ波長ニ作ルナルヘシ正身再考證ニ須氏ヲ一本ニ波長ニ作ルハ眞ナリ今同郡蘇原村ノ傍ニ波長ノ村名アリ即神鳳抄ニ蘇原波長ノ御厨ヲ載ルニ因テ波長ノ徵トス然レ今此地ニ波長村ノ名ナシ古存ノ今亡セシナリ御厨アル地ニ祀ル處ナレハ食稻

魂ノ穀靈ナリト云波長神社ハ考證ノ前説ニ從ヒ既ニ波氏御厨ニ牽強ノ其地其神ヲ定タルナリ帝熙近神名帳考正云須氏神社蘇原邊浪氏村ニ在ト云是等ニ據テ然云ナルヘシ各從ヒ難シ須氏ハ延喜式ニ所填ニノ波氏ノ差誤ニ非ルヘシ須氏ハ洲手ノ轉ナルヘシ其地海涯ニ邇ク雲津河ノ下流ニアリ須川雲津ノ名モ河洲ノ謂ニノ吉野日記ニ勢州雲津川洲ノ股河口等ノ古名アリ洲ノ股モ是ニ相同シ猶星合ノ濱ノ名勝アリ今海涯ニ非スト云ヘ上世ハ入海アリテ海潮モ通セシ處ニノ後號三渡ノ濱ノ今古其地ノ異ナルニ同シ即倭名抄一志郡一志郡吳服郷ニノ吳服ノ名モ此神社ノ祀ル神ニ據レリト云ヘシ現存六帖ニ

伊勢の海名にあらはれて浪まくらかはしやすらん星合の濱

題林和哥集及夫木抄各伊勢海星合ノ濱ト咏スルキハ此ヲ指スナリ其餘他郡ニ星合濱ト云地ナシ此須氏神社ヲ方俗星合社ト稱シ星合村ト名クモ各相同シ牽牛織女ニ星偶會ノ事蹟ヲ傳ヘテ星ノ社或星合社ト俗稱スルニ由テ今社域ノ中ニ小祠七宇ヲ祀レリ是七夕ノ名ニ據ルノ義ナリ舊事本紀第十一云令天棚機姬命織神衣七月七日天棚機姬神行天地之衣日造索麵祭之衣語満足所願隨意是牛女二星ノ謬傳ニ附會ノ偽撰ナリ古語拾遺相同シ倭姬命世紀云天棚機姬令織大神和妙神衣是號磯宮云云類聚神祇本源云建入尋殿屋令天棚機姬神ノ孫八千々姬命織大神御衣此二説ニ據テ此神社ニ天棚機姬命ヲ祀レリトス牛女ノ二宿ノ事ニ非ス織女星ヲ

タナハタト訓スルモ此天棚機姬神ヨリ所出ノ訓ナリ孰レ吳服郷名ニ由テ稽ルニ祀神ハ漢織吳織ノ二神ナルヘシ牛女偶會ノ一ハ五雜組云續齋楷記云七月七日織女詣牽牛牛女ノ事始於齋楷出武丁之妄言成於博物志乘槎之浪説千歳ノ下婦人女子傳爲口實可也文人墨士乃習爲常語使天上列宿被汚穢不亦可怪之甚邪

紀貫之家集ニ

誠かど見れども見へぬたなはたは空になき名の立るなるへし

齋楷記晋武丁カ謬妄ノ言ニ出テ和漢貴俗文人漢客及兒女子ノ常談古今ノ弊習ヲ傳ヘリ紀氏其非ヲ斥ノ披霧ノ卓言ナリ皇國ニ其神世ヲ謬傳ノ浪孟ノ言ニ至ルハ猶忌避ヘシ式社案内記祭神多奈波太姬命ト載ス伊勢名所圖會波多神社ニ訛レリ舊事紀ハ取舍アリ倭姬世紀ニ從ヒテ天棚機姬命ヲ祀ルニ姑ク從フヘシ猶方俗ノ俚諺ト云ヘ此ニ據用スル處ナリ

須河 星合ノ北厓官道ニ民居ス安濃津ヨリ二里驛舍茶貨店多シ 正稅三百十四石八斗七升六合民家八十六戸紀州白子領ナリ六百六十八石二斗六升民屋六十五戸津領ナリ 屬邑森本邑ノ東ニアリ舊名巢川或洲川厓記セリ雲津川ノ轉畧ナルヘシ世俗南雲津ト稱ス嶋拔ハ雲津川ノ北ニアリ本邑ハ南ニアリ他州ニ雲津川ノ名ニ據テ總テ雲津ト云故ニ南北ニ別テ私稱スルナリ

雲津川 嶋貫ト須川ノ間ニ流ル本州第二三ノ大河ナリ白砂ニシテ夏秋ノ間ハ洪水往々アリ故ニ舟涉ナリ春冬ハ水落石露ニシテ假橋ヲ架ス水源ハ大倭州宇陀郡界杉平ヨリ出テ石名原沖津川ヨリ八知谷ノ村邑ヲ歴テ竹原谷ノ村邑ヲ次第ノ一派ハ本郡上多氣ヨリ流出下ノ川諸邑ヲ經テ八手俣竹原ノ界ニ至リ八知谷ヨリ出ルト合ス東ニ流テ又榑原小倭谷ヨリ出ル一流ト合シ大仰ニ至リ一二派ト合シ庄田ニ至リ安濃郡長野ヨリ出ルト合シ又一派八手俣川ヨリ波瀬ヲ歴テ至ルト其村ニ至テ一派トナリ須賀瀬ニ至ル又一派小川小原飯福田ヨリ出ル諸派ト合ス矢下川ノ下流ナリ木造ヲ經テ一流トナリ雲津川ト稱シ嶋貫須川ノ間ニ流テ長常井倉津矢野ニ至リ東海ニ入ル桑名郡町屋川及度會郡豐宮川ノ如ク水源溪澗ノ數十流一派ノ所出ナリ伊勢國和銅風土記曰雲宇途河出鮎鮎鯉鮓及菘菜苔等洪水及逆浪則郷民浴水涉瀬防急水千之一者及溺死

文治六年百首

俊頼

雲津川せき入てまける苗代に秋の空ころかねて見へけれ

夫木集

大中臣親守

いせ嶋や月のみふねはよきて吹け雲津か崎の松のむら立

榮雅

雲津川あふなき雁の細橋を竿になりてもわたる旅人

吉野日記延元三年二月四日條云高師泰細川頼春等京都ヨリ發向六日黒地川ニ至リ十四日勢州雲津川洲股川口處々ニ於テ合戰師泰等敗北云 今稽ルニ足利ヨリ北畠家ヲ征スル時ナリ洲ノ俣ハ須賀瀬河口ハ今ノ河口谷ナルヘシ其謂ハ古昔ハ江州ヨリ鈴鹿郡安濃郡椋本ノ南ヨリ安濃河原ヲ經テ本郡新家木造ニ至テ雲津川ヲ涉リ月本一志驛ニ至ル順路ナリ今ノ嶋貫ヲ涉ルニ非ス又下流ハ雲津郷ヨリ星合ノ西ヲ涉リテ一志ノ驛ニ至ル古街道ナリ今古ノ差ヲ以テ洲ノ俣ノ稱ヲ織ルヘシ此川ノ古戰場ナルハ難大平記ニモ載タリ方俗此河ヲ限リテ以南ヲ南伊勢ト稱シ以北ヲ北伊勢トス永祿天正中國司北畠家ハ河ヨリ以南ヲ管裁ノ河ヨリ以北ハ關家神戸及長野ノ諸將領セリ信長侵地ノ後ハ信雄信孝瀧川一益等領ス處ナリ天正ノ晩年ニ及テ豊臣氏一統ノ後ハ北五郡尾州ニ屬ノ織田中納言秀次ニ領セラル南ハ蒲生飛彈守等ノ所給ナリ故ニ今ニ至リ南北ノ堺域トス

肥留 須川ノ南官道ニ民居ス舊案ニ日留ト載ス又日出厓記セリ 正稅千六百二十八石紀州白子領ナリ 屬邑西ニアリ小船江ハ巽位ニアリ月本ニ至ルノ間官道曠アリ肥田繩手ト稱ス長十二町餘

金剛寺 中肥留ニアリ高九斗五升紀州免許也

笠松 肥留ノ内小船江ノ東ニアリ 正税 百九十六石紀州白子領ナリ河曲郡ニ同名アリ田堰アリ笠松堰ト稱ス

曾原 笠松ノ坤位ニアリ安濃津ヨリ南二里半舊名蘇原 正税千九百五石紀州白子領津領入組ナリ 屬邑 柑子垣内田面<sup>ナモテ</sup>アリ 出屋敷小字アリ即曾原茶屋ト稱ス官道ニアリ神風抄云内宮蘇原御厨六十二町百步又云九町三石六九十二此外神田九町 外宮同前 外宮神領目錄云蘇原御厨上分米三石三石六六月米一石三石九十二同 勢陽府志云建久七年後鳥羽院ノ勅ニヨリ蘇原御厨地頭職笠置寺ニ寄附スト載タリ

蘇原城址 同處西ノ端ニアリ海瀕ニ邇シ 天花寺越中守同男天花寺新左衛門尉居ス伊勢兵亂記ニミヘタリ

大中臣定隆墳 同處今ノ曾原茶屋ノ東字ヲ山ノ腰ト云處ニアリ方俗勅使塚ト稱ノ小祠ヲ建每例祭十一月コレヲ祠レリ 事蹟ハ東鑑第二治承五年十月二十日餘 源平盛衰記第二十七平家物語第六養和元年八月七日條 百練抄第九養和元年八月十五日條ニ見ヘタリ今四本ヲ詳ニスルニ大同小異ナリ源平ハ十郎藏人行家及兵衛佐賴朝ヲ指ノ平家ノ沙汰トノ追伐調伏ノ祈禱ナリ盛衰記平家物語ニハ離宮院ニ卒スト載レモ東鑑ヲ正史トシ一志ノ驛家ニ死セリト決スヘシ況ヤ今ニ及テ此地ニ遺址ノ存スルニ據レリ然レモ百練抄所載安徳天皇養和元年

九月十三日ノ事蹟ナリ東鑑所載治承五年九月十九日即養和元年ナリ 七月十四日改正 此錄ハ凡テ治承四年ヨリ六年ニ至ル即壽永元年ニシテ養和ノ條ナシ準之議ヘシ盛衰記所載同九月十五日平家物語所載九月三日各年月ハ相同シ其日ハ稍ク差ヘリ舊錄ノ錯失所傳ノ謬ナリ

中林 曾原ノ乾位ニアリ舊ハ中道ト稱スナルヘシ 正税五百六十四石紀州白子領ナリ 屬邑月本本邑ノ西ニアリ官道ニ民居ス月本貨茶店驛舎アリ此處ヨリ伊賀州ニ至ル街道アリ伊賀越或ハ阿波<sup>粟</sup>生越ト稱ス標石アリ本郡久居府ニ至リ大村垣内ニ至テ伊賀州ニ入リ 月見山 同處明神ノ東ニ小キ岡アリ月見山ト名ク何ノ故ニ此名ヲ設ケタルヤ未詳稽ルニ月本ノ名稱ニ據テ名クナルヘシ

中道 月本ノ南ニアリ官道ニ民居ス 正税七百三十三石紀州白子領ナリ

小津 中道ノ南ニアリ官道ニ民居ス同處里ゾヒノ橋ヨリ五十二間南ニ一里塚アリ 正税六百七十一石六斗九升民家四十六戶紀州白子領ナリ 六十三石五斗六升民家二戶津領ナリ 神風抄云内宮生津御園六斗六九十二徵古錄云生津今ノ小津ナルヘシ

牛頭天王祠 同處ニアリ

勢陽五鈴遺響壹志郡卷之四終

三渡新田 小津ノ南官道ニアリ茶廊アリ方俗六軒茶屋ト稱ス明曆中圖ニ然リ古昔ハ三渡リト稱ノ民屋ナシ今伊賀州ニ到ル街道本邑ノ西ニアリ標石ヲ建リ小川宮古及八太田尻大仰大村ニ至リ月本街道ト一派ニ合ノ垣内ニ至リ伊賀州ニ入阿波越或伊賀越ト稱ス

三渡川 一名涙川 同處ノ北官道ニ流ル土梁ヲ架セリ小津村六軒茶屋トノ中間ニアリ上世ハ此處ヨリ十町許東ニ渡口アリ三處アリ海瀕ヲ潮水ノ満干ニ隨ヒテ步涉セシ處ナリ故ニ三渡ト名ク其三渡ノ稱ハ東海ヨリ潮盈ルキハ西ノ瀕ヲ涉リ潮干ルキハ中東ノ二瀨ヲ涉リタルナルヘシ然レモ今ノ官道ニ非ス後人六軒茶屋ノ地ヲ古昔ノ海瀕ト憶フハ非ナリ上世ハ前條曾原一志驛ヨリ東ヲ經テ海涯ニ此河ノ下流ヲ涉レルナリ或云今ノ中道村ハ今ノ地ヨリ東ニアリテ往昔三渡ノ濱ニ到ル三路ノ中間ニアリシ故ニ名クモ云然レモ云然レモ前條ノ如ク一志驛ノ中道ノ謂ナリ三路ハ三渡ノ次第ニ西中東ノ三路ハ存タルナルヘシ土佛參詣記ニ遙ナル入海ニ向ヒテ云云ノ章ニ據テ上古ハ海潮ノ入江ナルヲ明ナリ又鴨長明ノ時マテ渡口ニ船ナク步涉セシハ其記ニ錄スルカ如シ今ノ官道安濃津ヨリ松坂府ニ至ルハ天正十一年後ノ新路ナリ昇平ノ化ニ浴ノ古昔ノ迂遠ナル徑路ノ形勢ヲ想像ノ其故ヲ温子知レ新ヲ曉シ識ヘシ猶三渡ト云謠曲アリ世ニ稱ス 鴨長明伊勢記曰三わたるといふ所あり鹽干ぬればこなたの崎よりかなたの洲崎へなかは干ぬる時はまわりて松崎といふ所を渡りて鹽満とどのひぬれはこゝらをはねわたらで猶遠くめぐりて市場といふ所をわたるなり沙干にしたかひて其わたりの三處にかはれば三渡りとはいふなりといふ名寄

三わたりの磯わのうへ道猶ふかし朝みつ汐のからさけふかな

土佛參詣記曰三わたりの濱にも着ぬ遙なる入海にむかひゐて旅行の人の休ふにことゝへは遠き道をめくらじとて鹽の干る間を待てるなりと答へしかは時うつるほどかして休み侍りて心にうかふ事を口にまかせて申すてぬ

渡口無船憩樹陰 漁村煙暗日沈々

寒潮歸去途程近 又有松濤驚客心

西にかたふく日影には終にゆくへき我身のあらしもまぢかく汐のみちひのときの間にかはるを見て生死のみちは海にもありと詠たる古集の哥をたもひ出て

うきしつむ此身をたもふくわしみの海に汐干の山は有けり

玉葉集

増基法師

壹百十七

いせの國にて鹽の干たるに三渡りといふ濱をすさむとて夜中にこゑて行に道またくらくて  
見ぬさりければ松原にとまりて夜を明して讀侍る

夜をこめていろさ來つれと松か枝に枕をしても明しつるかな

藻塘草 名寄ハ安濃ノ湊田  
伊勢ノ濱萩ニ作ル

寂蓮法師

三むたりの月は秋なる浪のうへにまた穗に出ぬあの、湊田

名寄

西園寺入道

いせの海三むたりかへる浪間より數もかくれぬあの、しほ窟

天文十一年大神宮千首

よをうみの三むたり遠くたつ霧も朝ゆふ風の神のまにく

涙川 伊勢名所拾遺云松坂ヨリ西一里尾津村ト松崎トノ間ニ流ル、川ヲ三渡ト云是ヲ涙川也

イヘリ袖岡山ハ三渡ノ川上阿坂山ト同シヲナリ云

後撰 ねとこのいせの國へまかりけるに讀人しらす

君か行かたに有てふ涙川まつは袖にろ落るへらなる

新勅撰

前關白

涙川みなはを袖にせきかねて人の浮瀬に朽や果なん

堀川百首

匡房

涙川よをうき舟の渚にはたもひ絶せぬつなて引なり

同後永久四年百首

顯仲

涙川みなどにうかふ浮艸のうきねと、めんかたのなきかな

家集

躬恒

涙川いかなる水は流るらんなど我戀をけつ人のなき

全

伊勢

涙川濱邊によらぬ浮舟はこちてふ風や吹ところまで

全

柵貫之

瀬をはやみ袖よりも見る涙川物たもひなき人も恨けり

全

伊勢

涙川うきて流る、水鳥のぬれては人に見へぬ物かは

拾玉集

慈鎮

涙川人目つゝみをこゑぬれは袖の柵かくかひろなき

長秋集

俊成

涙川袖のみはたにわきかゝりやるかたもなき物ころれもへ  
山家集 西行

涙川ふかく流るゝ水尾ならば浅き人目につゝまさらまし  
全 全

物れもへは袖に流るゝなみた川いかなるみをに逢瀬有なん  
全 全

なみた川逆まくみをの底ふかみみなきりあへる我心かな  
源氏須磨卷

涙川うかふみなはも消ぬへしなかれて後の世をもまつ哉  
全

あふ瀬なき涙の川に沈みしや流るゝ水尾のはしめなりけん  
六百番 信定

なみた川あふ瀬もしらぬみをつくしたけこそす程になりける哉  
全 慈鎮

れもひかね夜半の袂に風吹て涙の川にちどり鳴なり

玉吟集

家隆

なみた川身さへ流るゝうき枕猶たのますはあはど消なん  
夫木集 慈鎮

しるへなき涙の川の川かせに思ひかねてもちどりをる聞  
仁安二年哥合 清繩

こひわたる涙の川のうき草は人にねも見ぬ我身なりけり  
仁安洞院攝政家百首 定家

瀬絶へしてみなは流るゝ涙川うこもあらはに氷どちつゝ  
全 後九條

涙川あふ瀬は今もいな舟の下にこかれね浪の間もなし  
弘長元年百首 全

涙川まるねの中の丸木はしこぬうき瀬にも夢も通はす  
全又金葉集 輔親

涙川舟出やせましいせの海のみかわへわたる湊たつねて  
全 家隆

人をのみうみに出たる涙川さても夜なく見るや屋はあ  
久安五年七月 西念法師

つきもせぬ涙の川のわれ舟のあふ勢なきさに朽や果なん  
承安四年 定家

なみた川春の月なみ立ことに身は沈み木の下に朽つゝ  
能因日記 慈鎮

こよひころ涙の川にゐる千鳥何て歸と君はしらすや

伊勢軍記阿坂城攻條云むかしより袖岡山といひて名所なり古哥に

三わたりのすろに流るゝ涙川袖岡山の雫なりけり

今詳ニスルニ涙川ノ證歌ハ後撰集及新勅撰ヨリ以上代々ノ勅撰ニ所載ナシ後撰ノ詞書れど  
この伊勢國へまかりけるに弘長百首中臣輔親いせの海三河へわたる云云二首ノ外ニ本州ノ  
所有ト徴シ難シ各戀ノ歌ニノ涙ノ縁ヲ詠スルニ似タリ此河ノ詠正定難シ然レハ後撰新勅撰  
ニ倣ヒテ其後ハ本州ノ事蹟ニ咏シタルナルヘシ伊勢軍記ノ古詠ハ方俗ノ舊傳ナルヲ標出ス  
處ナレハ舊名袖岡山ノ徴ハ煥然ナリ姑ク習俗ニ倣テコ、ニ題ス或云三わたりのすろに流る  
ゝ涙川ノ詠ハ中に流るゝトノ慈鎮和尚ノ伊勢路記ト名ク書ニアリ然否ヲ未識然レハ伊勢軍記

ノ意ハ裙ニ流ル泪川ハ袖岡山ノ雫ナリト袖ニ涙ヲカケ合セテ咏スルハ必セリ裙ニ流ルハ袖  
岡山ノ裙ニノ三渡川ノ裙ト云ヘキナシ解シ難シ慈鎮伊勢路記ニ中になかるゝハ明ナリ眞ト  
スヘシ 又新刊名所圖會涙川ハ後世ノ名ク處ナリト謂フハ妄ナリ既ニ後撰弘長百首ニ所載  
ナリ後人ノ稱スルニ非ス

旗野 雜記所載三渡リノ橋ヨリ南ノ野ニ別道アリ伊賀へ行道ナリ此野ヲ神宮野ト云又東ノ林  
ノ中ニ社アリ權現ト云石坐アリ古此處ニ熊野權現ヲ勸請セシヲアリト云云又川端ニ濱ノ宮  
ト云アリ 今詳ニスルニ伊賀街道ハステニ明曆中雜記所著キ上世ヨリノ驛路ナレハ載タル  
ナルヘシ南ノ野ヲ分レテ道アリトイフキハ今ノ六軒茶屋新田ナシ明曆中圖ニ所載トイヘ  
後人ノ増加スル處ナルヘシ享保十三年圖ニ三渡新田ノ名アリ然レハ明曆中ハ曠野ノ地ナル  
其神宮野ハ所謂嬉シ野ニシテ今權現前ヨリ上野ノ内マテノ間ノ曠野ヲ指ノ名ク大阿坂ヨリ  
十町許ノ間ナリ東ニアリ今ハ耕鋤ノ地トナリ纔ニ其形ヲ存ス倭姫命世紀曰活目入彦五十狹  
茅天皇十八年己酉四月十六日遷坐于阿佐加藤方片樋宮積年歷四箇年奉齋阿佐加乃彌子爾坐  
而伊豆速布留神百往人者五十人取死四十往人二十人取死如此伊豆速布留時爾倭姫命於朝廷  
大若子乎進上而彼神事乎申者種々大御手津物彼神進屋和志志豆目平奉止詔遣下給爾時其  
神乎阿佐加乃山嶺社作定給而其神乎夜波良志志都米上奉勞祀爾時宇禮志止詔天其



所平名氏 宇禮志 止号 支 今詳ニスルニ阿佐加山ノ嶺ニ社作定其所平名氏 宇禮志 止号 支ノ典

ニ據レハ阿坂山ノ嶺ヲ宇禮志ト稱スルナリ其嶺ニ邇キ野ナル故ニ宇禮志野ト稱セシナルハ  
シ大神遷幸ノ地ナレハ神宮野トモ俗稱スナリ

神祇百首

度會元長

うれし野とみことこのりせし草の原つゝむにあまる藤はかまかな

津屋城 六軒茶屋ノ北ニアリ伊賀街道ニ民居ス 正稅千三百八十一石二升八合民家九十五戶

紀州松坂領八十石民家六戶津領ナリ

須賀領 津屋城ノ西ニアリ 正稅三百十三石紀州松坂領ナリ

權現前 津屋城ノ北ニアリ伊賀街道ニ居ス權現前名義須加神社ヲ祭祀スルカ故ニ其前面ニ居

スルノ義ナリ 正稅二百十三石一斗七升民家十四戶紀州松坂領百四十四石一斗五升八合民

家四戶津領ナリ

式内須加神社 同處ト須加ノ間ニアリ須加ヨリ七丁坤位ニアリ新家村物部社ヨリ三丁 度會

延經神名帳考證云須加神社道中貴稱菅忍毘咩在須加村倭名抄云須可加古事記云速須佐之男

命白我心清明故所生之子得手弱女儀式帳云須佐乃平命御玉道主命 度會正身神名帳再考證

云須加神社須加村ニアリ須加ハ洲瀉ノ畧ナリ舊ト阿射加ト接ノ洲瀉淺瀉同義ノ詞ニテ地モ

其別ナカリシナラシ古事記ニ猿田彦神阿邪訶ニ坐スト云ハ此須加神社ナリ猶次ノ阿射加ノ

條ニ併セ考ヘシ 今詳ニスルニ延經考證須加神社名義ニ據テ道中貴ヲ菅忍比咩ト稱スルニ

據リ須加菅同訓ナルヲ以テ奉祀スル處トス其須加ノ意ハ古事記ニ速須佐之男ノ言ニ我心

清明須賀須加ト訓ス然ト由テ手弱女ヲ生得タル處ハ即菅忍比咩命ナリト云ヲ合テ其地其

神社ニ名ル處ヲ解セリ大神宮儀式帳ヲ引徵ノ素盞鳥尊ノ御魂ナリト云日本書記一書云其素

盞鳥尊ノ所生之兒皆己男矣故日神方知素盞鳥尊元有赤心便取其六男以爲日神之子使治天原

即以日神所生三女神者使降居于葦原中國之宇佐島矣今在北海道中号曰道主貫此筑紫水沼君

等祭神是也道主貫道中貴菅忍比咩各同神ナリ正身再考證ニ須加神社名義須加ハ洲瀉ノ畧ニ

ノ阿射加モ淺瀉ノ轉ニノ同義ナリ其地各相接スル故ニ古事記ニ猿田彦神阿邪訶ニ坐ト云阿

射加ハ此須加ノ地ニ此神社ハ即猿田彦命ヲ定祀スルト云解注ニノ前考證ヲ排スルニ至レ

リ本郡須加須賀瀨須賀領各海瀨ニ非スト云ハ云雲出河或ハ三渡川ノ水際ニ近シ故ニ沙漠ノ

地ヲ指ノ名ク處ナリ其餘ハ例ノ推スヘシ再考證ニ洲瀉或ハ淺瀉ノ謂モ然リトスヘシ阿射加

ハ今山嶺ニ傍ルカ故ニ淺瀉ノ稱不當ト云ヘ凡舊ト阿射加神社鎮座ノ時由縁ノ地ナリ後世其

靈蹤ヲ遺亡セサランカ爲ニ須加神社ヲ奉祀ノ所置ニアルヘシ其徵ハ此神社ノ域ニ清冷ノ井

泉アリ其水底側リ難シ是方俗山邊ノ清水或ハ忘井ノ舊址ト云各非ナリ又此ヨリ東ノ郊野ニ

樹林鬱然タル地アリ竜燈森ト名ク大早ノ苗枯トスル時此藪中ヲ三次鋤鑿ニテ穿キハ忽大雨ヲ降ス其地ヲ鑿ルニ鍾音アリ然ル其所穿ノ者三歳ヲ不經ノ死ス故ニ衰老ノ民終命ニ邇キニ命ノ米三石ヲ償テ此事ヲ修セシムト土人ノ所傳アリ故ニ常ニ此林中ヲ懼テ犯シ入ルコトヲ禁ス或云此鬱林ニ雲ノ禱ルハ其靈應ノ著キハ嘗忍比咩命ハ竜神ノ女ナルカ故ニ此瑞應アリト云竜燈森ノ名モ此ニ據レリト云是巷談ト云ヘル其靈蹤ナルヲ竊ニ憶フニ阿射加ノ神ノ此ニ鎮坐ノ地ナルニ必セリ勢陽雜記拾遺ニ須加神社享保中 公命ニ從テ柳谷子校正ノ六軒茶屋ヨリ伊賀ニ至ル街道ノ傍ニ建ト云然ルキハ龍燈森ハ猿田彦命ノ舊蹤ニノ後ニ須加神社ヲ建ル處ノ舊址ナリ今ノ地ハ近世享保中其舊地ヲ不得ノ建タル處ト謂ヘシ須加村ノ南ヲ去テ七町ニアリ須加權現ト稱ス其社域ノ前隴ニ居スルカ故ニ權現前村ノ村邑アリ今其地ヲ閱ノ知ヘシ須加神社此ヲ以テ享保中ヨリ紀伊領君ヨリ高一石ノ免除地アリ今再考證ニ其微意ヲ舉ルニ是トノ猿田彦命ヲ奉祀スル處ニ姑ク從フヘシ式社案内記及雜記拾遺等考證ニ倣テ嘗忍比咩命ヲ祀ルトス古屋草紙道中貫一名雀忍姬ニ作ル誤ナリ各從ヒ難シ

須賀 權現前ノ良位ニアリ或須可ニ作ル 正稅千二百十六石紀州松坂領ナリ 根芹 名産ナリ字ハハサバノ道セント云田ニテ其根一尺許アリ領主紀州大守ニ貢獻ス 本邑ニ竜王野ト云アリ竜王社アリ竜池アリ又石神ト云アリ六軒茶屋ヨリ街道ノ右傍ニアリ村居ヨリ南七丁

許甚古樸ナリ

大平山積善寺 同處ニアリ 曹洞宗

寺傳云延元元年梵僧名從空者アリ此地ニ柴扉ヲ掩テ佛舍利ヲ供養禮拜ス國司北畠氏崇敬ノ柴ノ草庵ヲ更テ梵宇ヲ修營シ齋田百貫ヲ寄ス其舍利今ニ當寺ニ存セリ曆應三年庚辰三月七日修造落成ス供養ヲ修セリト云

須賀城址 同處ニアリ佐波近江守居ス天正年中坂左衛門尉住セリ伊勢軍記ニ載タリ

筭所 權現前ノ坤位ニアリ 正稅二百八十六石紀州松坂領ナリ 屬邑出屋敷小字ナリ

田村 筭所ノ巽位ニアリ安濃津府ヨリ南三里正稅五百六十石民家八十四戶津領ナリ飯高郡同名アリ

田村磨墳 同處ニアリ 田村磨事蹟ハ續日本紀第三十八 同第四十日本後記第一 同第二

同第四 同第五 同第六同第十ニアリ墳墓ハ今宇治郡栗柄村城ニ歷然トシテ存在セリ何ノ故ニ本州ニ所築ノ墳墓在ルコトヲ得ンヤ謬傳ナリ疑クハ此邊ニ多氣國司家ノ臣田村源内左衛

門住セリ其歷代ノ祖墳ノ存セルナルヘシ田村ニ住スルニ據テ稽号トスルハ必セリ何ソ田村磨ノ名ヲ冒ノ其稱トスヘキナシ猶田村磨同名アリ正六位上河内連田村磨三代實錄ニ見エタリ前件田村源内左衛門尉ハ本郡多氣眞善院諸士ノ名署ニ載タリ

小野 田村ノ西ニアリ 正税四百十七石紀州松坂領ナリ鈴鹿郡同名アリ

藥王寺 小野ノ北ニアリ 正税五百七十六石紀州松坂領ナリ 屬邑中尾アリ 藥王寺所存ニ

シテ村号ニ名ク天花寺ノ如シ安濃郡同名アリ

善福寺 同處ニアリ高二石四斗四升五合領主ヨリ免許ナリ毘沙門天ヲ安置ス

堀内 藥王寺ノ良位ニアリ正税百八十八石紀州松坂領ナリ

下ノ庄 堀ノ内ノ東ニアリ 正税七百八十七石紀州松坂領ナリ 屬邑上ノ野本邑ノ南ニアリ出

屋敷小字アリ 又下ノ庄鈴鹿郡同名アリ

八田<sup>ハッタ</sup> 堀ノ内ノ西ニアリ 正税三百九十六石紀州松坂領ナリ

八田城跡 同處山上ニアリ霧ケ城ト名ク永祿十二年大多利兵部少輔所居ナリ

義明寺 同處ニアリ

三浦大助平義明カ墳墓ト云アリ寺傳義明ノ由緒アリ古屋草紙ニ載ス

井ノ上 八田ノ北ニアリ 正税百九十石紀州松坂領ナリ

嶋田 堀ノ内ノ川北ニアリ 正税六百五十五石八斗二升民家九十二戸紀州松坂領ナリ六十四

石一斗八合民家三戸津領ナリ

嶋田城跡 播磨松同處山上ニアリ長野被官佐竹川北内匠助所居ト云

釜生田 嶋田ノ西ニアリ 正税四百五十四石紀州松坂領ナリ

森本 釜生田ノ坤位ニアリ正税六百六石紀州松坂領ナリ 屬邑日川アリ

森本城址 同處ニアリ北畠家臣森本飛彈守同男彦一郎居住ス眞善院本ニ載ス今按ニ鷲巢松ト

稱ス古樹アリ此地城墟ナルヘシ

平家六代墳墓 屬邑日川ニアリ本邑ヨリ一里許異位ニノ四方人家ナシ溪澗ヲ經テ樵犬ノ幽棲

四五字アリ 日川村ノ入口民屋二軒目ノ裏ニ石塔四基アリ其處ヨリ齋藤五齋藤六兄弟二人

ノ石塔又其西ニ文覺上人塔ニ並テ數十基其終ニ石面ニ不動像俗十干不動ト云塔ノ前ニ清泉

アリ其後ニ五輪石塔數基此處ヨリ山谷ヲコエテ岩内村ニ至ル道アリ一里」其奥日川寺アリ

寺前ニ松木塚ト云大ナル平石塔アリ領梵字唯一心云云其餘磨滅シテヨミカタシ是六代御前

ノ墓碑ト云此邊五輪多シ又此邊川瀧數ヶ所アリ、今ツマヒラカニスルニ六代禪師ノ事蹟平

家物語第七 同第七 東鑑第五ニ載ス墳塋ハ鎌倉志ニ相州多古江川ノ東ニアリトノセタリ

異本平家物語<sup>長門</sup> 又保曆間記ニハ斬罪ノ地ハ異説アレトモ多古江川ニ墳アリテ最後寺ヲ創

建ス事ヲ錄ス平家物語ハ岡部權山泰綱ニ命ノ相州タコヒ川<sup>或多古</sup> 今田越川ト稱ス此川岸ニ

ノ歲三十三歳ノ時ニ斬戮ス一長門本ト同シ孰レ田越川ヲ眞トスヘシ然ルニ扶桑怪事ヲ引テ

駿河州千本松原ニ六代ノ塚アリテ源氏ヨリ誅セラルル妄念ニヤ今モ源家ノ輩此處ヲ經廻スレ

ハ塚ノ中ヨリ言語ノ聲アリ正治年中旅客塚下ニ人言ヲ聞テ忽奔去ルト増厚譽カ扶桑恠談ニ載タリ此所傳ハ謬ナリ嚮ニ文覺ノ救ヲ得テ死ヲ許サルノ地ハ平家物語ニ詳ナリ既ニ相摸州ニ墳墓ノ所存ニ他州ニ其地ノ有ヘキナシ木州ノ所有ニ謬傳ナリ然レモ幼童ノキハ洛西大覺寺菖蒲谷ト謂フ處ニ隱棲ノ源家ニ虜ノ後洛ノ高雄神護寺ニアリ弱冠ニ至リ高野山熊野ノ斗藪ハアレモ本州經廻ノ事蹟ハ本據ナシ況文覺齋藤兄弟カ隨身ノ一處ニ本州ニ止住ハ未聞處ナリ今檢スルニ本州ハ平氏府治ノ事蹟アレモ若クハ其餘裔ノ者追薦ノ爲ニ浮圖ヲ建テ供養セシナルヘシ幽棲ノ地ニ必セリト謂ハシハ姑ク闕タリ

瀧ノ川 森本ノ八町北ニアリ矢下川ノ末派ニノ飛泉激流ノ處ニ據テ名ク 正稅四百二十八石 紀州松坂領ナリ

竜泉廢寺跡 同處ニアリ應仁文明年中コノ處ニ存在ノ子院坊舍多シ北畠家ノ祈願所ニノ寺領若干ヲ附ス大刹ナリ國司家廢絶ノ後永祿十一年飯高郡平尾ニ移シ今又松坂府城南ニ天正八年ニ移ス處ナリ其舊蹤ハ耕鋤ノ地トナリ山門鐘樓等ノ字ハ田圃ノ中ニ遺レリ詳ニ飯高郡松坂府ニ載タリ

瀧野川城址 同處ニアリ城主明光院殿ト稱ス其系未詳

宮野 瀧ノ川ノ八丁西ニアリ 正稅五百十三石紀州松坂領ナリ 神風抄云宮野御厨

矢下 宮野ノ坤位ニアリ 正稅二百一十一石八斗四升九合民家六十五戶津領也 屬邑居置アリ

合ヶ野 矢下ヨリ八丁坤位ニアリ 正稅百五十二石七斗七升六合民家二十三戶津領ナリ 屬邑大久保本邑ノ北ニアリ

岩倉 矢下ノ坤位二十一丁ニアリ 正稅七十五石五斗一升八合民家十八戶アリ津領ナリ

大阿坂 田村ノ坤位ニアリ舊名阿邪訶或ハ阿射賀ナリ松坂府ヨリ乾位二里 正稅千百二十三

石紀州松坂領ナリ 屬邑 岩藏アリ 神風抄云外宮大阿射賀御厨彼是二十六石絹六疋 一本

匹 外宮神領目錄云大阿射加御厨十三石凡絹十疋上分三石六月一石九十二同 凡廿

式内阿射加神社 同處南ノ尾崎ニアリ方俗造天明神ト稱ス 度會延經神名帳考證云阿射加神

社三座竝名神大猿田彦大神在小阿坂村神殿三字並古事紀云猿田毘古神坐阿邪訶 此三字以

リ 時爲漁而於比良夫具其手見昨合而沈溺海鹽故其沈居底之時名謂底度久御魂其海水之都夫多都時謂都夫多都御魂其阿和佐久時名謂沫佐久御魂按言出生則陰爲先言神座則陽爲先阿射加者陽靈阿和佐久之畧語先于天照大神鎮座此地承天聰合生万物言拾貝昨合壹志郡名由此社起詳見于下

度會正身神名帳再考證云阿射加神社三座大小阿坂村ニアリ阿射加ハ淺瀉ノ畧也倭姬命世紀ニ蚪ヲ漁リシヲナト見エタリ古事記云猿田毘古神坐阿邪訶時爲漁而於比良夫具其手見昨合

而沈溺海鹽故沈居其底之時名謂底度久御魂其海水之都夫多都時、名謂都夫多都御魂其阿和  
 佐久時、名謂沫佐久御魂是ハ古事記ノ書体ノ常ニノ比諭ノ寓言ナリ御魂トハ其妻ヲ云倉稻  
 魂ヲウガノメト云如ク玉ヲめト云徵多シ荒魂和魂ノ義ニ非ス此三ノ魂ハ即猿田彦神ノ配合  
 ニテ太古ハ貴人三女ヲ娶ルヲ日本書紀第一卷ニ證アリ底度久御魂ハ正妃トシ都夫多都御魂  
 阿和佐久御魂ハ共ニ次妃トス此三女何レヲ省クヘキニ非レハ三座ヲ並ヘ祀ル夫ノ神此ニ不  
 坐ニ據テ頂加モ古ノ阿射加ニテ猿田彦神ナルヲ知レリ 今詳ニスルニ延經考證阿射加神社  
 ノ名義ニ據テ小阿坂村ニ坐ス處ニノ神殿三字並ヒ坐スハ古事記ヲ引徵スルニ猿田彦神阿邪  
 ニ訶坐スキ漁獵ヲ爲テ比良夫貝ニ其手ヲ昨合サレテ海ニ沈溺スキ其底ニ沈ムキヲ名テ底度  
 久御魂ト稱ス其潮水ノ都夫多都ノ時ヲ都夫多都御魂ト稱シ其海潮沫佐久時ノ名ヲ沫佐久御  
 魂ト稱シ其神ノ出生ヲ謂フキハ旣ニ陰ヲ先トノ此三神ノ生化ヲ云神座ヲ謂フキハ陽ヲ先ト  
 ノ此地ニ天照大神ヨリ前ニ此神ノ鎮座ヲ謂ナリ阿射加ト云名ハ陽ノ靈沫佐久ノ畧語ニ據レ  
 リ比良夫貝ハ拾掇ルノ介貝ナリ其手ヲ昨合サルト云ハ天照天神ノ鎮座ヨリ前ニ遷幸ノ詔ヲ  
 承天 唵合ノ此ニ居玉フト云ノ寓言ナリ壹志郡ノ名此社ヨリ由テ起ルト云ハ伊豆速布留神ニ  
 據リテ名ク詳ニ下條敏太神社ノ條ニ見ト云謂ナリ案スルニ前證小阿坂村ニ在ト云ハ非ナリ  
 今本郡大阿坂ノ南ノ山ノ尾崎ニアリ方俗竜天大明神ト稱ス勢陽雜記所載小阿坂ニ坐スト云

ハ非ナリ今古社地ハ異ナリトスヘシ上世延喜式帳ニ載タルハ小阿坂ノ山嶽ニ坐シタル時ナ  
 リ應永中國司北畠滿雅ノ命ニ據リテ此山嶽ニ城砦ヲ築シム阿坂城ト云後ニ方俗白米城ト稱  
 ス其修造ノキ神威ヲ畏懼ノ今ノ大阿坂ノ地ニ遷シ崇祀スル處ナリ今ノ社域ハ應永中ヨリ以  
 後ノ新ニ祀ル處ニノ小阿坂ノ嶺ハ舊址ト謂ヘシ故ニ舊記ニ小阿坂ニ在ト云然ル今ハ其地ノ  
 異ナルニ據テ此ニ詳ニ錄セリ今古駁雜ノ說多シ故ニ分辨ノ知ヘシ延喜式内ニ三座トス今神  
 殿三字ヲ造ルハ其故ナリ援田毘古大神底度久沫佐久御魂ヲ奉祀セリ其大神遷幸ノ次第ハ倭  
 姬命世紀云活目入彥五十狹弟天皇十四年乙巳秋九月朔日遷幸于伊勢國桑名野代宮四年奉齋  
 云次市師縣造祖建皆古命爾 參相汝國名何問給白久 害行阿佐賀國白氏 進神戶並神田十八年  
 已酉四月十六日遷瘞于阿佐加藤方片樋宮積年歷四箇年奉齋是時爾阿佐加乃 彌子爾 坐而伊豆  
 速布留神往人者五十人取死四十往人二十人取死如此伊豆速布留時爾倭姬命於朝廷大若子命  
 乎 進上而彼神事乎 申者種々大御手津物彼神進至波志豆目平奉止詔遣下給支 爾時其神乎 阿佐  
 加乃 山嶽社作定給而其神乎 夜波良志志都米上奉 勞祀支 爾時宇禮志 止 詔天 其所乎名 氏 宇  
 禮志 止 支 然度坐時阿佐加縣爾 多氣連等祖宇賀彥子吉志姬次吉志彥二人參相奉支 何者問給  
 久汝等 我 阿佐留物者何 止 問給支 荅白支 皇大神乃 御贊乃 林奉 止 伎佐志乎 阿佐留 止 支 爾時白  
 事恐 止 詔而其伎佐志乎 命進太神御贊而佐々牟乃 本枝乎 割取而生比伎爾 宇氣比伎世良禮給

時其火乎 伎理出而采女忍姬 我志 天平薨八十枚乎 持而伊波比戸 爾仕奉 爾時吉志姬 爾地田  
 御田 並麻園乎 進云 內宮延曆儀式帳云次壹志藤方片樋宮坐只其在阿佐鹿惡神平驛使阿倍  
 大稻彥命即御供奉 支 彼時壹志縣造遠祖建些子乎 汝國名何問賜 支 白久完往些鹿國 止 白只即  
 神御田 并神戶進 支云 昔鹿國世紀ニ 大神宮遷幸要畧曰垂仁十八年巳酉夏四月十六日從鈴  
 鹿忍山遷座于阿佐加藤方片樋宮四年奉齋是時 爾阿佐加 乃彌子 爾坐而伊豆速布留神百往人五  
 十取死四十往人二十人取死如此伊豆速布留時 爾倭姬命遣中臣大鹿嶋命伊勢大若子命忌部玉  
 櫛命奏聞天皇天皇詔其國者大若子命先祖天日別命所平山也大若子命祭平其神 止 詔即賜種々  
 幣而返遣大若子命于時阿佐加 乃山仁 社作定而其神乎 夜波志志都米上奉 天 勞祀 支云  
 倭姬世紀ニ垂仁天皇十八年四月鈴鹿郡忍山宮ヨリ此阿佐加藤方片樋宮ニ遷幸ノ時此阿射加  
 ノ嶺ニ伊豆速布留神坐ノ惡行ヲ爲シ嚴威ナルニ據テ大若子命ヲ進リテ此嶺ニ神社造リ夜波  
 良志志都米奉リテ後ニ大神ノ行宮ヲ造リ建テ奉齋四箇年鎮座ナリ延曆儀式帳及遷幸要畧以  
 上ノ三說ニ據レハ倭姬命及大若子命ノ奉祀ノ阿射加神社ト後世ニ至リ名ク處也其伊豆速布  
 留神ハ猿田毘古大神ナリ日本書紀第一云一書云其猿田彥神者則到伊勢之狹長田五十鈴川上  
 ト皇孫瓊々杵尊日向高千穗穗觸峯ニ臨降ノ條ニ見エタリ其徵ハ度會郡中村ノ條ニ詳ニセリ

其猿田彥ノ天照大神ノ遷幸ヨリ前皇孫臨幸ノキ既ニ此地ニ鎮座ト云フキハ日本紀ト世紀ノ  
 說ハ異ナルニ似リ然レハ猿田毘古命ハ五十川上ニ鎮リ座シ底度久都夫多都阿和佐久ハ猿田  
 彥御魂ノ三神ヲ此ニ祀リ三座トノ延喜式ニ所載三座ニ填ルモ憶ヘリ然レハ鈴鹿郡椿太神社  
 河曲郡奈加等神社等ニ此神ヲ奉祀スルト罵ルト云ヘハ後世ニ齋敬スル處ニ此地ト異ナリ  
 阿射加ハ是固有上世ノ隱棲ノ居スルノ地ト惟フヘシ又此神社ニ三神ヲ配シ祀ル每歲三節ノ  
 祭ニ預ルノ說アリ是モ式帳ニ三座ト所載ニ從ヘリ又俗說ニ小阿坂大阿坂嬬野ヲ三社ニ配ノ  
 三節ノ祭事ヲ行フト云ハ非ナリ竟天明神ノ稱ハ土俗諺ニ倭姬命定祝ノ日此神百丈ノ神竜ト  
 化ノ人民ヲ惱害シテ奉祀セシヨリ此名起レリト云是モ僻說ナリ信スルニ不足ト云ヘハ神威  
 ノ嚴ナルハ崇重スヘシ倭姬世紀害行阿佐賀國世本多ク宏行ニ作ル度會清在釋ノ云市師ハ壹  
 志郡ナリ阿佐賀ハ飯野郡ニ屬ス宏行ハ阿佐賀ノ賀ヲ鹿ノ訓ニ取テ宏行ト云カケタルナリ云  
 云伊勢名所舊蹟聞書此ニ從フ臆度ナリ今稽ルニ害行ハ賊害ノ意ニ伊豆速布留神ノ神態テ  
 舉タルノ冠辭ナリ大治四年度會章尙本ニ從テ此ニ改正ス度會延經延佳其餘世ノ校本各誤レ  
 リ度會正身再考證云前考證ニ據テ別ニ異ナシ底度久都夫多都阿和佐久ノ三ノ御魂ハ猿田毘  
 古命配合ノ正妃次妃トス荒魂和魂ノ義ニ非スト云未其詳ナルヲ得ス從ヒ難シ須加ハ古ノ阿  
 射加ニテ猿田毘古大神ナルヲ知レリト云ハ眞トスヘシ然レハ淺瀉ノ言ニ據テ阿佐加ノ名起

レリト云前考證ハ洙佐久御魂ノ畧語ヨリ起レリト云各臆度ナリ又内宮儀式帳ニ大神遷幸ノ時壹志縣造等カ遠祖建誓子命ニ其國ノ名ヲ問ノ答ニ完往昔鹿國ト白ス然レハ建誓子ノ神名ニ據テ其地ヲ名クルニ似リ昔ノ字義解難シ字書ニ謀也謗也ト注ス此ニ意ナシ孰レ三説モ悉ク其徴ヲ得難シ故ニ其實ヲ究ルコトヲ得ス前號須加神社ハ猿田毘古命舊ヨリ鎮座ノ地此阿射加神社モ此ニ比ノ隱棲ノ神居ト謂ヘシ 文德實錄卷二嘉祥三年十月乙巳朔辛亥進山城國稻荷神階授從四位上進大和國大和國魂神階授從二位石上神及大物主神葛木一言主神等正三位中伊勢國阿耶賀神從五位上一本耶 同卷七云齋衡二年正月壬午朔壬寅以伊勢國阿耶賀神預於名神一作射 又云同丙午伊勢國阿耶賀神丹波國大虫神並加從四位下一本作射丹波 實錄第十三貞觀八年十一月四日乙巳大和國正四位下波寶神波比賣神伊勢國從四位上阿射加神並授從三位 神祇令曰阿射加神社位田從五位八町 多氣齋瑩曰むかし文德の御時御夢の告ありけるとて坂の神しやくにあつかり賜へり其時あさかのわらばへらうたひけるは八丁ならば足りもせん八丁八すみ一人してなかばと云云やがて從五位下となし賜へは八丁の心もとけけると申つたへ待るとろ社官正興か語りし 東鑑文治六年四月十九日條云造大神宮役夫工米地頭未濟事狀云 中畧 伊勢國小倭庄下知廣元畢岡本安富感神院阿射賀御厨志禮石御厨洞田御厨非知行所阿射賀志禮石雖爲沒取領自院分給本領云云但阿射賀者補地頭所也然

可加下知也此外處々注文上相副下文 神宮雜例集云後冷泉帝康平元七月伊勢守義孝爲國司一志郡入部時伊元宿禰之住宅燒拂已畢而件宿禰乍 豐受皇大神宮領阿射賀御厨司兼任也供物徵納之間以燒失畢即依訴同三年八月被流隱岐國也 神鳳抄云一志郡神戶二百五十町三段六十步御神酒六荷白鹽一石二斗祭料並造酒米二石懸刀稻四十束荷前御調糸四十約同絹三疋大阿射賀小阿射賀一本四約ニ作ル又大阿 或曰野田 黒田 川原木造 舞出 新家庄 阿坂等神戶ノ地ナリ 今稽フルニ勢陽俚諺曰當所ニ毎年正月二十一日蠶種ノ市アリ蠶種ハ神代天ノ香久山ノ桑ヲ取テ養フトアリ又雄畧ノ朝百齊國ヨリ來レリ國郡ニ桑ナキ故ニ不養又元明帝和銅年中出羽國ヨリ桑ヲ進獻セシヨリ普ク世ニ養フト云ヘリ毎年正月其年所養ノ蠶種ヲ販クハ前ニ云一志郡神戶ヨリ上世ニ御調糸及絹ノ貢獻アリシヨリノ遺風ナルヘシ今此地ニ絹ヲ織ルノ村邑ナシト云ヘル今古ノ差ナリト謂フヘシ勢陽俚諺ニ倭姬世紀吉比女地口御田並麻園進ト云ハ飯野郡御麻生園ノ地ナリト云ハ麻園ノ名目ニ惑テ臆度ナリ非トスヘシ伊勢名所拾遺及雜記拾遺

万葉第八

市原王

時待て落るしくれの雨やみてあさかの山の移ひぬらん  
夫木

常陸丸

いかなればあさかの山のあやにくに紅ふかく紅葉しぬらん

雲晴ぬあさかの山も秋くれは煙をわけて紅葉しにけり

各阿坂山ノ歌トノコノ處ニ引證セリ今稽<sup>ル</sup>ニ朝香山或淺香山等アリ名寄方角ニ載タリあさ  
かノ假字ニ<sup>シ</sup>此地モ決シ難シ

小阿坂 大阿坂ノ南ニアリ 正稅千七百二十三石紀州松坂領ナリ 神風抄云外宮小阿射賀御

厨三十三町八段十五石小阿射賀神田二丁外宮神領目錄云小阿射賀御厨十三石内上分三石六  
月一石後ア石宛

阿射賀神社舊址 大阿坂淨眼寺ヨリ十五丁山嶺ニアリ五十間許ノ池沼アリ草茫ノ地ニシテ其

深測ルヘカラス其神幽棲ノ處ナリ其下流ハ淨眼寺ノ東ニ流テ小キ瀑泉トナリ大阿坂ノ村落

ヲ流テ末派ハ三渡ノ橋ニ出テ東海ニ入ル是所謂涙川ナリ袖岡山ハ三渡ノ水源ニ<sup>シ</sup>今ノ大阿

坂ノ北ニアル山ナリ

藤方片樋宮舊址 前ノ三渡川ノ水源大阿坂山ノ麓ニシテ淨眼寺ヨリ十一丁東ニ藤方谷ト稱ス

處ナリ大神遷幸ノ地四箇年奉齋處ナリ然レモ諸家駁雜ノ安濃郡藤方ニ據テ本郡藤瀉村ニ有

トス非ナリ其例文ヲ舉テ辨セリ 倭姬命世記一書云天照大神自美濃國廻到安濃藤方片樋宮

爾 在座千時安佐賀山 爾

有荒振神百往人者亡五十人四十往人乎者亡三十人因茲倭姬命不入座

度會郡宇遲村五十鈴川上 乃 宮奉齋藤方片樋宮于時阿佐賀 乃 荒惡神爲行 倭姬命遣中臣大鹿

島命伊勢大若子命忌部玉櫛三神 乎 令奏聞天皇聞食詔給其國者昔大若子命先祖天日別命 乎 所

平山 奈利 大若子命 爾 祭平其神 止 令奉詔倭姬命 乎 早可奉入五十鈴宮即給種々幣而返遣大若子

命祭其神已保平則定社於安佐賀山以祭之矣而後倭姬命即得入座但於其渡初者不返取矣

一本令奉詔間十三字不見 又其神祭下七字不見ト記セリ

度會清在云阿佐賀ノ藤方ハ阿濃ノ藤方ノ誤ナルヘシ藤方村ハ津城ノ南一里ニアリテ一志郡

ニ屬ス阿佐賀ト路程隔ル倭姬世紀下ノ一書ニ安濃藤方ニ作ルヲ以テ徵トスヘシ今津城ノ東

口ノ町ヲ藤枝ト云フモ藤方ニ屬スル故ノ号ナリ今藤方ノ南驛路ノ西ノ傍ノ山ノ半腹ニ東向

ノ神祠アリ鳥居アリ社号シレヌ老樹森立ス俗ニ十社ノ森ト稱ス其南神森村アリ十社森神森

村ノ領ナリ是ノ社域他ニ異ナリ是片樋ノ宮ノ址ナルヘシ此地東面海ニ向テ豁開ノ日ノ出ル

キハ即一面ニ日影ヲ受ク西ハ山ニ倚リテ午後ニ及テハ夕陽ヲ見ルヲナシ然レハ此宮号ハ東

西一片ノ日ヲ受ルノ義ヲ以テ偏日ノ義ナルヘシ片樋ト云ハ字訓ヲ假ルノミナリ同書ニ其處

名 天 宇禮志 止 号スハ荒神ノ謚リテ倭姬命ノ嬖シト宣フナリ嬖野ハ一志郡權現村南ノ野ケリ

東ハ須箇村西ハ小川村南ハ袖岡山北モ又須ヶ村ニテ松坂ヨリ名張ニ行ノ道ナリ云 云伊勢名



蹟聞書及俚諺此ニ據テ安濃ノ藤方村ニ釋セリ今詮スルニ倭姬命世紀本文ニ阿佐加藤方片樋宮ト墳テ安濃藤方ト云サレハ外ニ替ヲ容ル處ナシ然ルニ一書云天照大神自美濃國廻到安濃藤方片樋宮爾在坐于時安佐賀山爾有荒振神云因茲倭姬命不入座度會郡宇遲村五十鈴村上乃宮奉齋藤方片樋宮ト云此言ニ惑テ標スルハ何ソヤ此言ニ從ハ、本文ノ倭姬命詔、白久南山未見給江波吉宮所所在見由止詔、御宮所乎覓爾ノ言アリテ瀧原宮ニ迄リ其路途ニ各定祀ノ神社アリ千歳ノ後今ニ至リ奉祀ルノ謬ト謂ヘキヤ不然其本文ヲ徵トノ千古ノ惑ナシトス處ナリ然ルニ此藤方ノ宮ノ一條ニ一書ノ說ヲ庸ルハ異端ヲ好ノ僻ナリ況ヤ偏日ノ臆斷ヲ設テ世ヲ誣ルニ至レリ猶其言ノ末ニ嬉野ハ權現前ノ南ノ野トスハ何ノ言ソヤ一志郡ノ藤瀧ニノ其地ヲ隔フ二里許ニアリ嚮ニ此處ヲ藤方ノ地ト決セハ稍ク十餘町ニ及ヘリ其邇キハ所指ノ藤方ノ方土ニアリ何ソ遠キヲ求メシ又倭姬命世紀ノ一書ノ謂フ處ハ闕文アリテ難解ナシヘ凡文辭本文ト異ナリ既ニ後世ニ係リテ矣ノ助字ヲ如レ置ハ後人ノ加毫ナルヲ必セリ清在及延經ノ博才何ソ此文ニ眼ヲ屬セサル然レ凡編者モ千古ノ遺文ヲ辨別スルハ夏蟲ノ疑水ニ似リトイヘ凡多罪ヲ不顧ノコ、ニ毫ヲ揮ヘルナリ庶幾スルニ看官亮鑿ヲ垂ヨ

勢陽五鈴遺響壹志郡卷之五終

勢陽五鈴遺響壹志郡卷之六

正法山淨眼寺 大阿坂ノ山上ニアリ曹洞宗明山大空玄虎禪師寺傳云文明二甲辰年北島材親淨眼寺殿無外逸方居士先人政卿卿眞通先天居士ノ爲追福建創又從四位上左近衛中將自畫讚ノ壽像ニ虎藏主筆ス銘曰 謹奉嚴命書當寺開基無外逸方大禪定門壽像 覺了本心無一星事生也無生死也無死

明應甲寅解制日

當山住持比丘玄虎書之

勢陽阿坂村法山淨眼寺緣起曰 抑當寺開闢ハ文明年中伊勢國司北島源材親卿ノ建立ニノ伽藍圓備ノ地ナリ其頃虎藏主トテ道德殊勝ナル善知識アリ遠州石雲院ニ住ス人傳云勢州阿射賀山ニ地獄谷アリ峯聳谷深シテ黑雲空ヲ掠ノ猛火ノ煙電光ノ如ク熱湯甍ニ躍リ石裂砂飛テ山岳震動ス其中ニ罪人受苦ノ聲啾々トノ遙ニ聞ユ人唯遠望シテ更ニ其側ニ近ツクモノナシ此由ヲ聞大神宮ニ參詣シ通夜神前ニ於テ坐禪ス遲明ニ及テ御殿ノ内ヨリホノカニ神託アリコノヨリ戊亥ノ方ニ當テ妖怪ノ氣甚シ國民ヲ惱ス師ノ道力行テ救ハ、永ク正源繁昌ノ地トナルヘシト師奇異ノ思ヲナシ急キ其處ニ尋來テ磐石ノ上ニ坐禪スルヲ七日七夜不思議ナル哉觀法ノ功力ニ依テ多年黒闇ノ烟忽消テ谷ノ扉ニ月スミ渡リ松吹風ハ颯々トシテ弘法ノ靈

場トナルコソ有難キ其跡今殘テ座禪石アリ其ヨリ遂ニ山居ノ歲月ヲ經玉フ師ノ御咏哥ニ  
すみなれし袖岡山の夕ぐれに三渡り川を裙に詠る

此外靈驗甚多シ是ヲ以貴名諸方ニ聞ヘ世人尊テ伊勢ノ虎藏主ト申キ國司殊ニ尊敬シ此寺ニ  
諸侍ノ開山ト仰キ大空玄虎禪師ト号ス即歸依テ師トノ朝夕佛法ヲ學ヒ終ニ禪法ヲ悟開ケリ  
後土御門院虎藏主ノ名ヲ聞召及レ紫賜衣倫旨ヲ賜ステ國司代々此寺ノ大檀那トノ山林田産  
ヲ寄附シ數多ノ僧衆ヲ供養ノ佛法ノ繁昌他ニ異ナリ永録年中織田信長公國司ト合戦ノ節寺  
兵火ニ燒レ既ニ退轉ニ及ヘリ其後建ル處ハ終ニ古跡ノ印ノミ豊臣大閣御治世ノ時此寺由緒  
アルニヨリ境内山林ヲ除置リ是偏開山ノ道德ニ依テナリ當寺三物ト申ハ開山玄虎和尚或時  
方丈ニ坐禪ス時ニ天照大神獨ノ官人ト顯レ衣冠正ノ和尚ノ前ニ來リ佛法ノ一大事ヲ聽聞シ  
大乘戒ヲ受血脉ヲ相傳シ玉フ其謝禮トノ三種ノ寶物ヲ布施ス則藕糸ノ袈裟白石ノ數珠金朱  
香合是ナリ其比山水乏シク是大神ノ神力ニ依テ新ニ泉涌出今ニ至ルマテ日用ノ資トナルノ  
ミニ非ス不淨ヲ除テ人ノ憂ヲ救フ功德水人コレヲ神明水ト号ス 雜記所載開山大空玄虎禪  
師ハ曹洞卓立ノ道人ニテ世舉テ伊勢ノ虎藏主紫野ノ純藏主トソ尊敬シケル故ニ後土御門院  
紫衣ノ倫旨ヲ下シ玉フ亦大永年中伊勢大神宮人間ニ現化マシク虎藏主ニ參得シ所傳アリ  
高鱗淨榮ト号セシ血脉一封今ニ神宮ノ御倉ニ拜納アリテ御遷宮ノキ御寶物ノ内ニ渡サル古

說アリ彼血脉ノ布施ナリトテ藕糸ノ袈裟五條白石珠數自然石ナリ香合堆朱寒山拾得ヲ彫タリ

此三種今ニ至リ淨眼寺ニアリ又犬縛不動ト俗ニ云傳ヘシ靈像アリ昔ハ用水遠所ニアリ運汲

ニ辛苦ナリ虎藏主ノ法威ヲ感ノ山神應護ノ山井アリ勢陽要義高憐淨又小阿坂村東明山景

德寺龍天明神ノ位牌ト稱スアリ高憐淨永ノ法名淨眼寺ノ所謂ト同シ龍天明神ノ神議ト云ハ

異ナリ勢陽要義曰一志郡阿坂正法山淨眼寺下ノ文ハ雜記ニ同シ神明三物記 藕絲袈裟 金朱香

合 白石念珠 大永年間師一日據胡庄而安坐漏報三更後驟雨過山清風匝地光射虛空影瀝庭

宇師不知是什麼兆祥須臾有一尊官佩璽入空而立峨冠青衣儀相儼嚴師異問曰是何人耶答曰勿

怪我是此南山五十鈴河上之祖皇恒鑿師道狀故來望師說威音那畔最大事其容聽乎師深默然是

皇大神乃拂跪坐曰天威音那畔最大事阿難說阿難聽祖皇微笑曰渠洎說我洎聽乃徐々進座右復

曰更請詳說且示受大乘戒焉師遂密爾密記快應神詰矣於是祖皇令天童捧一包幘子曰此是僧物

謝師法施若有餘事所喜於我也奚爲難哉師曰柱丈子細境緣處々ニ安然有甚所求強稱神助日用

作務之外澗井動涸縑衆嘗惱唯此耳時夜將曙欲辭告召一言須見孤松下三青長帶翠微泉云了忽

不留視矣師誌此言直絶流矣 舊記紙既蠹損據所寫此 夫當寺昔時伊勢國司北島ノ列孫ニ多

氣御所大納言材親卿始具方ト云後落髮ノ法名ヲ無外逸方ト云自讚ニ自像畫アリ寫讚ハ虎藏

主筆之セリ今ニ止ル材親其比虎藏主ヲ信慕ノ祖道ニ參究シ歸依ノ師トセリ即招請シ住持ト

ス縑衆競集叢觀不忘ノ禪風ヲ震シタリ後土御門院ノ朝ニ紫衣倫旨ヲ賜ル倫旨止于今大空禪師ト号シ諱ヲ玄虎トイヘリ 總持五院門首大源派下崇定和尚ノ法嗣ナリ至于今學テ人相傳伊勢虎藏主トソ喚シトソ是又藏主ノ比ヨリ德美外ニ見ハレ人偏ク知ナリ法孫相繼テ六世ニ及シ檐越國司ノ信敬モ共ニ累葉ナリ爾後信長公ト國司ト當國ノ一戰ノ頃有所ノ堂殿法籍都テ羅兵燹レリ矧ヤ庫料ノ諸地ヲヤ及兵劇漸息テ纒縮一小院守其本跡大闇乘運ノ時有園田之檢地服部氏采女ト云於當郡爲其奉行依之或ハ古來寺跡之勝田或乃祖ノ威烈ヲ不忍聞ノ山林田境ヲ除セリ采女正叛形止于今烏呼興廢交馳日往月來テ無寺記之所據故ニ舉其傳聞之一說淨眼寺院殿無外逸方大禪定門遺書

余壯年時不知見自心是佛或時刻木爲佛像或時鑿石爲法相或時仰天求生或時俯地懼死常悲三塗苦專欲覓淨土加之預欲修善根請濟下東堂西堂下火念珠其外作諸佛事自初七日至百箇日十二時中經行坐禪拈香總無怠慢亡將謂如今有衆罪乎然後洞下活僧見大空虎和尚始可自性而向外不求朝參暮請行住坐臥以此事爲念通達忽覺夢深自傳心要至今諸三世諸佛心源不疑天下老和尚舌頭實相似如合符節豈可歎哉余遇迷時所修之善根如今拍手可一笑古人謂之覺前々非爲後々位然予滅後有爲涅槃茶毘之儀式規短法度總不可用所以何至父母末世以前直心本無生滅去來之相古人謂之一箇不受人瞞應之主淨名居士謂其施汝者不名福田供養汝者墮三惡道知百

味菓于茶毘之儀式豈可此耳若人以色身莫見我離色身莫求我但須息見可謂四大五蘊不聽性若吾滅後只諷演一返楞嚴神呪即可入火坑一七日可供養洞下僧不可背此旨云

道本無心心名道

若了無心心即道

當見無言所心人

乾坤闕本

村上源氏北畑政卿自贊也有田丸廣泰寺什物今詳ニスルニ無外逸方大居士ト稱スハ北島杜親ノ法号ナリ淨眼寺ヲ先考北島政卿高德院眞通先天大居士追薦ノ爲ニ創建ス處ハ傳記ノ如シ然ルニ前ノ無外逸方ト題ノ遺言ノ與ニ北島政卿自贊トスハ恐ハ謬傳ナリ勢陽要義ニ後人ノ謬記ス處成ヘシ然レモ勢陽雜記北島系譜ニ政卿法名逸方材親法名心江ト載ス故ニ諸本及淨眼寺僧松坂府教王山來迎寺ノ縁起ニ永正十四年丁丑年十一月十三日逝ス淨眼院殿無外逸方大居士ト號スト號セリ既ニ他ノ皆ヲ容ルニ及ハス 多氣窓螢曰ひかし嵯峨の御時大師手か、せ玉ひける事をあざかのみろく佛さこしめしやがて天皇の御夢にいらせ給ひみろく院の額の事ねかひ給ひき天皇安きほどの御事かなとてやがて大師に仰こと有りいせの極樂西天東光彌勒院といふ額は出來たり此額忠盛朝臣とりて内佛とわかめし清盛の世に都に入り一條通にみろく院立て此額かゝりたりやがて焼ければ重盛申こととして伊勢にたくりかへしぬと見たり其後いかゝなりしにや今のみろく院は後醍醐天皇の宸翰なり大師の額は平家の人

忠盛の墓に埋めて菩提とひしともいへり 今詳ニスルニ大阿坂小阿坂二邑ニ彌勒院ト稱ス舊址詳ナラス淨眼寺ハ永正中ノ創建ナリ忠盛ノ墳墓ハ多氣郡河田ノ地ナリ後號ニ詳ニセリ淨眼寺傳記ニ太神ノ血脉ト稱ス景德寺ニ龍天明神ノ血脉ト稱ス各同名ノ法諱神議アリ孰淨屠氏ノ常談ニ本州ノ諸刹神明ヲ罵謗ル多シ各其條ニ標出ス其微意ハ神明ニ托ノ其佛威法力ヲ益ントノ意ニシ後季ニ嘲ヲ遺スモノナリ寒山拾得ヲ彫スルノ香合ニテ識量スヘシ禪法學流ノ寒山詩集等ヲ賞誦スルヲ以テ吾荷負スル物ヲ什藏ス其例古昔多シ丹波州瑞岳所著ノ元亨釋書便蒙曰昔在法燈國師在采時一日登天台山至石橋忽有異童持藕絲袈裟來授師條爾不見師歸朝欲果入宋之所願一日持此衣謁于皇太神宮殿戶自謂師直上與神對談依神請而納衣于宮去具見法燈年譜後經百二十餘年永德二年閏正月十日東福國師之五轉別峯禪師詣太神宮而後寓御山蓮臺寺數月矣爰有神官檜垣貞昌一夜太神宮告曰備藏秘心地上人付我衣以與別峯焉貞昌疑其恍惚未爾神再告之貞昌大驚集九人神官評議既定捧衣 并 龜甲集襪來蓮臺寺授之峯相傳添隻襪者留其片於于神宮有后世之疑則以之爲符合也同年八月二日峯被此衣而而詣神廟于時外宮殿戶自啓有神化容出來蟠于峯師之衣神官驚還遽以忽挑衣依此奇端頓請令入殿內師念誦了退化容亦隱 云云具見鼓山大隨之記其衣襪及神官相傳之印牒今尙在于東福寺之莊嚴院凡テ安濃郡圓明寺桑名郡大福田寺度會郡欣祥寺等ノ寺傳ト雷同セリ端疊所謂貞昌

大驚集九人神官實ニ然リ後二條天皇嘉元二年十員ノ禰宜ヲ始テ置ル永德二年ニ至リ七十八年前ナリ又員昌長官在任ハ應永六年ヨリ同十一年ニ解官ス永德二年ヨリ十八月後ナリ是モ在世ノ時ナリ其所傳能合ヘリ然レモ詳ニスルニ檜垣ノ稱号ハ後世ニ係レリ度會ハ本系ニノ公卿ノ姓氏ヲ稱スカ如ク今ト異ナリ禰宜補任及禰宜至要集等ニ詳ナリ其別峯ニ所傳ハ中世澆季ノ政行レテ太神宮ノ禰宜佛ニ淫スル者峯アリ若ハ神寶裝束ノ故物ヲ何ノ意モナク僧從ニ與ヘタルヲ此物掌裡ニ有スルヲ以テ妄誕ヲ設テ俗ヲ惑スナルヘシ偏者妄ニ此言ヲ舉ルハ神ニ媚ルニ非ス佛ヲ誦ルニ非ス緇徒ノ雜駁ノ世俗ヲ誣ルヲ惡ム眞ニ稽古ノ一端ナリ看官嘲ルト勿レ其微志ヲ同クセハ慶幸ノ至ナリ

阿坂城址 同處ニ二墟アリ淨眼寺ヨリ十五町山嶺ニアリ方俗白米城ト稱ス又山下ニ一處アリ各別ナリ此北ニ駒立方尾ト稱ス嶺アリ高岳ナリ白米城升形ヨリ四方ヲ眺望ス 乾位 矢頭山 森本村 福田池布引山 篠立山 カマカ岳 多度山 長位 阿濃津 入江 辛崎 笠松大瀨 松崎浦 大口浦 巽位 松坂 カメシマ 荅志 朝熊岳 坤位 吉野日記應永十九年八月主上位ヲ讓ル稱光院ト稱シ奉ル時ニ至テ南帝後龜山法皇ノ太子寬成親王即位ノ望有トイヘモ武家はヲ舉テ用セス故ニ伊勢國司及和州紀州河州奥州ノ兵士南朝ニ志アル族ハ悉ク是ヲ訴ヘ背ントス應永二十一年先頃南帝ノ皇十二位ヲ讓サルニ依テ伊勢國司北畠滿雅

鬱憤ヲ含テ武家ニ背テ軍士ヲ聚ノ所謂關左馬助其一黨神戶岸岡國府鹿伏兔等其外和州伊州勢州志州ノ兵士悉ク驅催ス然レ北島俊泰坂内城主而已武家ニ背カス 又應永二十二年ノ春三月北島滿雅兵ヲ發シ坂内ノ城ヲ攻ル時ニ城主俊泰京ニ在リ故家僕共拒戰トイヘニ滿雅急ニ攻戰フ城内ニ將ナク一決セスノ遂ニ陥ル爰ニ於テ國司阿佐賀ノ城ニ居ノ其弟雅俊木造城ヲ守ル顯雅大河内城ヲ守ル其外多氣坂内玉丸等ノ諸城ヲ兵士ヲソ守シム加之北伊勢ノ諸城關ノ一黨樞籠ル漸ク國中ヲ平ケント欲ス武將義持是ヲ聞テ土岐左京大夫持益ニ命ノ北島俊泰世保大膳大夫康政仁木右馬頭滿長長野雲林院等ノ軍勢ヲ差副勢州ニ發向ノ先土岐持益拜野ノ城ヲ圍テ攻戰フ城兵拒トイヘニ力竭キ城ヲ拔ク且木造城ヲ攻ル雅俊防戰ス京勢ヲ數輩討捕トイヘニ戰苦ミ雅俊城ヲ退去ノ坂内ノ城ニ入ル爰ニ至テ俊泰己方在京ノ居城ヲ拔レシ會稽ノ耻辱ヲ雪テ城ヲ探テ則守ル同四月京師ノ軍士一手ニ成テ阿佐賀ノ城ヲ拒ム國司滿雅能ク拒テ寄勢ヲ軍術ヲ廻シ悉ク斬戮ス是ヨリ先滿雅ノ兵士垂水鳥屋尾方穗朴木等ヲ岩田川雲出川ニ發ノ京師ノ勢ヲ防戰ノ頗ル多首級ヲ得タリ又今德神原八田天華寺曾原船江波瀬岩内大淀玉丸等ノ諸城へ軍士ヲ分ケ堅ク守ル皆諸城ニ峻岨ノ地輒ク攻破ルヲ不能京勢徒ニ日ヲ經ル城兵敵ヲ緩ムヲ見テ夜討シ敵ヲ勃カス故攻屈シ殆ト勢ヲ引退ントス然レ京師ノ諸軍將計策ノ阿佐賀城ノ水ノ手ヲ察ノ是ヲ塞テ兵士ヲ守シム因茲城兵既ニ勞セシト欲ス時ニ

滿雅智計ヲノ城内ノ高キ處ニテ馬ヲ白米ヲ以テ是ヲ洗フ敵遙ニ見テ水飽マテアリト知テ水ノ手ノ守ヲ解ク故ニ水ノ難ヲ遁レ城ヲ固ク守ル 一本云北島長臣鳥屋尾石見守重雅智畧ニノ白米ヲ用テ馬ヲ浣ヒ欺ト云是ヨリ白米城ト稱ス名所圖會ニ鳥屋尾重澄ニ作リ將軍義滿諸將ニ命ノ擊シムト云古屋草紙ニ城主大宮入道父子トス 今詳ニスルニ前ニ吉野日記鳥屋尾某防禦ノ時ハ應永中ニノ國司滿雅ノ所築ナリ又伊勢軍記大宮入道合忍齋所築ハ永錄年中ニノ國司具教治世ニアリ諸書ニ混駁セリ 雜記所載永錄十二年八月廿日織田信長七万餘騎ノ兵ヲ率ノ本州ニ發ス桑名郡ニ逍遙ノ慮ヲ養テ南方ノ機ヲ量リ同廿三日瀧川一益及關一黨ニ命ノ藤方慶由入道方小森上野城ヲ圍ミ織田掃部介及工藤ニ命ノ奥山常陸介今德城ヲ拒ミ諸軍ヲ率テ一志郡木造城ニ入ル休憩ノ間評議ノ同廿六月柘植三郎左衛門尉源淨院ヲ教導トノ南方ニ入ル八田ノ城大田和兵部少輔是ヲ拒ントス織田ノ軍ヲ量リ得ス故ニ默止ス信長使令ニ命ノ阿坂岩内ノ二城ニ和親セント告ク岩内ハ大河内城北島ニ屬スト答フ阿坂城ヲ擊ツ城主大宮入道及男大之丞同九兵衛尉沼田某澤大炊介河合三郎兵衛尉樺尾横山某以下淨源寺及民屋ヲ放火ノ織田ノ軍ヲ待ツ豊臣秀吉先鋒ニ進テ大ニ戰フ城兵堅固ニ拒戰フトイヘニ城中山上ノ柵ニノ用水ニ殆盡ク故城兵渴シ勞レテ危キ處大宮カ臣源五左衛門尉同條介以下虎狼ノ心ヲ起ノ鳥銃ノ藥ニ水ヲ濯キテ城ノ陷ノヲ約ス故ニ大宮兵部少輔入道合忍齋降テ開城ノ

退ク信長瀧川一益ニ命ノ城ヲ守シメ自ラ軍ヲ率テ南方ニ趣ク詳ニ伊勢兵亂記ニ載タリ 信長記卷二云永録十二年信長卿伊勢國ニ發向有ヘキトテ同八月二十日ニ岐阜ヲ立テ其日ハ桑名ニ着玉フ其ヨリ山野ノ雜易ヲ御覽シガテラニ鷹狩ナトシ玉ヒツ、二十三日木造城ニ御着有テ一兩日軍評議有テ淺香ノ城ヲ責玉フ先陣木下藤吉郎秀吉推ヨセ時ヲ作り懸責ケレハ城中泳ヘ難クヤ思ヒケン頻ニ佗言ノ開退ク間瀧川左近カ手ノ者モヲ入置ヘシトテ其ヨリ國司父子一處ニ楯籠タル大河内城ヲ攻ラルヘシトテ同二十八日ニ楯寄四方ノ攻口ヲ定メテ七重八重ニ取圍ム中畧城中ニモ聞フル兵多カリケレハ爰ヲ先途ト防戰フ間更ニ落ヘシモ見エサリケリサラハ手立ヲカヘテ攻ヨトテ池町勝三郎丹五郎左衛門尉稻葉伊豫守彼等三人カ手ヘ觸玉ケレハ急キ行テカヘテ攻ント評議ノ相圖ノ時節ニナリケレハ搦手ヨリ攻入ルニ城中ノ兵共汗水ニ成テ防キケル敵味方入亂レ鎗ヲ合セ大刀打ノ火出ハカリ戰シカ叶難クヤ思ケン城ノ大將大宮兵部少輔カ父合忍齋八十歳ナリケルカ髮ヲ剃ヨロボヒ出テ降參ヲ乞ケルニ誠ニ其様哀ニ見エケレハ此上ハトテ身命ヲ助ケ城ヲハ請取テ財寶以下モ無恙大和國ヘ送リ遣ハシ玉ヒケリ 今稽ルニ前條伊勢軍記ノ説ト大ニ異ナリ阿坂城ハ大宮入道ニ從フヘシ大河内城主ハ前ヨリ國司家ノ別府ニシテ多氣ニ傲ヒテ國司具教信意父子ノ府城ナルヲ明ナリ何ソ城主太宮入道合忍齋ナルヲ得シ凡テ信長記ハ本州ノ事蹟ニ於ル甚疎ナリ故ニ混駁ノ僻

説タルヲ知ヘシ尙飯高郡大河内ノ條ニ詳ニセリ

東明山景德寺 同處ニアリ禪宗 此寺竜天明神ノ位牌ト稱スルヲ安セリ前號淨眼寺ノ大神ノ尊牌血脉ト並稱スト法名同シ

美濃田 小阿坂ノ巽位ニアリ 正稅千二百八十五石紀州松坂領ナリ 屬邑上ニ出八田ノ小字アリ 俚諺安濃郡民太郷和名類聚ノ所載此處ナリトス今稽ルニ安濃郡ニ係リトスハ非ナリ飯高郡界ニ所居ニシテ安濃ニ大ニ地ヲ隔タリ安ナリ民太ミノタ美濃田ノ名同シ後世ニ字ヲ換タルナリ 北畠國永集曰卯月三日みのたといふ所を通るとて馬上に時鳥を聞て 駒どめてまつほともなし玉鋒の道のゆく衛の山ほとゝさす

八幡祠 同處ニアリ高二石二斗六升二合紀州領ヨリ免許アリ

黒野 大阿坂ノ良位ニアリ 正稅千四百二十三石八斗五升五合民家六十八戸紀州松坂領三百二十二石六斗七升民家十戸津領ナリ 屬邑池邊アリ舊名畔野ナルヘシ畦モ同シクロト訓ス今轉ノ稱スナリ 神鳳抄云外宮北黒野御厨外宮南北黒野御厨八十丁二十石四斗 外宮神領目録云北黒野御厨十三石内上分三石六月一石九十二一石宛南黒野御厨同前 上ノ庄 黒野ノ巽位ニアリ 正稅七百十石五斗八升七合民家五十六戸紀州松坂領六百石民家四十戸津領ナリ 雜記所載天正十一年八月十一日飯高郡船江ノ住士本田彦之丞歩卒二十人

ヲ率ノ上庄ニ到リ年貢徴納ノ事ヲ償ルニ民家ニ入テ人質ヲ捕フ本邑ハ大宮大之丞同九兵衛尉カ領ナリ其臣此由ヲ聞テ狼籍ヲ制ス本田不聽故ニ諍論ス其從弟本田左京亮是ヲ聞テ上ノ庄ニ到テ戰ントス左京カ婿生駒次郎介船江ニアリ駈テ上庄ニ到リ和親セシメントスルニ日暮ニ及ケレハ生駒箭ニ中テ死ス信雄ノ外戚生駒半左衛門尉カ嫡ナリ船江ノ士山邊吉六郎モ死ス本田左京憤リ翌十二日一族與力ヲ促シ上ノ庄ニ到リ大宮ヲ擊ツ津川玄蕃頭コレニ與ス大宮カ家士等上ノ庄ヲ退キ黒野ニ到ル山邊彦兵衛尉民家ヲ放火シ直ニ黒野ヲ攻ム黒野ハ北畠ノ北ノ臺六角家息女ノ領ナリ故ニ尼御所和親ヲ扱ヒ大宮カ臣闘爭ノ棟梁ニ三人リ誅ス本田左京亮猶怒ヲ不止ノ翌十三日高橋孫兵衛尉吉田十介ニ令ノ本田彦之丞ヲ殺害セリ左京亮カ伯父式部丞カ嫡子ナリ伊勢兵亂記ニ摘意テ録ス云云 今詳ニスルニ黒野及上ノ庄等其舊領ノ地及山邊某ハ河曲郡神戶家ノ舊臣ナリ後ニ本田氏ニ屬ス其徴ヲ標セン爲ニ闘論ノ小事ヲ舉テ記セリ

中ノ庄 上ノ庄ノ東ニアリ 正稅千六百六十二石紀州松坂領ナリ 下ノ庄同郡一志堀ノ内ノ隣比ニアリ然レモ地ヲ隔テ又遙ニ北ニアリ下ノ庄ト稱難キ似リ然レモ上中庄存ノ下ノ庄無キハ得難シ市場ノ庄其東ニアリ中庄ト犬牙ノ地ナリ下ノ庄ト舊名ニ稱スヘキヲ今官道ニ有ノ市廓ノ意ニシ市場ノ名ヲ冒ナルヘシ

市場ノ庄 中ノ庄ノ東官道ニ民居ス 正稅七百四十二石紀州松坂領ナリ 前ニ臆斷ス下ノ庄ノ轉ノ市場ト稱スナルヘシ然モ鴨長明伊勢記ニ三渡ノ涉口ヲ載テ鹽滿と、のひぬればこゝらをはねわたらて猶遠くめぐりて市場といふ處を渡るなり云云市場ノ名モ舊シ

松ケ嶋 市場庄ヨリ東海瀨ニアリ須川驛ヨリ六軒茶屋新田ニ出堤ヲ下リ本邑ニ至ル松坂府ヨリ東一里三渡川ノ南厓ニ居ス今俗松崎ト稱ス民家七百餘戸又新松ケ嶋アリ飯高郡ニ謀レリ公牒ニ松崎浦ト載ス 正稅五百廿七石紀州松坂領ナリ 屬邑 長泉寺 丸ノ内本邑ノ南ニアリ 奈久里本邑ノ坤位ニアリ 外宮神領目錄云外宮松崎御厨九月五斗當時御贄松崎浦鳥目二百文

松ケ嶋城墟 同處ニアリ字ヲ丸ノ内ト稱ス本邑ノ巽位ニアリ 雜記所載天正八年北畠信雄ノ居城度會郡田丸城燒亡セシニヨリ此地ニ城ヲ築ク舊名細頸ト稱ス故ニ細頸城ト名ク五重ノ殿守ヲ揚テ居セリ天正十年織田信長明智日向守カ爲ニ弑セラル秀吉ハ光秀ヲ滅シ信雄ハ尾張州清須城ニ遷ル此城ハ其臣津川玄蕃頭ニ給ノ居ラシム天正十二年三月三日瀧川下總守ニ給リ居セシム伊賀州ヨリ移居ス然モ津川カ殘黨津川謙入以下拒テ城ヲ退ス木造左衛門佐ニ命ノ擊シム津川彌太郎以下ヲ百餘人討テ其黨ヲ退カシム瀧川下總守居ス日置大膳亮與力ノ城ヲ守リ警ム其時信雄豊臣秀吉確執アリ木造左衛佐ハ戸木城及小倭諸士岡村修理ハ奥佐田

城本田左京亮ハ飯高郡船江城日置大膳亮同次大夫ハ飯高郡七日市城神戸與五郎ハ神戸城佐久間甚九郎ハ鈴鹿郡峯ノ城國府次郎四郎同郡同府城天野周防守ハ桑名郡長嶋城土方河内守ハ三重郡菰野城其餘千草楠持福濱田上ケ木等織田信雄ニ屬ス田丸中務大輔ハ田丸城九鬼大隅守澤源六郎秋山右近大夫芳野宮内少輔織田上野介等ハ豊臣秀吉ニ屬ノ各所領ノ城ニ籠居セリ秀吉自ラ松島城ヲ撃ントス時ニ羽柴秀次 徳川家ト尾州樂田ニ挑戰ヲ聞テ其地ニ發シ松ケ島ハ羽柴美濃守秀長筒井順慶織田上野介信包九鬼大隅守嘉隆田丸中務少輔具直岡本下野守藤堂佐渡守高虎津川謙入以下ノ將兵ヲ命ノ發ス同三月十五日松ケ島城ヲ撃城兵拒戰フ小倭住士井田勝藏森本飛彈守城中ニ與ノ入ントス佐々木半右衛門尉井田ヲ討ツ城將日置大膳亮猛勇ヲ震テ多ク敵ヲ討織田信包城府ノ坊間ニ火ヲ放テ城門ニ遷リ已ニ殿守ヲ燒ントス瀧川カ臣中津志摩助防キ消ス其後城兵夜撃ノ佐々木半右衛門尉ヲ討是ハ同月二日朝飯高郡下村ノ城ヲ撃テ下村仁助ヲ弑ス其憤ヲ散センカ爲ニ佐々木ヲ害ス然ルニ國司ノ臣星合左衛門尉カ女慶法尼和親ノ扱ニヨリ四月下旬ニ瀧川下總守日置大膳亮モ開城ノ尾州清浪城ニ退ケリ其後下總守ハ三重郡濱田城ヲ給ス日置大膳亮ハ 徳川家ニ奉仕卒ニ病死ス松ケ島城ハ蒲生飛彈守ニ給ス天正十六年ニ到リ飯高郡松嶋城ヲ修補ノ遷リ居ス云伊勢兵亂記ニ載蒲生軍記曰氏郷松ケ島ニ封セラレテヨリ爵祿イヨクカハリ武名猶盛ナルハ我家松ノ字ヲ吉

祥トスト云テ四五百森ヲ改テ松坂ト名ケラル今稽ルニ天正十八年六十万石ヲ給フ飯高郡松坂ヨリ奥州會津ニ移居セリ其城地モ此吉例ニ倣ヒテ若松城ト名ク此意ナルヘシ 伊勢戰記所載慶長五年秋上杉景勝逆心ノ由聞ユルニヨリ松坂城主古田兵部少輔重勝同八月十二日辰朔松坂城ヲ進發シ同郡大口浦ヨリ出船翌十三日三州吉田ニ着同處ニ二夜逗留シ次ニ小田原ノ御陣ニ着ケレハ石田治部少輔三成西國勢ヲ催シ津松坂及度會郡岩出城ニ發向ノ由達台徳兵部少輔御暇給リ八月十九日ニ本城ニ歸ル同二十二日三州吉田ニ着ク松ケ島ノ庄官松嶋長右衛門舟ニテ迎ニ參リ八月二十三日未明ニ出帆同日尾張篠島ニ着ク處ニ志州鳥羽ノ城主九鬼大隅守兵部少輔ヲ討ンカ爲ニ海賊數十人ヲ出シケルト聞シカハ其嶋ニテ時ヲ移シ夜半ニ大口浦ニ着ケル其時同日高野山木食上人松坂城ニ來リ大坂ノ味方同意可然由ヲ異見シケル或曰羽柴下總守木食上人二人松坂ニ來リ古田ノ臣古田助左衛門尉ヲ招請ノ異見ヲ進ム助左衛門主人兵部少輔出陣ノ留守ニテ開城スヘキハナシ難キヲ答フ然レハ不日ニ當城モ撃ヘント云古田其議ニ違變ナシ對陣スヘキト約セリ然レハ發向ノナシ 又濃州大垣城主福原右馬介松坂岩出城ニ來テ異見ノ進ムトイヘ不聽然ルニ安濃津城ハ小西攝津守浮田宰相長東大藏大輔增田右衛門尉大谷形部少輔福原右馬介石子掃部介小早川吉川ノ輩脇股ノ臣都合八万八千人ヲ卒ノ攻撃ントス上野城主分部左京亮與力ノ津城ヲ守ル本國ノ様子兵部少輔ヨ



リ關東ニ注進ス陸地ハ難通ユヘニ松ケ島浦水主藤兵衛次郎介善次郎獵師村甚十郎以上四人  
舟一艘ニ乗テ潜カニ注進シ尾州常滑浦ヨリ渡海ノ歸ル九鬼大隅守カ海賊ノ輩飯高郡黒部浦  
ニノ稍ク見答テ三人ヲ虜ニシ志州ニ至リ殺害ス次郎介一人ハ助命シケル其後擾亂謐リテ獵  
師ノ者大事ヲ勤タル功ニ據テ兵部少輔褒美トノ松崎浦屋敷方高三十五石三斗三升獵師村同  
五石五斗七升五合免除ノ案ヲ給ス

今度其地之加子共上下ほねをわたり忠節仕候ニ付爲御褒美松ケ嶋高之内ひかへ分之地子三  
十五石三斗三升之處被下候其分可相心得候以上

慶長五年十一月廿日

場馬勝兵衛判

松崎庄屋

七右衛門

松ケ島ハ所存ナリ獵師村ノ舊案ハ火災ニ燒亡ス上件ノ所載ハ安濃津府城及松坂府城ノ條  
ニ重出ノ詳ニセリ併稽スヘシ

御船倉 同處ニアリ紀州領主ヨリ所置ナリ

寛永十四年御船奉行一人ヲ被置寶曆三年ヨリ松坂奉行兼帶セラレ船手ノ魁首一人當時松嶋  
友右衛門  
同與力二人大船頭二人手代水主五十八人松ケ嶋ニ居住ノコレヲ監掌ス今小頭二人小役人三

人ヲ増加ス 本邑ニ蛭子神祠アリ

北島權少將國永家集曰松ケ嶋にて鶯の聲を聞て

まれにたに梢も見へぬ浦里の軒はをつたふらくひすつ聲  
ほとゝさすを

夏たにもしのふはつ音をまつか嶋や霞のろこに鳴ほとゝさす

古屋草紙云 奈久里聖武天皇行宮ノ地ト録セリ 今稽ルニ何ニ據テ記セルヤ不可知奈久里

ハ今松崎ノ小字ニアリ聖武天皇本州潜行ハ本郡川口ノ關鈴鹿郡赤坂ヨリ三重郡朝明桑名美  
濃州ニ到リ玉ヲ事蹟ハ續日本記ニ詳ナリ前號其條ニ載ス今本邑ハ一志飯高ノ郡界ニアリ南  
方ニ潛幸ノ事曾テ亡シ孟浪也 天神社牛頭天皇森アリナクヨリ一丁乾位ニアリ

久米 市塙庄ノ南官道ニ民居ス 正税二百十三石民家十戸紀川松坂領千三百九十一石五斗四  
升民居六十三戸津領ナリ 風邑瑞竜寺村本邑ノ北ニアリ 本邑舊録所據ナシ古事紀曰天津

久米命此者久米直等ノ祖也又久米直等之祖大久米女命又久米能摩伊乃比賣又曰倭建命平國  
廻行之時久米直之祖名七拳脛恒爲膳夫以從仕奉也ト載テ久米ノ名ハ舊シ往昔久米直等ノ者  
此處ニ居セシニヤ未詳大和州葛城郡ニ同名アリ久米直ハ此ニ係レリ其他州ニ多不問處ナリ

一志及飯高郡塚 本邑ト飯高郡塚本ノ間北位ニアリ

勢陽五鈴遺響一志郡卷之六 大尾

壹百五十八

一九八

